

総合教育科目	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験の授業への展開	備考
				必修	選択			
人間系	文学論	山内 則史	1 2 3 4	2	30	新聞記者として文芸分野を10年間担当。記者時代の体験、過去の記事などを随時紹介する。新聞記事を使って、日々報じられる文学をリアルタイムで確認することで、社会の中にある文学の動向を意識しながら授業を展開する。		
	演劇論	山内 則史	1 2 3 4	1	15	新聞記者として演劇を担当。取材体験と過去の記事を随時紹介し、日々の新聞に掲載される演劇記事でリアルタイムの動きを参照しながら授業を展開したい。		
	雑談と傾聴 ～話すと聴く力～	中野 真也	1 2 3 4	2	30	臨床心理士、公認心理師、日本家族療法学会認定スーパーバイザー・ファミリーセラピストとしての臨床・指導経験から、患者・家族の関係やコミュニケーションを扱う家族療法家として、実務経験を活かしたコミュニケーションの講義を行う。		
	宗教学	東海林 良昌	1 2 3 4	2	30	世界仏教連盟等での国際経験、全日本仏教会WFB日本センター委員として他教団交流を深める中で諸宗教対話を学び、寺院住職、自坊での介護者カフェの主宰、介護者サポートネットワーク・ケアむすび代表、全国介護者支援団体連合会副上智大学グループケア研究所グループケア人材養成講座講師、坂越総合病院倫理委員、塩竈市社福協会の理事を務めながら、介護者支援、孤独孤立支援、人生の最終段階における医療について、宗教者として議論を重ねてきた経験を踏まえ、医療従事者として患者のところに寄り添うということとを皆さんと共に考えていきます。		
	死生学 - 死を通して生を考える -	大園 康文	1 2 3 4	2	30	小児外科からがん治療。さらには緩和医療の臨床現場を経験しており、現在は在宅ケアを中心とした地域医療の実践から臨床死生学の実践を継続している。小児外科や障害者医療の経験からつらい人生を生き抜く知恵を語り、緩和医療や高齢者における終わりの人生の迎え方を語る。		
	法学	森川 伸吾	1 2 3 4	2	30	弁護士としての実務経験から、条文の読み方の解説や事例についてのコメント等において、実務感覚が反映される。		
	日本国憲法	森川 伸吾	1 2 3 4	2	30	弁護士としての実務経験から、事例について講評する際に、実務感覚が活かされる。		
	日本政治経済論	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。		
	マスメディア論	佐藤 伸	1 2 3 4	2	30	新聞記者として、地方記者、海外特派員を経験を生かし、授業の間に、講師が記者として体験したことなどをニュースの裏側に関する話を随時します。また、時事問題を扱うことから、できるだけホットな話題を取り上げたいので、内容が前後したり、入れ替わる可能性があります。時間が許せば、テーマに合った記事執筆体験にも取り組めます。		
	福祉経済学	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。		
アジア諸国の経済・社会・文化	山本 秀也	1 2 3 4	2	30	国際ジャーナリストとしてアジア諸国・地域（中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール）など海外に長く駐在し、現在も中国研究者として中国が地域に与える影響などをテーマとしています。地域研究の出発点となった中国哲学の視点から、現代アジアを見渡し、経済、社会、文化などいずれの領域にもさまざまな形で儒教が影響していることを紐解きます。			
国際関係論	山本 秀也	1 2 3 4	2	30	国際ジャーナリストとして、アジア諸国・地域（中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール）と米国（ワシントン）に長期駐在し、アジアを中心とした国際問題の新聞論評（社説）を執筆する論説委員を務めた。専門分野は現代中国研究と国際安全保障。国際政治、安全保障の理論の基礎理論と有機的に結びつける。			
世界の経済	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。			
国際医療福祉論	後藤 純信	1 2 3 4	2	30	大学や病院等で医師（脳神経外科・臨床神経生理）の知識・技術に関する以下の実務経験を有しており、その経験を生かし授業においては実際事例などを織り交ぜて、「国際医療福祉論」の講義を展開する。			
ボランティア論	中村 哲也	1 2 3 4	2	30	社会福祉協議会ボランティアセンターでの実務経験を活かし、適宜事例を示しながら講義を行う。			
ボランティアコーディネート論	中村 哲也	1 2 3 4	2	30	社会福祉協議会におけるボランティア活動推進業務経験を生かした講義。さらに自身のボランティア活動経験から課題などを生かした講義を展開する。			
手話入門	荒川 涼子	1 2 3 4	2	30	地域の手話奉仕員養成講習会講師、手話通訳者の立場、また障害当事者の立場から、厚生労働省策定手話奉仕員養成カリキュラムを参考に、医療・介護の現場に役立つ手話や知識を教示していく。			
経済の仕組み	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。			
経済の歴史	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。			
専門基礎/学部共通	統計学	島田 直樹	2	2	30	様々な業種の企業、特別地方公共団体、特別民間人において、嘱託産業医としての実務経験がある。産業医は、労働現場において生じる様々な健康問題を解決する際に、必要なデータの収集、解析、解釈などの統計学的手法を用いている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科目にカウント	
	疫学・保健医療統計学	島田 直樹	3	2	30	様々な業種の企業、特別地方公共団体、特別民間人において、嘱託産業医としての実務経験がある。産業医は、労働現場において生じる様々な健康問題に対して、疫学的手法を用いて、原因の解明および対策の樹立を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科目にカウント	
	医療福祉教養講義	沢谷 洋平	1 2 3 4	1	15	青年海外協力隊での活動経験を伝授する。		
	メディカルマナー入門	橋本 光康	1 2 3 4	2	30	航空会社国際線客室乗務員としての勤務経験や、医療機関で各種医療従事者と協働し、患者様接遇、クレーム対応等の実務経験をもつ教員が担当する。国際線客室乗務員時代に身に付けた日本語おもてなしのマナー、世界のマナー・プロトコルの実体験を、グローバルな医療現場での接遇、社会に必要なビジネスマナーを身につけるべく、講義・演習・ディスカッション等に活かしている。		
	総合講義 一超高齢社会で認知症と向き合う	橋本 光康	1 2 3 4	1	15	病院、施設及び専門機関での臨床、勤務経験を有する各教員が臨床又は実務経験を活かして、テーマに沿った授業を展開する		
	公衆衛生学	島田 直樹	1	2	30	産業医は、産業保健を中心として、公衆衛生学の様々な領域に関する知識を活用して業務を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科目にカウント	
	微生物と病気	山岸 裕和	1 2 3 4	2	30	小児科医として日常的に感染症患者の診療を行っている。小児感染症認定医の資格を有する。診療の他、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルスに関する基礎研究も行っている。実務経験に基づき感染症の現状、問題点に関して、分かりやすく解説するとともに、現実的対応について討議する。		
	リハビリテーション概論	橋本 弦太郎	2	2	30	リハビリテーション科医師としての経験を活かし、事例を示しながら学生の理解がより深まる講義を行う。	※専門科目にカウント	
	関連職種連携論	橋本 光康	2	2	30	各教員は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、診療情報管理士、精神保健福祉士、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、生活相談員など各専門職の臨床経験を有する。病院や施設等に勤務する各専門職の資格を有する臨床経験を踏まえた講義を展開する。		
	看護論	林 圭子	1	2	30	看護師、保健師、助産師での実務経験に基づいた講義を展開することにより、イメージしやすい、各看護の専門領域について理解することが出来る。		
ケアマネジメント論	磯 玲子	2 3 4	1	15	介護老人保健施設における支援相談および在宅介護支援事業所における主任介護支援専門員（管理者）としてケアマネジメントに関わった実務経験を踏まえ、事例を紹介することや模擬事例を用いたケアプラン作成の一連のプロセスについての講義を行う。			
ケースワーク論	木村 潤	1 2	1	15	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実際について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。			
保健医療福祉制度論	木村 潤	1	2	30	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実際について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。			
社会福祉学	若林 功	1 2	2	30	専門機関における相談援助（様々な事例における面接・ソーシャルワークの展開、施設内・機関間・地域連携、施設運営等の活動等）について経験を積んだ教員が、相談援助職としての実務経験を踏まえ、各回の講義を照らし合わせ、事例など具体的な情報を加味した講義を行う。			
臨床心理学概論	山下 夏美	2	2	30	公認心理師・臨床心理士の資格を有し、教育領域での実務に従事する教員が、学生が研修や臨床現場で出会う援助対象者の心理について、具体的にイメージできるように、講師自身の臨床経験を活かして講義を展開します。	※専門科目にカウント		
関連職種連携ワーク	橋本 光康	3	1	30	チーム担当教員は、看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・視能訓練士・臨床検査技師・診療放射線技師・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・産業カウンセラー・保健情報管理士等であり、多くの教員が実務経験がある。各チーム担当教員の多くが現場での実務経験があり、グループワークの中では、その経験を交え、学生にアドバイスをし、技術修得に活かしていく。			

	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験の授業への展開	備考
				必修	選択			
	関連職種連携実習	家人 香代	4	1	45	各グループの実習担当教員の多くは、病院や福祉施設等での実務経験を有する。実習担当教員の実務経験や、現場の実習指導者のアドバースにより、学生の討議をより活発にしている。		
	病理学	福澤 龍二	1	1	30	小児科専門医、病理専門医、細胞診専門医、分子病理専門医として国内や海外の大学や基幹病院で豊富な臨床経験をもつ教員が、実務経験を活かし、将来臨床で役に立つように医学の初歩から発展まで含めて講義を行います。		
	機能障害論Ⅰ（循環器・呼吸器・血液）	金子 順子	2	1	30	医師としての臨床経験や研究経験を活かし、最新の知見に基づく講義を行う。		
	機能障害論Ⅱ（脳神経・消化器・内分泌）	松本 政人	2	1	30	医師としての臨床経験や研究経験を活かし、最新の知見に基づく講義を行う。		
	機能障害論Ⅲ（生殖・泌尿器・運動・免疫）	北原 玉依	2	1	30	医師としての臨床経験や研究経験を活かし、最新の知見に基づく講義を行う。		
	機能障害論Ⅳ（精神・小児・老年関連疾患）	石田 徹	2	1	30	医師としての臨床経験を活かし、最新の知見に基づく講義を行う。		
専門	基礎看護学概論	林 圭子	1	2	30	病院での臨床経験、臨床実習指導者および看護部教育部長の経験を踏まえた上で臨床における看護とは何かを伝授することができる。看護師で実際に経験した事象（患者さんとの関わり等）を講義に組み込むことで具体的なイメージをつかむことができ、理解が深まることに繋がる。		
	看護理論	林 圭子	1	1	15	これまでの臨床看護の経験や看護基礎教育の経験を活かし、臨床における看護理論がどのように実践に活かされているのかを講義を通して教授する。		
	看護方法論（看護過程）	石井 容子	2	1	30	担当教員は、病院の看護師、訪問看護ステーション管理者として担当した患者の看護過程を展開した経験がある。臨床経験・看護基礎教育の経験をもとに、担当教員間で共同し、授業方法、事例作成、評価方法などを共有し、学生の個別指導やグループワークの指導を行う。		
	日常生活援助論Ⅰ（環境と清潔）	田代 恵美	1	1	30	看護師として臨床経験を有する教員が、病院での実務で経験した出来事を紹介しながら具体と抽象のつながりがわかるような授業展開をする。感染対策や移送、清潔援助技術については、患者さんの立場に立った援助方法について演習を行う。		
	日常生活援助論Ⅱ（食事と排泄）	林 圭子	1	1	30	病院での臨床看護経験を持つ教員が、病院での実務で経験した出来事を紹介しながら具体と抽象とのつながりがわかるような授業展開をする。食事援助・排泄援助・安全安楽援助は、患者さんの立場に立った援助方法について演習をおこなう。		
	看護技術論Ⅰ（ヘルスアセスメント）	田代 恵美	1	1	30	本科目の指導に関わる教員は、全員臨床で患者に対し看護師として看護を実践している。看護実践に必要な知識と技術、患者への関わり方などが本科目の指導の中で活用される。		
	看護技術論Ⅱ（診療支援技術）	石井 容子	1	1	30	担当教員は、これまでの臨床看護経験や看護基礎教育の経験を活かし、臨床における患者との適切なコミュニケーション方法、技術実践時の観察ポイントおよび観察方法、安全安楽な技術等の教育を行う。		
	基礎看護学実践演習	石井 容子	2	1	30	教員は臨床における看護実務経験者であり、多くの患者、家族、多職種専門職とのコミュニケーションを成立させながら職責を果たした経験がある。実際の臨床現場における経験に基づいた演習を実施する。		
	看護管理学	村岡 亜紀	3	2	30	認定看護管理者の資格と看護管理者実践における理論と実践を交えつつ、医療安全管理者の経験も活かしながら、臨床現場の実践がイメージできるような授業を展開していく。		
	基礎看護学実習Ⅰ（看護援助の基本）	田代 恵美	1	1	45	病院での看護師としての実務経験を生かし、臨床経験での事象を教材化し、具体的事例として取り入れている。臨床の場における行動等について具体的に指導できる。		
	基礎看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）	石井 容子	2	2	90	実習担当教員はこれまでの臨床看護の経験や看護基礎教育の経験を活かし、臨床における患者へのコミュニケーション、観察、臨床推論などを学修する学生の教育を行う。		
	成人看護学概論	金子 順子	2	1	15	看護職としての臨床経験を有する教員が、成人期特有の看護師のあり方、実務内容などを経験知から講義する。		
	急性期看護学方法論	松本 政人	2	1	30	急性期看護学方法論では、教員が急性期医療の現場で培った経験を活かし、急性期看護に必要な知識をわかりやすく学べる内容を提供します。		
	慢性期・回復期看護学方法論	舟木 智恵	2	1	30	成人看護領域の臨床で経験した事例などを踏まえながら、具体的かつ実践的な看護展開に対する解説を加える。		
	がん・緩和ケア看護学方法論	金子 順子	2	1	30	成人看護領域の臨床経験のなかで経験した事例などを踏まえながら、具体的かつ実践的な看護展開に対する解説を加える。		
	急性期看護学演習	松本 政人	3	1	30	急性期での豊富な実務経験を活かし、急性期医療の現場や具体的な事例を提示し、援助技術では臨床現場で実践可能なレベルまで講義する。		
	慢性期・回復期看護学演習	舟木 智恵	3	1	30	成人看護領域の臨床経験のなかで経験した事例などを踏まえながら、具体的かつ実践的な看護展開に対する解説を加える。		
	救急医療とクリティカルケア看護	松本 政人	3	1	15	クリティカルケア領域での豊富な実務経験を活かし、医療の現場や具体的な事例を提示しながら講義を展開する。		
	高齢者看護学概論	松本 明美	2	1	15	医療機関をはじめ高齢者施設での看護の経験が豊富にあり、現も介護予防や認知症の研究等でも高齢者を対象として進める教員が、看護師、社会福祉士、介護支援専門員等の資格も実務経験を活かし、高齢者看護の社会的基盤である福祉的目線やそれらの経験を授業に盛り込み、より社会の求める高齢者看護の能力向上に努めている。		
	高齢者看護学方法論Ⅰ（生活機能を整える看護）	村山 久美子	2	1	30	看護の臨床経験が豊富であり、特に高齢者への看護を重点的に臨床・研究に取り組む教員が、臨床経験を授業に盛り込み、より実践的な高齢者看護の能力向上につなげるようになっている。		
	高齢者看護学方法論Ⅱ（生活・療養の場における看護）	松本 明美	3	1	15	看護の臨床経験が豊富であり、特に高齢者への看護を重点的に臨床・研究に取り組む教員が、臨床経験を授業に盛り込み、より実践的な高齢者看護の能力向上につなげるようになっている。また、老人看護専門看護師、認知症看護認定看護師などの資格をもつ講師の講義も盛り込みながら、高齢者について学びを深めて行く。		
	高齢者看護学演習	松本 明美	3	1	30	看護経験が豊富であり、高齢者看護学分野での研究も積極的に行う教員らが、それぞれの臨床経験をグループワークのファシリテーターとして活用し、より臨床に迫ったシミュレーション教育ができるようになっている。		
	小児看護学概論	高山 裕子	2	1	15	小児医療や母子保健活動における看護師・保健師の実務経験を生かし、事例や具体例を通じた実践的教育を展開する。		
	小児看護学方法論	高山 裕子	2	2	30	小児医療や母子保健活動における看護師・保健師の実務経験を生かし、事例や具体例を通じた実践的教育を展開する。		
	小児看護学演習	高山 裕子	3	1	30	看護師等の資格を有し、病院あるいは地域の母子保健等に携わった実務経験者である教員が、病院での臨床経験等を得た知識や技術を生かした実践的教育を行う。		
	リプロダクティブヘルス看護学概論	北原 玉依	2	1	15	講義担当者は産科での実務経験を活かし、実際のケース等や研究成果を例示しながら、授業を展開する。		
	リプロダクティブヘルス看護学方法論	北原 玉依	2	2	30	科目担当者は産科及び産科混合病棟での実務経験での具体例を講義の中に取り入れながら教授する。		
	リプロダクティブヘルス看護学演習	高瀬 寛子	3	1	30	妊娠婦と新生児のアセスメントやケアに必要な技術の実際を、視聴覚教材や教員の実際の体験などを用いて説明する。またモデル人形を用いて教員がデモンストレーションを行い、学生も体験する。		
	精神看護学概論	石田 徹	2	1	15	メンタルヘルスに関する豊富な経験をもつ看護教員が、講義内容に、臨床現場で出逢った事例と支援の実際を組み込み、理論と実践が結びつくよう教授する。		
	精神看護学方法論	石田 徹	2	2	30	メンタルヘルスに関する豊富な経験をもつ看護教員が、臨床経験を講義等に取り込み、知識と実践の統合が図れるよう分かりやすく教授する。		
	精神看護学演習	堀井 さやか	3	1	30	担当教員は、精神看護に関わる豊富な臨床経験と教育経験をもっている。また精神医療に関連する教育機関や施設とのネットワークを持ち、そこで得られる最新の情報やエビデンスも教育内容、教授方略に取り入れている。臨床事例をとりあげ、知識と実践の統合が図れるよう教授する。		
	地域・在宅看護学概論	荒川 博美	1	2	30	在宅看護分野での看護職（保健師・看護師）の実務経験者で、地域で行われている療養者と家族への支援や地域包括ケア、退院支援等の在宅看護の実務経験を有する教員が、経験に基づく事例等で、より在宅看護の実際をイメージしやすく、また、幅広い観点から対象者理解や看護について授業展開を深める。		
	地域・在宅看護学方法論Ⅰ（生活を支える看護）	秋葉 喜美子	2	2	30	地域・在宅看護学分野での看護職（保健師・看護師）の実務経験者である教員が、臨床経験を活かし、事例や現在の課題を踏まえ、生活を支える看護や看護過程の実際について、幅広い視野から授業展開を行う。		
	地域・在宅看護学方法論Ⅱ（対象別看護）	荒川 博美	3	1	15	地域で行われている療養者と家族への支援や地域包括ケア等の在宅看護の実務経験を生かして、事例を通して具体的な在宅看護の支援方法を教授する実践的教育を行っている。		

授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験の授業への展開	備考
			必修	選択			
地域・在宅看護学演習	秋葉 喜美子	3	1		15	在宅療養者とその家族への看護、多職種連携等の在宅看護の実務経験を基に、より具体的な在宅看護過程や必要な技術等を教授する実践教育を行う。	
生活療養支援実習Ⅰ(介護予防・生活支援実習)	村山 久美子	2	1		45	本授業に関わる教員全員が看護の臨床経験が豊富であり、特に高齢者への看護を重点的に臨床・研究に取り組んでいる。臨床経験を授業に盛り込み、より実践的な看護の能力向上につなげるようになっている。	
生活療養支援実習Ⅱ(周手術期・リハビリテーション看護学実習)	金子 順子	3	2		90	成人看護領域で豊富な実務経験から、受け持ち患者の疾患、治療、看護を結びつけ指導する能力に優れている。実習中の課題についても速やかに対応できる。	
生活療養支援実習Ⅲ(慢性・回復期看護学実習)	金子 順子	3	3		135	成人看護領域で豊富な実務経験から、受け持ち患者の疾患、治療、看護を結びつけ指導する能力に優れている。実習中の課題についても速やかに対応できる。	
生活療養支援実習Ⅳ(施設看護学実習)	松本 明美	3	2		90	本実習に関わる教員全員が看護の臨床経験が豊富であり、特に高齢者を中心とした施設等の看護を重点的に臨床・研究に取り組んでいる。実習の展開には、臨床経験を基にした指導内容を盛り込み、より実践的な高齢者看護の能力向上につなげるようになっている。	
生活療養支援実習Ⅴ(地域療養支援サービス実習)	松本 明美	3	1		45	本実習に関わる教員全員が看護の臨床経験が豊富であり、特に高齢者への看護を重点的に臨床・研究に取り組んでいる。実習の展開には、臨床経験を基にした指導内容を盛り込み、より実践的な高齢者看護の能力向上につなげるようになっている。	
小児看護学実習	高山 裕子	3	2		90	病院あるいは地域の母子保健活動等に携わった実務経験者である教員が、病院等での臨床経験等を得た知識や技術を生かした実践的教育を行う。	
リプロダクティブヘルズ看護学実習	北原 玉依	3	2		90	産科及び産科混合病棟での助産師、看護師の実務経験を基に、女性のライフコースが多様化している状況に合わせて教授する。	
精神看護学実習	石田 徹	3	2		90	看護に関与した豊富な臨床経験をもつ教員が、精神看護の知識と技術の統合が図れるよう、病院や地域での施設での臨床指導者と連携をとりながらわかりやすく教授する。	
地域・在宅看護学実習	荒川 博美	3	2		90	担当教員は、地域で行われている療養者と家族への支援や地域包括ケア等の在宅看護の実務経験を生かし、実習を通して具体的な在宅看護の支援方法やあり方を教授する実践的教育を行っている。	
看護管理学演習	村岡 亜紀	4	1		30	看護を取りまく社会情勢や保健医療制度の変革の中で、看護管理者として長年実践してきた経験を持つ。認定看護管理者の資格と看護管理実践における理論を交えつつ、臨床現場の実践がイメージできるような授業を展開していく。	
国際看護学	高山 裕子	4	1		15	国際看護活動の経験者である各担当者がそれぞれの経験を生かした講義を行い、グローバル化社会における国際看護や異文化看護の課題へと展開を図る。	
家族看護学	北原 玉依	2	1		15	担当教員は、在宅における家族看護実務経験者である教員が、家族看護の実際について、病院や地域・在宅で実際に体験した事例などを用いて説明する。	
看護倫理学	村岡 亜紀	2	1		15	担当教員は、大学病院で看護管理者として、病棟管理(内科系・外科系・感覚器病棟)、管理部門(看護認定人入室、情報担当、医療安全管理者:ジェネラルリスクマネージャー)等に従事し、日本看護協会認定看護管理者の資格等、体系的な知識を用い、実践の倫理場面に活かしてきた実務経験を持つ。臨床現場における倫理的意思決定等の実務経験を活かし、授業に展開する。	
災害看護学	村岡 亜紀	4	2		30	担当教員は、東京都指定災害拠点病院で長年看護師長として従事、院内の災害対策委員会や病院災害医療マネジメント部のDMAT隊員等とともにSTART法やPAT法等、災害対策に関する講習会の企画・運営に関わり、医療安全管理ジェネラルリスクマネージャーの実務経験を有する。実務経験を生かし、トリアージ方法、人為的災害と自然災害の違い、実践的に看護師として災害時に必要な知識と行動を重点的に展開する。	
公衆衛生看護学概論	家入 香代	1	2		30	行政保健師としての経験を活かし、公衆衛生看護活動の基礎となる概念・理論・方法・技術等について、事例を提示しながら教授する。	
公衆衛生看護学方法論	桑野 美夏子	4	2		30	保健師・看護師として、地域で暮らしやすさに対する支援の実務経験を基に、具体的な公衆衛生看護における個人・家族・集団の支援方法を教授する実践的教育を行っている。	
対象別保健活動論Ⅰ(発達段階別)	松永 洋子	4	2		30	公衆衛生看護分野の行政保健師としての実務経験を基に、事例を通して具体的な公衆衛生看護の支援方法を教授する実践的教育を行っている。	
対象別保健活動論Ⅱ(障害別)	松永 洋子	4	1		15	公衆衛生看護分野の行政保健師としての実務経験を基に、事例を通して具体的な公衆衛生看護の支援方法を教授する実践的教育を行っている。	
地域診断論	松永 洋子	3	1		30	保健師として、地域診断を基に公衆衛生看護活動を展開してきた実務経験を基に、地域診断の具体的な展開方法を教授する実践的教育を行っている。	
健康教育論	桑野 美夏子	3	2		30	地域で健康教育を実施してきた保健師・看護師の実務経験を基に、効果ある健康教育の理論・技術を教授する実践的教育を行っている。	
産業保健論	松永 洋子	2	1		15	保健師経験を基に、働く世代の健康問題と労働衛生施策、産業看護(主に保健師)の果たす役割について教授する。	
学校保健論	桑野 美夏子	2	1		15	公衆衛生看護分野の保健師・養護教諭としての実務経験を基に、事例を通して具体的な公衆衛生看護の支援方法を教授する実践的教育を行っている。	
健康危機管理論	桑野 美夏子	3	1		15	地域で公衆衛生看護活動を実践してきた実務経験者が、実務経験を盛り込みながら、危機発生時の法的根拠、保健活動の機能・役割をおさえ、具体化できるように演習を交えて、教授する。	
公衆衛生看護管理論	家入 香代	4	2		30	行政保健師としての経験を基に、公衆衛生看護活動の基礎となる概念・理論・方法・技術等について、事例を提示しながら教授する。	
公衆衛生看護学特論	松永 洋子	4	1		30	公衆衛生看護分野での実務経験を基に、具体的な公衆衛生看護を教授する実践的教育を行っている。	
公衆衛生看護学実習	松永 洋子	4	4		180	実際の公衆衛生看護活動に携わった実務経験を基に、実習を通して具体的な公衆衛生看護の支援方法やあり方を教授する実践的教育を行っている。	

卒業要件単位	124	単位
実務経験のある教員等による授業科目	156	単位

総合教育科目	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験の授業への展開	備考
				必修	選択			
人間系	文学論	山内 則史	1 2 3 4	2	2	30	新聞記者として文芸分野を10年間担当。記者時代の体験、過去の記事などを随時紹介する。新聞記事を使って、日々報じられる文学をリアルタイムで確認することで、社会の中にある文学の動向を意識しながら授業を展開する。	
	演劇論	山内 則史	1 2 3 4	1	1	15	新聞記者として演劇を担当。取材体験と過去の記事を随時紹介し、日々の新聞に掲載される演劇記事でリアルタイムの動きを参照しながら授業を展開したい。	
	雑談と傾聴～話す力と聴く力～	中野 真也	1 2 3 4	2	2	30	臨床心理士、公認心理師、日本家族療法学会認定スーパーヴァイザー・ファミリーセラピストとしての臨床・指導経験から、患者・家族の関係やコミュニケーションを扱う家族療法として、実務経験を活かしたコミュニケーションの講義を行う。	
	宗教学	東海林 良昌	1 2 3 4	2	2	30	世界仏教徒連盟等での国際経験、全日本仏教会WFB日本センター委員として他教団交流を深める中で諸宗教対話を学び、寺院住職、自坊での介護者カフェの主宰、介護者サポートネットワーク・ケアむすび代表、全国介護者支援団体連合会副会長、上智大学グリーンケア研究所グリーンケア人材養成講師、坂総合病院倫理委員、塩竈市社福協議会理事を務めながら、介護者支援、孤獨孤立支援、人生の最終段階における医療について、宗教者として議論を重ねてきた経験を踏まえ、医療従事者として患者の心に寄り添うということと皆さんと共に考えていきます。	
	死生学 - 死を通して生を考える -	大園 康文	1 2 3 4	2	2	30	小児外科からがん治療、さらには緩和医療の臨床現場を経験しており、現在は在宅ケアを中心とした地域医療の実践から臨床死生学の実践を継続している。小児外科や障害者医療の経験からつらい人生を生きてのびる知恵を語り、緩和医療や高齢者における終わりの人生の迎え方を語る。	
	法学	森川 伸吾	1 2 3 4	2	2	30	弁護士としての実務経験から、条文の読み方の解説や事例についてのコメント等において、実務感覚が反映される。	
	日本国憲法	森川 伸吾	1 2 3 4	2	2	30	弁護士としての実務経験から、事例について講評する際に、実務感覚が活かされる。	
	日本政治経済論	光山 奈保子	1 2 3 4	2	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
	マスメディア論	佐藤 伸	1 2 3 4	2	2	30	新聞社の記者として、地方記者、海外特派員を経験を生かし、授業の合間に、講師が記者として体験したことなどをニュースの裏側に関する話を随時します。また、時事問題を扱うことにより、できるだけホットな話題を取り上げたいので、内容が前後したり、入れ替わる可能性があります。時間が許せば、テーマに従った記事執筆体験にも取り組めます。	
	福祉経済学	光山 奈保子	1 2 3 4	2	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
アジア諸国の経済・社会・文化	山本 秀也	1 2 3 4	2	2	30	国際ジャーナリストとしてアジア諸国・地域（中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール）など海外に長く駐在し、現在も中国研究者として中国が地域に与える影響などをテーマとしている。地域研究の出发点となった中国哲学の視点から、現代アジアを見渡し、経済、社会、文化などいずれの領域にもさまざまな形で臨感が影響していることを理解します。		
国際関係論	山本 秀也	1 2 3 4	2	2	30	国際ジャーナリストとして、アジア諸国・地域（中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール）と米国（ワシントン）に長期駐在し、アジアを中心とした国際問題の新聞論評（社説）を執筆する論説委員を務めた。専門分野は現代中国研究と国際安全保障。国際政治、安全保障の時論を国際関係の基礎理論と有機的に結びつける。		
世界の経済	光山 奈保子	1 2 3 4	2	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。		
国際医療福祉論	後藤 純信	1 2 3 4	2	2	30	大学や病院等で医師（脳神経外科・臨床神経生理）の知識・技術に関する以下の実務経験を有しており、その経験を生かし授業においては実際事例などを織り交ぜて、「国際医療福祉論」の講義を展開する。		
ボランティア論	中村 哲也	1 2 3 4	2	2	30	社会福祉協議会におけるボランティア活動推進業務経験を生かした講義。		
ボランティアコーディネート論	中村 哲也	1 2 3 4	2	2	30	さら自身のボランティア活動経験から課題など生かした講義を展開する。		
手話入門	荒川 涼子	1 2 3 4	2	2	30	地域の非営利福祉活動推進員、手話通訳者の立場、また障害者支援センターの立場から、厚生労働省策定手話専任員養成カリキュラムを修了し、医療・介護の現場で役立つ手話や知識を教示している。		
経済の仕組み	光山 奈保子	1 2 3 4	2	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。		
経済の歴史	光山 奈保子	1 2 3 4	2	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。		
医療福祉教養講義	沢谷 洋平	1 2 3 4	1	1	15	青年海外協力隊での活動経験を伝達する。		
メディカルマナー入門	橋本 光康	1 2 3 4	2	2	30	航空会社国際線客室乗務員としての勤務経験や、医療機関で各種医療従事者と協働し、患者様接客、クレーム対応等の実務経験をもとに教員が担当する。国際線客室乗務員時代に身につけた日本語のみならず、マナー、世界トップレベルのプロフェッショナルの実験室、グローバルな医療現場での接客、社会人に必要なビジネスマナーを身につけるべく、講義・演習、ディスカッション等が活かされている。		
総合講義 一超高齢社会で認知症と向	橋本 光康	1 2 3 4	1	1	15	病院、施設及び専門機関での臨床、勤務経験を有する各教員が臨床又は実務経験を活かして、テーマに沿った授業を展開する。		
専門基礎/学部共通	公衆衛生学	野元 謙作	1 2 3 4	2	2	30	産業医は、産業保健を中心として、公衆衛生学の様々な領域に関する知識を活用して業務を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科目にカウント
微生物と病気	山岸 裕和	1 2 3 4	2	2	30	小児科医として日常的に感染症患者の診療を行っている。小児感染症認定医の資格を有する。診療の他、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルスに関する基礎研究も行っている。実務経験に基づき感染症の現状、問題点に関して、分かりやすく解説するとともに、現実的対応について討議する。		
リハビリテーション概論	若江 幸三良	1	2	2	30	日本整形外科学会専門医であり、本大学構内クリニックで整形外科診療を行う教員が、過去30年以上の大学病院での臨床実務経験をもち、実際の経験症例を提示する。	※専門科目にカウント	
関連職種連携論	橋本 光康	2	2	2	30	各教員は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、診療情報管理士、精神保健福祉士、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、生活相談員など専門職の臨床経験を有する。病院や施設等に勤務する各専門職の有資格者の臨床経験を踏まえた講義を展開する。		
看護論	林 圭子	1	2	2	30	看護師、保健師、助産師での実務経験に基づいた講義を展開することにより、イメージしやすくなり、各看護の専門知識について理解することができ、		
ケアマネジメント論	磯 玲子	2 3 4	1	1	15	介護老人保健施設における支援相談員および居宅介護支援事業所における主任介護支援専門員（管理者）としてケアマネジメントに関わった実務経験を踏まえ、事例を紹介することや模擬事例を用いたケアプラン作成の一連のプロセスについての講義を行う。		
ケースワーク論	木村 潤	1 2 3 4	1	1	15	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉士を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実際について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。		
保健医療福祉制度論	木村 潤	1 2 3 4	2	2	30	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉士を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実際について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。		
社会福祉学	若林 功	1 2 3 4	2	2	30	専門機関における相談援助（様々な事例における面接・ソーシャルワークの展開、施設内・機関間・地域連携、施設運営等の活動等）について経験を持つ教員が、相談援助職としての実務経験を踏まえ、各回の内容に照らし合わせ、事例的な具体的な情報を加味した講義を行う。		
臨床心理学概論	杉野 珠理	2	2	2	30	臨床心理士、公認心理師の資格を有し、企業、自治体においてカウンセリング業務に従事する教員が、学生が研修や臨床現場で出会う援助対象者の心理について、具体的にイメージできるように、講師自身の臨床経験を踏まえて講義を展開する。	※専門科目にカウント	
関連職種連携ワーク	橋本 光康	3	1	1	30	各教員は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床検査技師・診療放射線技師・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・薬剤師・診療情報管理士等であり、多くの教員が実務経験がある。		
関連職種連携実習	家入 香代	4	1	1	45	各グループの実習担当教員の多くは、病院や福祉施設等での実務経験を有する。実習担当教員の実務経験や、現場の実習指導者のアドバイスにより、学生の討議をより活発にしていく。		
専門基礎	運動学Ⅰ（基礎）	小林 薫	1	1	30	理学療法士として効果的な運動あるいはリスクの回避において、運動学の知識は必要不可欠である。そのため、実務経験から得た知識やスキル、日常のありふれた現象の「なぜ？」を講義に活かす。		
運動学Ⅱ（応用）	小林 薫	1	1	30	理学療法士として効果的な運動あるいはリスクの回避において、運動学の知識は必要不可欠である。そのため、実務経験から得た知識やスキル、日常のありふれた現象の「なぜ？」を講義に活かす。			
運動生理学	小林 薫	1	2	30	理学療法士として効果的な運動あるいはリスクの回避において、運動生理学の知識は必要不可欠である。そのため、実務経験から得た知識やスキル、日常のありふれた現象の「なぜ？」を講義に活かす。			
臨床医学概論	糸数 昌史	2	1	30	急性期、回復期での臨床経験および教員経験に基づくコンテンツを授業の一部で展開。			
内科学Ⅰ（基礎）	前田 眞治	2	1	30	各担当は内科医師として、病院などで診療している。授業内容には内科医師として、臨床場面を加味して講義を展開している。講義の中で患者などの事例を示し、より具体的なイメージを持ちやすくしている。			

	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験の授業への展開	備考
				必修	選択			
専門	内科学Ⅱ(臨床)	前田 眞治	2	1	30	各担当は内科医師として、病院などで診療している。授業内容には内科医師として、臨床場面を加味して講義を展開している。講義の中で患者などの実例を示し、より具体的なイメージを持ちやすくしている。		
	神経学Ⅰ(基礎)	野崎 一朗	2	1	30	脳神経内科医師としての経験を活かし、実例を示しながら学生の理解がより深まる講義を行う。		
	神経学Ⅱ(臨床)	野崎 一朗	2	1	30	脳神経内科医師としての経験を活かし、実例を示しながら学生の理解がより深まる講義を行う。		
	整形外科Ⅰ(基礎)	若江 幸三良	2	1	30	整形外科医師として、過去30年以上の大学病院での臨床実務経験をともに、実際の経験症例を提示する。		
	整形外科Ⅱ(臨床)	若江 幸三良	2	1	30	整形外科医師として、過去30年以上の大学病院での臨床実務経験をともに、実際の経験症例を提示する。		
	精神医学Ⅰ(総論・各論)	古城 慶子	2	1	30	精神科医師として病院での精神科実地臨床を踏まえて、症例を提示しながら、学生の理解が深まる講義を展開している。		
	運動学実習Ⅰ(基礎)	糸数 昌史	2	1	45	理学療法士として、運動による身体の運動学的・運動生理学的変化およびパフォーマンス変化を捉えることは必須のスキルである。また、各種の機器操作やそこから得られる情報を正確に理解しなければならない。そのため、実務経験から得た知識やスキル、機器操作のコツなどを実習に活かす。		
	運動学実習Ⅱ(応用)	糸数 昌史	2	1	45	理学療法士として、運動による身体の運動学的・運動生理学的変化およびパフォーマンス変化を捉えることは必須のスキルである。また、各種の機器操作やそこから得られる情報を正確に理解しなければならない。そのため、実務経験から得た知識やスキル、機器操作のコツなどを実習に活かす。		
	人間発達学	糸数 昌史	2	1	30	理学療法士として、重症心身障害児施設での子どもや両親との関わりの中から得られた経験を基にした内容を学ぶことができる。		
	リハビリテーション医学	橋本 弦太郎	3	1	30	授業内容にはリハビリテーション科医師として、臨床場面を加味して講義を展開している。講義の中で障害者などの実例を示し、より具体的なイメージを持ちやすくしている。		
	スポーツ傷害学	松本 千晶	2 3 4	1	15	急性期総合病院でのスポーツ傷害に対する治療経験やスポーツ現場でのチームトレーナーとして活動した経験を活かし、特に傷害発生後の対応やその後の管理、症状、治療方針、等に関する内容を講義に含める。		
	外科学	吉田 昌	2 3 4	1	15	医師として、病院などで診療をしており、経験や実際の症例などを授業内容に取り入れて講義を展開していく。		
	理学療法概論	糸数 昌史	1	2	30	理学療法士の実務経験を生かし、現場での経験、体験、チーム医療の中での理学療法的位置づけなどを展開する。	PT基礎	
	PTスキルⅠ演習(課題発表・PBL)	糸数 昌史	1	1	30	病院、高齢者施設、小児施設など幅広い分野で理学療法士としての実務経験があり、多くの領域における理学療法の実践について講義およびディスカッションしていく。	PT基礎	
	PTスキルⅡ演習(課題学習・口頭試問)	糸数 昌史	2	1	30	理学療法士として、理学療法評価から問題点を抽出するという一連の過程には必須のスキルである。また、得られた情報を正確に理解しなければならない。そのため、実務経験から得た知識やスキル、コツなどを演習に活かす。	PT基礎	
	病態運動学	石坂 正大	3	2	30	呼吸・循環の疾患を有する患者の運動療法の実務に関わった臨床経験や、運動器系の障害・疾患を有する患者の運動療法の実務に関わった臨床経験をもつ担当教員が、理学療法士の免許取得後に経験した臨床での実務と関連付けを行いながら講義を進行する。	PT基礎	
	運動心理学	渡邊 観世子	1 2 ③ 4	1	15	理学療法士の臨床で患者さんみられる現象やスポーツ現場でのアスリートみられる現象を、運動心理学的な情報処理アプローチの観点からみたとときにどう解釈できるのか、またどう治療に活用できるのかを講義内容に含める。	PT基礎	
	スポーツ心理学	松本 千晶	1 2 3 ④	1	15	理学療法士の臨床は患者さんみられる現象を学習してもらいながら、スポーツ心理学における教育やフィードバックの見解が、実際の臨床での学習にどのように応用することができるのかについて、講義の中に含める。	PT基礎	
	スポーツ医学	松本 千晶	1 2 ③ 4	1	15	理学療法士として、医療現場、スポーツ現場や試合会場におけるサポートでの経験で得た事例や実践内容を授業内へ反映させ、実践的な知識へと結びつける。また、授業に臨場感を持たせる。	PT基礎	
	理学療法評価学	原 毅	2	2	30	急性期医療機関で理学療法士として経験を基に、臨床に必須な理学療法評価に関する知識と技術について講義する。	PT評価	
理学療法診断学Ⅰ(基礎)	小野田 公	2	1	30	理学療法士としての実務経験より臨床現場で必要になる評価技術を指導し、臨床実習などで自立して評価ができるように学修・演習していく。	PT評価		
理学療法診断学Ⅱ(疾患編)	小野田 公	2	1	30	理学療法士としての実務経験より臨床現場で必要になる評価技術を指導し、臨床実習などで自立して評価ができるように学修・演習していく。	PT評価		
理学療法診断学Ⅲ(神経・画像評価学を含む)	沢谷 洋平	2	1	15	理学療法士として総合病院、介護保険領域で実務経験を有する教員が、神経系の働きと疾病、障害との関連や具体的な症状など、実務経験を反映させた授業を展開する。	PT評価		
理学療法診断学Ⅳ(電気診断学)	飯島 進乃	② 3 4	1	15	理学療法士としての臨床経験を踏まえ、学生として知っておくべき筋電図検査に関する基礎的事項について講義を展開する。	PT評価		
動作分析学	屋嘉比 章紘	② 3 4	1	15	急性期病院、回復期病院、介護保険領域での実務経験のある教員、重症心身障害児施設においての実務経験のある教員が、各期での実務経験を活かし、病院での動作分析(主として歩行、起立の基本動作)や在宅での動作分析の知識と経験を授業に展開する。	PT評価		
臨床動作分析学	屋嘉比 章紘	2 ③ 4	1	15	急性期病院、回復期病院、介護保険領域での実務経験のある教員、重症心身障害児施設においての実務経験のある教員が、理学療法士が実際の動作分析を実施する過程を踏まえた講義を展開する。	PT評価		
運動負荷学	伊藤 晃洋	2 ③ 4	1	15	専門理学療法士(心臓/呼吸/糖尿/尿管)検査技術/心電図検定2級/日本循環器理学療法学会 専門会員/日本心臓リハビリテーション学会で急性期病院勤務し、内部障害領域に従事している教員が、スポーツ領域における、運動負荷試験を含む運動機能計測に従事していた教員が、各資格から疾患における基礎知識や運動負荷時の注意点、心電図変化等について授業を展開する。また、内部障害領域における臨床経験を踏まえ、実際の症例の進め方を学習する。	PT評価		
理学療法計測法	広瀬 環	② 3 4	1	15	理学療法士の臨床で用いられる評価は、関節可動域や徒手筋力検査をはじめ、測定をそのベースにしている。臨床でばらつきをみせる原因をどのようにクリアしていけばよいかを総合病院、介護保険領域、介護予防での実務経験のある教員らの臨床の経験に統計的手法をからめながら講義する。	PT評価		
クリニカルリズニング	糸数 昌史	2 ③ 4	1	15	理学療法士として様々な施設での勤務経験のある教員らが、実際に経験した症例をもとに評価や推論のあり方や注意点などを講義する。	PT評価		
高次脳機能障害学	沢谷 洋平	2 ③ 4	1	15	理学療法士として総合病院、介護保険領域で勤務経験があり、その臨床経験を授業資料や説明に反映させている。	PT評価		
物理療法Ⅰ(基礎)	原 毅	1	1	30	医療機関で理学療法士として急性期、回復期、維持期等の患者に対して物理療法を実践した経験を基に、臨床に必須な物理療法に関する知識と技術について講義する。	PT治療		
物理療法Ⅱ(応用)	原 毅	2	1	30	医療機関で理学療法士として急性期、回復期、維持期等の患者に対して物理療法を実践した経験を基に、臨床に必須な物理療法に関する知識と技術について講義する。	PT治療		
運動療法学総論	小野田 公	2	1	30	理学療法士、認定理学療法士、専門理学療法士としての実務経験より臨床現場で必要になる運動療法を指導し、臨床実習などで自立して評価できるように学修・演習していく。	PT治療		
癌のリハビリテーション	原 毅	2 ③	1	15	急性期医療施設にてがん患者に対して実務経験のある理学療法士あるいは看護師資格を持つ教員が、実務経験で得た知識や観察するポイント、実践すべき臨床技能を本科目の受講生に教授する。	PT治療		
生活環境学	遠藤 佳章	3	1	30	所有している理学療法士 認定理学療法士 専門理学療法士 福祉生活環境コーディネーターの視点から対象者の生活環境の問題点を理解できるようにするためディスカッションします。	PT治療		
義肢学	屋嘉比 章紘	3	1	30	急性期病院での実務経験から、特に切断後の管理や義肢装着早期の症状について講義に含める。	PT治療		
装具学	糸数 昌史	3	1	30	教科書レベルにとらわれず、理学療法士として医師と連携して装具の処方および装具を用いたリハビリテーションを実施した経験から臨床でよくみる機会が多い装具や患者像について適宜解説する。	PT治療		
理学療法治療総論	小野田 公	3	1	15	リハビリテーション専門医、認定理学療法士の資格を持つ教員らが、実際の臨床現場から得た知識や疾患特有の症状を講義に活かす。	PT治療		
運動器理学療法Ⅰ(基礎)	石坂 正大	3	1	30	理学療法士として効果的な運動療法あるいはリスクの回避において、運動器および運動器疾患に関わる知識は必要不可欠である。そのため、実務経験から得た知識やスキル、疾患特有の「なぜ?」を講義に活かす。	PT治療		
運動器理学療法Ⅱ(応用)	石坂 正大	3	1	30	理学療法士として、脊髄損傷、TKAなど患者さんを治療する機会が多く、その実務経験を生かし授業を展開する。対象者のニーズは一概ではなく、患者さんを治療するうえで必要な知識と視点を講義で説明する。	PT治療		
神経器理学療法Ⅰ(脳血管)	遠藤 佳章	3	1	30	認定理学療法士(脳卒中)、理学療法士として、急性期および回復期における治療プログラムの実施手順を踏まえた講義を展開する。	PT治療		
神経器理学療法Ⅱ(神経筋)	遠藤 佳章	3	1	30	認定理学療法士(脳卒中)、理学療法士として、神経難病に対する治療プログラムの実施手順を踏まえた講義を展開する。	PT治療		
小児理学療法学	糸数 昌史	3	1	30	理学療法士として、重症心身障害児施設で働いている経験も時に盛り込みながら講義を行う。	PT治療		
循環器理学療法学	伊藤 晃洋	3	1	15	急性期病院の内部障害領域での実務経験と、専門理学療法士(心臓/呼吸/糖尿/尿管)検査技術師(血管)に関する疾患に対する診療技術や知識を有する医療従事者に認定される資格)を心電図検定2級(一般循環器医、循環器動脈ペタンメディカルプロフェッショナルレベル)等の資格を有する教員が、各資格から循環器の各疾患に対する基礎的知識から理学療法に必要な知識・臨床技術まで講義を行う。また、内部障害領域における臨床経験を踏まえ、実際の症例の進め方を学習する。	PT治療		
呼吸器理学療法学	原 毅	3	1	15	急性期、回復期、生活期の医療施設実務経験や、内部障害系専門理学療法士、呼吸認定理学療法士の資格をもつ教員らが、臨床経験による症例・事例を教材内容と関連付けて展開して講義する。呼吸器障害者に対するリスク管理は、実務経験による事例紹介を豊富に展開する必要がある。	PT治療		
代謝理学療法学	石坂 正大	3	1	15	糖尿病の教育入院を病院で担当した経験のある教員らが、運動指導や理学療法評価を授業で展開する。また、身近な日常生活に話題を変えた授業展開としている。	PT治療		
地域理学療法学演習(在宅・地域)	広瀬 環	3	1	30	高齢化が加速する日本において地域理学療法学の知識は必要不可欠である。そのため、理学療法士としての実務経験から得た知識およびスキルを活かし、最新の学術的な知見を基にした説明を組み合わせる。	PT治療		
急性期理学療法学	伊藤 晃洋	2 ③ 4	1	15	理学療法士としての実務経験を参考に、急性期の症例を通して授業の内容を解説します。	PT治療		
スポーツ理学療法学	松本 千晶	2 ③ 4	1	15	チームトレーナーとして、病院やスポーツ競技の現場活動経験から、特に傷害発生後の対応やその後の管理、症状、治療方針、等に関する内容を講義に含める。	PT治療		
スポーツ傷害治療学	小林 薫	2 ③ 4	1	15	理学療法士として、病院やスポーツ競技の活動経験から、特に傷害発生後の対応やその後の管理、症状、治療方針、指導等に関する内容を講義に活かす。	PT治療		
ヘルスポモーション論	伊藤 晃洋	2 ③ 4	1	15	理学療法士として、地方自治体との連携で、地域在住高齢者の体力測定や運動指導に従事する等の経験を有する教員が、地方自治体や各個人が行っているヘルスポモーション活動を授業内容に含める。	PT治療		
産科理学療法学	渡邊 観世子	2 ③ 4	1	15	認定理学療法士、専門理学療法士の臨床的な知識の応用および本講義に関する研究成果について紹介する。	PT治療		
理学療法治療学演習Ⅰ(神経筋促通治療学)	小野田 公	2 ③ 4	1	15	理学療法士等の実務経験より神経筋促通法に必要な技術を指導し、様々な臨床症状に合わせた治療技術を学修・演習を実施していく。	PT治療		
理学療法治療学演習Ⅱ(神経発達学的治療学)	渡邊 観世子	2 ③ 4	1	15	理学療法士として小児施設での臨床経験を持つ教員が、実際の臨床場面の事例を紹介しながら講義を進める。	PT治療		
理学療法治療学演習Ⅲ(マニュアルセラピー関節)	糸数 昌史	2 ③ 4	1	15	理学療法士として軟部組織の問題の評価や介入は日常的であり、その知識をもとに、直接指導を行います。	PT治療		

	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験の授業への展開	備考
				必修	選択			
	理学療法治療学演習Ⅳ (マニュアルセラピー巻柱)	沢谷 洋平	2 ③ 4		1	15	大学関連施設で勤務する理学療法士から、整形、中核、呼吸・循環器疾患の最新の知識と治療手技を習得する。	PT治療
	理学療法治療学演習Ⅴ (マニュアルセラピー徒手)	小野田 公	③ 4		1	15	理学療法士等の実務経験よりマニュアルセラピーに必要な技術を指導し、様々な臨床症状に合わせた治療技術を学修・演習を実施していく。	PT治療
	基礎実習	糸数 昌史	1		1	45	理学療法士としての実務経験に基づき、理学療法士の役割、業務、他職種との関係を説明する。	実習
	検査実習	糸数 昌史	2		2	90	理学療法士として、理学療法評価から問題点を抽出するという一連の過程は必須のスキルである。また、得られた情報を正確に理解しなければならない。そのため、実務経験から得た知識やスキル、コツなどを実習に活かす。	実習
	評価実習	糸数 昌史	3		4	180	理学療法士として、医療福祉施設での実務経験から得た知識やスキルを講義に活かす。	実習
	総合臨床実習	糸数 昌史	4		12	540	理学療法士の実務経験から得た知識やスキルのノウハウを指導内容へ展開し、臨床能力および問題解決能力の向上に努める。	実習
	理学療法特論Ⅰ (基礎)	糸数 昌史	4		2	30	理学療法士としての実務経験から得た知識やスキル、問題解決のノウハウを授業へ展開し、基礎力の向上に努める。	応用PT
	理学療法特論Ⅱ (応用)	糸数 昌史	2 3 ④		2	30	理学療法士としての実務経験から得た知識やスキル、問題解決のノウハウを授業へ展開し、基礎力の向上に努める。	応用PT
	理学療法教育学	小野田 公	2 ③ 4		1	15	教育現場の経験から、相対的な価値観に基づき、専門教育自体が持つ問題点を把握している。したがって、理学療法教育というものに特化しすぎない形で展開することを心がけ、受講者自身に今後の専門教育に新しい発想が生まれてくるような構成を試みている。	応用PT
	理学療法管理学	石坂 正大	2 ③ 4		2	30	理学療法士としての臨床経験を踏まえ、学生として知っておくべき理学療法士を取り巻く法律、リハ関連の診療報酬の問題、組織管理及びリスク管理等のマネジメント等の基本的事項について講義を展開する。	応用PT
	障害者スポーツ概論	飯島 進乃	2 ③ 4		1	15	病院やパラスポーツ競技の現場活動経験から、特にパラスポーツに関わる理学療法士の役割に関する内容を講義に含める。	応用PT
	理学療法国際事情	韓 憲受	1 2 ③ 4		1	15	国際的活動においては相互理解が不可欠である。担当教員による理学療法国際的活動の経験を活用し、国際的相互理解に必要な方法や尺度の相違を盛り込んで展開する。	応用PT

卒業要件単位	126	単位
実務経験のある教員等による授業科目	155	単位

総合教育科目	人間系	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験等の授業への展開	備考
					必修	選択			
社会系	文学論	山内 則史	1 2 3 4	2	30	新聞記者として文芸分野を10年間担当。記者時代の体験、過去の記事などを随時紹介する。新聞記事を使って、日々報じられる文学をリアルタイムで確認することで、社会の中にある文学の動向を意識しながら授業を展開する。			
	演劇論	山内 則史	1 2 3 4	1	15	新聞記者として演劇を担当。取材体験と過去の記事を随時紹介し、日本の新聞に掲載される演劇記事でリアルタイムの動きを参照しながら授業を展開したい。			
	雑誌と傾聴 ～話す力と聴く力～	中野 真也	1 2 3 4	2	30	臨床心理士、公認心理師、日本家族療法学会認定スーパーヴァイザー・ファミリーセラピストとしての臨床・指導経験から、患者・家族の関係やコミュニケーションを扱う家族療法家として、実務経験を活かしたコミュニケーションの講義を行う。			
	宗教学	東海林 良昌	1 2 3 4	2	30	世界仏教復興等での国際経験、全日本仏教会WFB日本センター委員として他教団交流を深める中で諸宗教対話を学び、寺院住職、自坊での介護者カフェの主宰、介護者サポートネットワークの代表、全国介護者支援団体連合会副会長、上智大学グローバルケア研究所グローバル人材養成講座講師、板橋総合病院倫理委員、塩原市社福祉協議会理事を務めながら、介護者支援、孤獨孤立支援、人生の最終段階における医療について、宗教者として議論を重ねてきた経験を踏まえ、医療従事者として患者のこころに寄り添うこととを皆さんと共に考えていきます。			
	死生学-死を通して生を考える-	大園 康文	1 2 3 4	2	30	小児外科からがん治療、さらには緩和医療の臨床現場を経験しており、現在は在宅ケアを中心とした地域医療の実践から臨床死生学の実践を継続している。小児外科や障害者医療の経験からつらい人生を生きるの知恵を語り、緩和医療や高齢者における終わりの人生の迎え方を語る。			
	法学	森川 伸吾	1 2 3 4	2	30	弁護士としての実務経験から、条文の読み方の解説や事例についてのコメント等において、実務感覚が反映される。			
	日本国憲法	森川 伸吾	1 2 3 4	2	30	弁護士としての実務経験から、事例について講義する際に、実務感覚が活かされる。			
	日本政治経済論	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。			
	マスメディア論	佐藤 伸	1 2 3 4	2	30	新聞社の記者として、地方記者、海外特派員を経験を生かし、授業の間に、講師が記者として体験したことなどをニュースの裏側に関する話を随時します。また、時事問題を扱うことから、できるだけホットな話題を取り上げたいので、内容が前後したり、入れ替わる可能性があります。時間が許せば、テーマに従った記事執筆体験にも取り組みます。			
	福祉経済学	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。			
アジア諸国の経済・社会・文化	山本 秀也	1 2 3 4	2	30	国際ジャーナリストとしてアジア諸国・地域(中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール)など海外に長く駐在し、現在も中国研究者として中国が地域に与える影響などをテーマとしています。地域研究の出発点となった中国哲学の視点から、現代アジアを見渡し、経済、社会、文化などいすれの領域にもさまざまな形で儒教が影響していることを紐解きます。				
国際関係論	山本 秀也	1 2 3 4	2	30	国際ジャーナリストとして、アジア諸国・地域(中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール)と米国(ワシントン)に長期駐在し、アジアを中心とした国際問題の新聞論評(社説)を執筆する論説委員を務めた。専門分野は現代中国研究と国際安全保障、国際政治、安全保障の時論を国際関係の基礎理論と有機的に結びつけ、日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。				
世界の経済	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。				
国際医療福祉論	後藤 純信	1 2 3 4	2	30	大学や病院等で医師(脳神経外科・臨床神経生理)の知識・技術に関する以下の実務経験を有しており、その経験を生かし授業においては実務事例などを織り交ぜ、「国際医療福祉論」の講義を展開する。				
ボランティア論	中村 哲也	1 2 3 4	2	30	社会福祉協議会ボランティアセンターでの実務経験を活かし、適宜事例を示しながら講義を行う。				
ボランティアコーディネート論	中村 哲也	1 2 3 4	2	30	社会福祉協議会におけるボランティア活動推進実務経験を生かし、講義を展開する。さらに自身のボランティア活動経験から課題などを生かした講義を展開する。				
手話入門	荒川 涼子	1 2 3 4	2	30	地域の手話ボランティア養成講習会講師、手話通訳者の立場、また障害当事者の立場から、厚生労働省策定手話ボランティア養成カリキュラムを参考に、医療・介護の現場に役立つ手話や知識を教示していく。				
経済の仕組み	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。				
経済の歴史	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。				
自然・情報	疫学・保健医療統計学	島田 直樹	1 2 3 4	2	30	様々な業種の企業、特別地方公共団体、特別民間法人において、嘱託産業医としての実務経験がある。産業医は、労働現場において生じる様々な健康問題に対して、疫学的手法を用いて、原因の解明および対策の樹立を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科目にカウント		
総合系	医療福祉教養講義	沢谷 洋平	1 2 3 4	1	15	青年海外協力隊での活動経験を伝講する。			
	メディカルマナー入門	橋本 光康	1 2 3 4	2	30	航空会社国際線客室乗務員としての勤務経験や、医療機関で各種医療従事者と協働し、患者様接遇、クレーム対応等の実務経験をもつ教員が担当する。国際線客室乗務員時代に身につけた日本式おもてなしのマナー、世界のマナー・プロトコルの実体験を、グローバルな医療現場での接遇、社会人に必要なビジネスマナーを身につけるべく、講義・演習・ディスカッション等に活かしている。			
	総合講義 一超高齢社会で認知症と向き	橋本 光康	1 2 3 4	1	15	病院、施設及び専門機関での臨床、勤務経験を有する各教員が臨床又は実務経験を活かして、テーマに沿った授業を展開する。			
専門教育科目	公衆衛生学	島田 直樹	1 2 3	2	30	産業医は、産業保健を中心として、公衆衛生学の様々な領域に関する知識を活用して業務を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科目にカウント		
	微生物と病気	山岸 裕和	1 2 3 4	2	30	小児科医としての日常的に感染症患者の診療を行っている。小児感染症認定医の資格を有する。診療の他、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルスに関する基礎研究も行っている。実務経験に基づき感染症の現状、問題点についての長年からの経験や見聞を、学生に分かりやすく解説する。実務的対応について討議する。			
	リハビリテーション概論	藤本 幹	1 2 3	2	30	作業療法士としての長年の実務経験を生かし、人々が障害者として生きてきたのか、障害を有する人々の願いが法律や制度にどのように反映してきたのかについて教授する。 ・リハビリテーションの4分野での実務経験を生かし、支援方法(ICF、MTDLP)、記録法(SOAP、F-SOAP)の発展と、その概要について教授する。 ・職業リハビリテーション(就労支援)での実務経験を生かし、支援者として組織に関わるときの自分の使い方(Use of self)の講義、演習を行う。	※専門科目にカウント		
	関連職種連携論	橋本 光康	2	2	30	各教員は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、診療情報管理士、精神保健福祉士、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、生活相談員など各専門職の臨床経験を有する。病院や施設等に勤務する各専門職の有資格者の臨床経験を踏まえた講義を展開する。			
	看護論	林 圭子	1	2	30	看護師・保健師・助産師での実務経験に基づいた講義を展開することでわかりやすく、イメージしやすい、各看護の専門領域について理解することができる。			
	ケアマネジメント論	磯 玲子	2 3 4	1	15	介護老人保健施設における支援相談員および居宅介護支援事業所における主任介護支援専門員(管理者)としてケアマネジメントに関わった実務経験を踏まえ、事例を紹介することや模範事例を用いたケアプラン作成の一連のプロセスについての講義を行う。			
	ケースワーク論	木村 潤	1 2 3 4	1	15	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉士を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実際について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。			
	保健医療福祉制度論	木村 潤	1 2 3 4	2	30	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉士を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実際について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。			
	社会福祉学	若林 功	1 2 3 4	2	30	専門機関における相談援助(様々な事例における面接・ソーシャルワークの展開、施設内・機関間・地域連携、施設運営等の活動等)について経験を有する教員が、相談援助職としての実務経験を踏まえ、各回の内容に照らし合わせ、理論的な具体的な講義を加味した講義を行う。			
	臨床心理学概論	山下 夏美	1 2 3 4	2	30	公認心理師・臨床心理士の資格を有し、教育現場での実務に従事する教員が、学生が研修や臨床現場で出会う援助対象者の心理について、具体的にイメージできるように、講師自身の臨床経験を活かし、講義を展開します。チーム担当教員は、看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・視能訓練士・臨床検査技師・診療放射線技師・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・薬剤師・診療情報管理士等であり、多くの教員が実務経験がある。	※専門科目にカウント		
	関連職種連携ワーク	橋本 光康	3	1	30	各チーム担当教員の多くが現場での実務経験があり、グループワークの中では、その経験を交え、学生にアドバイスをし、技術修得に活かしていく。			
	関連職種連携実習	家入 香代	4	1	45	各グループの実習担当教員の多くは、病院や福祉施設等での実務経験を有する。実習担当教員の実務経験や、現場の実習指導者のアドバイスにより、学生の討議をより活発にしていける。			
専	運動学Ⅰ(基礎)	藤本 幹	1	1	30	作業療法士の実務経験を活かし、作業療法士に必要な運動学の基礎知識を教授する。			

	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験等の授業への展開	備考
				必修	選択			
門 基 礎	運動学Ⅱ(応用)	藤本 幹	1	1	30	発達障害分野の実務経験から、運動学習、正常運動発達について講義する。 自閉症スペクトラムに見られる協調性運動障害への支援経験を生かし、運動学習(運動学習理論、動機づけとパフォーマンス、教示の段階づけ)などの支援への応用の基礎を教授する。 脳性麻痺児の支援経験を生かし、運動発達促進のための反・反応のとらえ方、ポジショニング、ハンドリングの理論と支援方法の基礎を教授する。 また、発達障害児、精神障害者に対する、就労支援の実務経験から、動作分析、作業分析、行為分析の理論とその支援方法の基礎を教授する。		
	運動学実習	平野 大輔	2	1	45	作業療法士として発達障害領域の施設・病院に勤務し、実務に携わった経験から、作業療法士に必要な運動学実習の知識・技術を教授する。		
	運動生理学	関 優樹	2	1	30	回復期リハビリテーション病棟および介護老人保険施設で勤務し、患者、利用者の作業療法を担当する。臨床現場で得た経験、知見をもとに患者の状態像を把握するために必要な基礎知識(生理学、運動学)を教授する。		
	病理学	福澤 龍二	2	1	30	小児科専門医、病理専門医、細胞診専門医、分子病理専門医として国内や海外の大学や基幹病院で豊富な臨床および研究経験と国内外の医学部、保健医療学部での豊富な教育経験。 上記の経験を活かし、将来臨床で役に立つよう医学の初歩から発展まで含めた講義をします。		
	内科学	前田 眞治	2	1	30	授業内容には内科医師として、臨床場面を加味して講義を展開している。 講義の中で患者などの実例を示し、より具体的なイメージを持ちやすくしている。		
	神経学Ⅰ(基礎)	野崎 智仁	2	1	30	脳神経内科医師としての経験を活かし、実例を示しながら学生の理解がより深まる講義を行う。		
	神経学Ⅱ(臨床)	野崎 智仁	2	1	30	脳神経内科医師としての経験を活かし、実例を示しながら学生の理解がより深まる講義を行う。		
	整形外科Ⅰ(基礎)	若江 幸三良	2	1	30	日本整形外科学会専門医(他各種専門医)として、クリニックで整形外科診療を行う教員が、過去30年以上の大病院での臨床実務経験をもとに、実際の経験症例を提示する。		
	整形外科Ⅱ(臨床)	若江 幸三良	2	1	30	日本整形外科学会専門医(他各種専門医)として、クリニックで整形外科診療を行う教員が、過去30年以上の大病院での臨床実務経験をもとに、実際の経験症例を提示する。		
	精神医学Ⅰ(基礎)	山本 直樹	2	1	30	精神科専門医としての臨床経験を踏まえ、事例などを提示しながら授業を展開する。		
	精神医学Ⅱ(臨床)	山本 直樹	3	1	30	精神科専門医としての臨床経験を踏まえ、事例などを提示しながら授業を展開する。		
	リハビリテーション医学	橋本 玄太郎	3	1	30	授業内容にはリハビリテーション科医師として、臨床場面を加味して講義を展開している。 講義の中で障害者などの実例を示し、より具体的なイメージを持ちやすくしている。		
	人間発達学	関森 英伸	1	1	30	医療機関における実務経験に留まらず、保健・福祉・教育領域での実務経験を活かし、ライフステージに応じた人間の発達を学生に理解してもらうために、臨床現場での具体的な例を挙げながら、大切な視点、知識、保護者や家族の思い等を教授し、臨床実習や臨床に繋がる講義に努める。		
	病態生理学	関 優樹	2	1	15	回復期リハビリテーション病棟および介護老人保険施設で勤務し、患者、利用者の作業療法を担当する教員が、臨床現場で得た経験、知見をもとに患者の症状および状態像を把握するために必要な基礎知識(生理学、運動学)を教授する。		
	外科学	吉田 昌	2	1	15	医師としての経験を実際の症例などを授業内容に取り入れて講義を展開している。		
脳神経外科学	坂野 暁義	2	1	15	医師としての経験を実際の症例などを授業内容に取り入れて講義を展開している。			
対人援助論	奥村 隆彦	2 3 4	1	15	作業療法士として精神科病院勤務、就労支援施設(就労移行支援事業)運営ボランティアの経験を有する教員が、実務経験をもとに、対人援助の技能やその理論背景について教授し、対人援助職としてアイデンティティの涵養を図る。			
専 門	作業療法概論	陣内 大輔	1	1	15	精神障害領域、小児領域、高齢者領域、地域支援に関する臨床経験を有する教員が、作業療法士に必要な作業療法概論の基礎知識を教授する。	作業療法基礎学群	
	作業学概論	奥村 隆彦	1	1	15	作業療法士として精神科病院勤務、就労支援施設(就労移行支援事業)運営ボランティアの経験を有する教員が、実務経験をもとに、「人の生活と作業の意味」を伝えて、作業の治療的な有用性について、理論的背景および知識・技能について教授する。	〃	
	作業工程技術学・基礎論	奥村 隆彦	1	1	30	作業療法士としての実務経験をもとに、治療の媒体となる作業活動について学生たちの理解を促す。講義では知識および理論背景を教授し、演習では作業活動の特性について学ばせる。	〃	
	作業工程技術学・応用論	奥村 隆彦	1	1	30	作業療法士としての病院や施設に勤務した各担当教員の実務経験をもとに、治療の媒体となる作業活動について学生たちの理解を促す。それぞれの作業活動の特性について学生たちの体験を通して学びを支援する。	〃	
	作業分析学Ⅰ(基礎)	平野 大輔	2	1	30	作業療法士として発達障害領域の施設・病院に勤務し、実務に携わる。施設・病院の実務から事例を多く紹介する。	〃	
	作業分析学Ⅱ(応用)	平野 大輔	2	1	30	作業療法士として発達障害領域の施設・病院に勤務し、実務に携わる。施設・病院の実務から事例を多く紹介する。	〃	
	作業応用論	高村 直裕	2 3 4	1	30	精神科病院や保健所DC等において作業療法士として実務経験を有しており、その経験を生かし授業において実際に用いた作業活動の導入例等を挙げながら演習を展開する。	〃	
	研究法概論	平野 大輔	3	1	15	作業療法士として発達障害領域の施設・病院に勤務し、実務に携わる。施設・病院の実務から事例を多く紹介する。	〃	
	作業療法管理学(倫理・管理)	陣内 大輔	4	1	15	精神科病院作業療法部門での管理業務、国及び職能団体倫理委員等の経験から、作業療法部門の管理運営、倫理問題とその対処、リスク(安全管理)、職能団体の組織と役割、生涯学習などの最新の情報提供が可能である。	〃	
	作業療法総論	関森 英伸	4	1	30	身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域作業療法領域での豊富な経験から、作業療法士に必要な作業療法概論および基礎医学、臨床医学に関する知識を教授する。	〃	
	作業療法評価学概論	陣内 大輔	2	1	15	老年期障害領域、地域支援に関する臨床経験が豊富な教員が、作業療法士に必要な評価の基礎知識を教授する。	作業療法評価学群	
	作業療法評価学各論	陣内 大輔	2	1	30	作業療法士の実務経験を踏まえ、具体的な事例に対する検査・測定を臨床的な視点も含め教授する。	〃	
	基礎運動機能評価法	白砂 寛基	2	1	30	担当教員の医療機関、障害保健福祉領域における作業療法士の実務経験をもとに、授業を展開する。具体的には、MMT、ROM-T、病的反射、腱反射の解説と実技演習について講義を実施する。	〃	
	生活機能論	高村 直裕	2	1	30	精神科病院や保健所DC等において作業療法士として実務経験を有しており、その経験を生かし、実際の事例等を用いICFによる障害構造の理解が進むよう講義を展開する。	〃	
	上肢機能評価法	平野 大輔	2	1	15	作業療法士として発達障害領域の施設・病院に勤務した経験から、施設・病院の実務から事例を多く紹介する。	〃	
	日常生活活動評価法	和田 美咲	2	1	15	作業療法士としての臨床経験において日常生活活動(ADL)の評価である「FIM」および「BI」を活用した経験から、検査方法および留意点を講義で説明できる。	〃	
	認知機能評価法	小賀野 操	3	1	15	回復期病院における高次脳機能障害者のリハビリテーションチームの一員としての臨床経験に基づいて症例を提示し、認知機能検査の適用について教授する。	〃	
	作業療法諸理論	高村 直裕	2 3 4	1	15	オムニバス形式で各理論について各領域の病院または施設で理論に基づく実践経験のある教員が実例を用いながら講義を展開する。担当教員はいずれも作業療法士として各領域の病院または施設で臨床経験のある教員である。	作業療法適用学群	
	作業療法適用学概論	陣内 大輔	2	1	15	精神障害領域、老年期障害領域、地域支援に関する豊富な経験から、作業療法士に必要な専門的介入の課題およびあり方について教授する。	〃	
	コミュニケーション技術論	渡邊 清美	2	1	30	担当教員の小児領域、障害保健福祉領域の経験を元に、実践内容を踏まえた授業を展開する。	〃	
	内科系疾患作業療法学	白砂 寛基	3	1	30	作業療法士として総合病院での勤務経験から、作業療法士に必要な内科系疾患の基礎知識を教授する。	〃	
	生活技術学Ⅰ(総論)	小賀野 操	2	1	30	作業療法士として対象者に日常生活活動の評価や支援を行った経験を講義中に紹介したり、リハビリテーションおよび作業療法法の支援の考え方を経験した事例を通して教授する。	〃	
	生活技術学Ⅱ(各論)	小賀野 操	3	1	30	作業療法士として身体障害領域の対象者に日常生活活動の評価や支援を行った経験を講義中に紹介したり、経験した事例で臨床推論に関わるグループディスカッションを行う。	〃	
	運動器疾患作業療法学	関 優樹	3	1	30	身体障害領域の回復期病院に勤務経験から、作業療法士に必要な運動器疾患の基礎知識を教授する。	〃	
	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ(総論)	小賀野 操	3	1	30	回復期病院で担当した事例の情報からスクリーニングの考え方を教授するなど臨床での経験を都度紹介しながら講義を展開する。	〃	
中枢神経疾患作業療法学Ⅱ(各論)	小賀野 操	3	1	30	回復期病院で脳卒中、神経難病のある対象者に作業療法を提供した事例の経験を教授する。また、関連施設の外部講師(OTR)からは実際に作業療法を提供した事例を紹介いただき、作業療法評価計画を立案してOTRの考えと比較検討する機会とするとともに、OTRの臨床推論を学ぶ機会とする。	〃		
精神疾患作業療法学Ⅰ(総論)	高村 直裕	3	1	30	精神科病院や障害者総合支援施設等において作業療法士として実務経験を有しており、その経験を生かし授業において実際に用いた事例を挙げながら講義を展開する。各疾患別作業療法については教科書を用いた基本的知識や治療原則を学び、その後教員の経験した事例を用いて学ぶ。	〃		
精神疾患作業療法学Ⅱ(各論)	奥村 隆彦	3	1	30	各教員の実務経験をもとに、精神科作業療法の対象となる疾患・障害についての作業療法の実践方法について教授する。また、精神障害領域で用いられる他の専門療法についての知識と急性期治療・退院支援・司法領域の作業療法などについても教授する。PBL学習では各教員がファシリテーターとなって学習を行う。	〃		
小児作業療法学Ⅰ(総論)	関森 英伸	3	1	30	医療機関における実務経験に留まらず、保健・福祉・教育領域での実務経験を活かし、小児領域における作業療法支援について学生に理解してもらうために、臨床現場での具体的な例を挙げながら、大切な視点、知識、保護者や家族の思い等を教授し、臨床実習や臨床に繋がる講義に努める。	〃		
小児作業療法学Ⅱ(各論)	渡邊 清美	3	1	30	各疾患に対する作業療法の展開を実践例を紹介しながら、講義する。また、ICT教材を活用したり、障害当事者、親を招いて講義してもらうことで、現実的な困り感やニーズ等を聴く機会を設ける。	〃		
認知障害作業療法学	小賀野 操	3	1	30	担当教員は、回復期病院で作業療法士として高次脳機能障害のある対象者の生活支援にかかわった経験を有する。講義では都度臨床で支援した事例を紹介するとともに作業療法支援の在り方を伝える。	〃		
認知症作業療法特論	陣内 大輔	3	1	15	作業療法士の実務経験を踏まえ、非薬物療法について臨床的視点も含め教授する。 認知症カフェに実際に参加し、家族支援を含めた非薬物的介入の全体像を理解する。	〃		
作業療法適用学特論	渡邊 清美	3	1	15	オムニバス形式にて、さまざまな領域で活躍する作業療法士の実践例を教授する。	〃		
作業療法応用学概論	藤本 幹	4	1	15	作業療法士として、精神科領域、発達障害領域、地域・リハビリテーション施設での経験のある教員が、医療、福祉、地域、学校支援などのフィールドでの実務経験(事例)を伝えながら、学生にそのフィールドの現状と問題点を伝える。教員の問題解決思考を伝達する。その臨床思考内容を基にディスカッション、GWを展開していく。	作業療法応用学群		
就学・就労支援論	野崎 智仁	4	1	15	医療機関、小児領域、障害保健福祉領域での作業療法士の実務経験をもとに、授業を展開する。具体的には、それぞれの施設基準に応じて、評価や訓練の実際、連携の取り方など、事例情報をもとにしてゲームレスな支援の展開について講義を行う。	〃		
職業関連技術学	奥村 隆彦	3	1	30	医療機関、障害保健福祉領域での作業療法士実務経験を元に、授業を展開する。具体的には、それぞれの施設基準における評価や訓練などの実例をもとに、また事例情報など合わせて講義を行う。	〃		
作業療法士の諸外国事情	小賀野 操	2 3 4	1	15	担当教員は、海外での臨床経験や短期技術援助の経験を持つ。外部講師はJICA事業への参加経験者、海外の作業療法士免許取得者等海外での作業療法士の経験を有する。 担当教員及び外部講師の海外での作業療法経験を講義し、議論を通して学生が海外の作業療法事情について考え、興味を深められるように努める。	〃		
地域ケアシステム論	陣内 大輔	3 4	1	15	介護福祉領域、小児領域、障害保健福祉領域の経験をもち、授業を展開する。具体的には、それぞれの施設基準における法制度の適応、また事例への対応など、臨床場面を想定した講義を行う。	〃		
生活支援計画論	小賀野 操	4	1	15	作業療法士として市介護認定審査会審査業務にあたる。実務経験を踏まえ、臨床現場の事例をもとに具体的な介護保険制度における支援計画立案について教授する。	〃		
障害代償学概論	白砂 寛基	2	1	15	作業療法士として総合病院で勤務した経験を生かし、作業療法士に必要な障害代償アプローチについて概論的に教授する。	障害代償学群		
義肢適用論	野崎 智仁	3	1	15	担当教員の医療機関、障害保健福祉領域での実務経験を元に、授業を展開する。実際の義肢を使用している動画なども用意し、事例性も合わせて講義を行う。	〃		

授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験等の授業への展開	備考
			必修	選択			
装具・副子適用論	白砂 寛基	3	1		30	作業療法士としての病院勤務経験より、装具および副子が必要となる疾患の症状・病態について学生へ説明することができ、作成方法、適応方法を教授できる。	〃
自助具・福祉機器適用論	関 優樹	3	1		30	作業療法士として病院および介護老人保健施設での臨床経験から、対象者の生活機能を代償する自助具の作成方法、在宅復帰に必要な福祉用具の選定および適用の手順、方法を教授できる。	〃
住環境整備論	野崎 智仁	3	1		15	医療機関、障害保健福祉領域での作業療法士としての経験をもとに、授業を展開する。具体的には、それぞれの施設基準に於いた住環境整備の実践内容を、事例情報などを交えて講義を行う。	〃
バリアフリー論	渡邊 清美	2 3 4		1	15	作業療法士として自身が経験した臨床の中で実際に使用したもののや、考え方を教授する。また、障害当事者の方に依頼し、直接声を聞ける機会を設定する。	〃
臨床実習特論 I (OSCE)	和田 美咲	3		1	15	学生は臨床現場(実習)の経験が十分でなく、臨床場面の想定に不足点がある。担当教員の実務経験を生かし、学生が臨床場面を想定した演習ができるよう、具体的なアドバイスを行う。	臨床教育
臨床実習特論 II (OSCE)	和田 美咲		4		1 15	学生は臨床現場(実習)の経験が十分でなく、臨床場面の想定に不足点がある。担当教員の実務経験を生かし、学生が臨床場面を想定した演習ができるよう、具体的なアドバイスを行う。	〃
臨床実習ゼミ I (作業療法総論)	奥村 隆彦	1		1	15	臨床現場へ多くの実務経験を要する複数教員により、学生の臨床思考が養われるよう、実習ゼミを展開する。	〃
臨床実習ゼミ II (作業療法実践過程)	奥村 隆彦	2		1	15	臨床現場への実務経験を要する複数教員により、学生の臨床思考が養われるよう、実習ゼミを展開する。	〃
臨床実習ゼミ III (作業療法計画立案)	奥村 隆彦	3		1	15	5年以上の臨床現場への実務経験を要する複数教員により、学生の臨床思考が養われるよう、実習ゼミを展開する。	〃
臨床実習ゼミ IV (作業療法実践)	奥村 隆彦	4		1	15	5年以上の臨床現場への実務経験を要する複数教員により、学生の臨床思考が養われるよう、実習ゼミを展開する。	〃

卒業要件単位	126	単位
実務経験のある教員等による授業科目	132	単位



授業科目の名称	教員名	配当年度	単位数		時間	実務経験の授業への展開	備考	授業コード
			必修	選択				
生涯発達心理学	田中 真理	1	1	1	30	担当教員は大学の学生相談や地域の教育相談センターなどの相談機関で、臨床心理士として幼児から中高生までの幅広い年代を対象に相談業務を行った経験を持つ。授業ではこれらの実務経験をもとに各タイプの学生への具体的な指導の事例を交えて講義を行う。		1440381
言語学Ⅰ	洲田 隆史	1	1	1	30	急性期病院および大学付属医療機関での言語聴覚療法実務経験を活かし、言語聴覚士に必要な言語学の知識を言語聴覚障害者例と関連付けて説明する。		1440310
言語学Ⅱ	洲田 隆史	1	1	1	30	急性期病院および大学付属医療機関での言語聴覚療法実務経験を活かし、言語聴覚士に必要な言語学の知識を言語聴覚障害者例と関連付けて説明する。	新課程	1440470
基礎音声学	洲田 隆史	1	2	1	30	急性期病院および大学付属医療機関での言語聴覚療法実務経験を活かし、言語聴覚士に必要な音声学の知識を言語聴覚障害者例と関連付けて説明する。		1440480
コミュニケーション技能演習	金子 弥栄子	1	1	1	30	科目責任者および科目担当者は言語聴覚士免許取得者であり、各種医療機関（病院）や施設等での豊富な実務経験を有している。本学関連施設での臨床業務に従事し、連携体制を図りながら当該科目の対応にあつている。各教員の臨床経験に基づいて、小児から高齢者までのコミュニケーションの特徴や技法について、講義内で指導を行う。		1441420
内科学	前田 眞治	3	1	1	30	授業内容は内科医師として、臨床場面に加味して講義を展開している。講義の中で患者などの事例を示し、より具体的なイメージをもちやすくしている。		1440050
リハビリテーション医学	橋本 弦太郎	2	1	1	30	授業内容はリハビリテーション科医師として、臨床場面に加味して講義を展開している。講義の中で障害者などの事例を示し、より具体的なイメージをもちやすくしている。		1440070
耳鼻咽喉科学	東野 哲也	3	1	1	30	耳鼻咽喉科医療に関わる経験を活かし、臨床的・科学的知識を学ぶ授業を行う。		1440090
臨床歯科医学	三田村 治郎	2	1	1	15	歯科医師として、言語療法に関連した口腔領域全体の基礎的な知識を教授する。		1440120
口腔外科学	岩瀬 博史	3	1	1	15	授業内容は口腔外科医師として、臨床場面に加味して講義を展開している。		1440130
音声言語医学	平田 文	2	1	1	30	音声障害、構音障害、嚥下障害における臨床経験（医療機関／口腔外科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科：急性期から生活期の成人／小児領域）が豊富な言語聴覚士および咽喉頭を専門とする耳鼻咽喉科医師により講義を行う。言語聴覚士、耳鼻咽喉科医師の自験例を提示し、疾患の理解や発話／嚥下メカニズムが理解できるよう講義を展開している。		1440140
臨床心理学	山下 夏美	2	1	1	30	公認心理師・臨床心理士の資格を有し、教育領域での実務に従事する教員が、学生が研修や臨床現場で出会う援助対象者の心理について、具体的なイメージでできるよう、講師自身の臨床経験を活かし講義を展開します。		1440210
音声学	洲田 隆史	2	1	1	30	急性期病院および大学付属医療機関での言語聴覚療法実務経験を活かし、言語聴覚士に必要な音声学についての知識を言語聴覚障害者例と関連付けて説明する。		1440350
聴覚心理学	富澤 晃文	3	1	1	30	講義内容は言語聴覚士としての免許を有し、聴覚・聴覚幼児園施設、私大付属リニク耳鼻咽喉科、本学付属耳鼻咽喉科センターにおいて、本学講義内容に関する実務経験を十分に行っている。講義を担当する教員の研究業績や教育および実務経験に基づき、基本的な知識を習得できるように展開する。		1440370
コミュニケーション障害演習	小森 現代	2	1	1	15	担当者は、全員が言語聴覚士免許を有し、各種医療機関や施設での豊富な言語聴覚臨床の実務経験を有する。現在も相談支援センターとして、連携体制を図りながら当該科目を展開している。科目責任者および科目担当者は、豊富な臨床実務経験と最新の知識・理論や技法を活用し、各種講義で教授した理論を臨床教育に適用させ、知識と技術の統合を図りながら展開する。		1441440
言語聴覚障害診断学	小森 現代	3	1	1	30	教員は言語聴覚士として、医療・介護・教育・福祉施設での臨床経験を有し、現在も各フィールドで言語聴覚臨床に従事する。本講義は前述の臨床経験を生かし、実践的に展開される。学生が自立的に臨床を展開することができるように、実臨床に必要な臨床思考能力を高めることを目指す。		1441030
失語症・高次脳機能障害学総論Ⅰ	櫻岡 絵里香	2	1	1	30	急性期大病院、回復期病院及び生活期の失語症・高次脳機能障害患者に対する言語聴覚療法の実務経験を有し、失語症・高次脳機能障害の具体的な事例に即した講義・演習を展開するとともに、評価技術の指導を行う。		1441040
失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ	櫻岡 絵里香	2	1	1	30	急性期大病院、回復期病院及び生活期の失語症・高次脳機能障害患者に対する言語聴覚療法の実務経験を有し、失語症・高次脳機能障害の具体的な事例に即した講義・演習を展開するとともに、評価技術の指導を行う。		1441050
失語症学Ⅰ（評価・診断）	小森 現代	3	1	1	30	担当教員は急性期大病院、回復期病院及び生活期の失語症・高次脳機能障害患者に対する言語聴覚療法の実務経験を有する。本講義は教員の臨床経験に基づき実践的に展開し、実地で活用できる臨床能力および臨床思考能力を養う。		1441060
失語症学Ⅱ（治療）	小森 現代	3	1	1	30	担当教員は急性期大病院、回復期病院及び生活期の失語症・高次脳機能障害患者に対する言語聴覚療法の実務経験を有する。本講義は教員の臨床経験に基づき実践的に展開し、実地で活用できる臨床能力および臨床思考能力を養う。		1441070
失語症・高次脳機能障害学演習	小森 現代	3	1	1	30	担当教員は急性期大病院、回復期病院及び生活期の失語症・高次脳機能障害患者に対する言語聴覚療法の実務経験を有する。本講義は教員の臨床経験に基づき実践的に展開し、実地で活用できる臨床能力および臨床思考能力を養う。		1441080
高次脳機能障害学	櫻岡 絵里香	3	1	1	30	担当教員は急性期大病院、回復期病院及び生活期の失語症・高次脳機能障害患者に対する言語聴覚療法の実務経験を有する。本講義は上記の臨床経験を有し、高次脳機能障害の具体的な事例に即した講義を展開する。		1441090
言語聴覚障害学総論	金子 弥栄子	2	1	1	30	担当者は言語聴覚障害専門の言語聴覚士臨床経験を交えた講義を展開する。		1441100
言語聴覚障害学各論	金子 弥栄子	2	1	1	30	担当者は言語聴覚障害専門の言語聴覚士臨床経験を交えた講義を展開する。		1441110
聴覚補償学Ⅰ（評価・診断）	佐藤 友貴	3	1	1	30	担当者は言語聴覚障害専門の言語聴覚士臨床経験を交えた講義を展開する。		1441120
言語聴覚障害学Ⅰ演習（評価・診断）	佐藤 友貴	3	1	1	30	担当者は言語聴覚障害専門の臨床における言語聴覚士としての実務経験を交えた講義・演習を展開する。		1441130
言語聴覚障害学Ⅱ（指導）	佐藤 友貴	3	1	1	30	担当者は言語聴覚障害専門の言語聴覚士臨床経験を交えた講義を展開する。		1441140
言語聴覚障害学Ⅱ演習（指導）	佐藤 友貴	3	1	1	30	担当者は言語聴覚士としての言語聴覚障害専門の臨床経験を交えた講義・演習を展開する。		1441150
聴覚障害学総論	佐藤 友貴	2	1	1	30	講義を担当する教員の研究業績や教育および実務経験に基づき、言語聴覚士としての基本的な知識、技術を修得できるように展開する。		1441160
聴覚補償学	佐藤 友貴	2	2	1	60	講義を担当する教員の研究業績や教育および実務経験に基づき、言語聴覚士としての基本的な知識、技術を修得できるように展開する。		1441170
聴覚補償学（補聴器・人工内耳など）	大金 さや香	3	1	1	30	講義を担当する教員の研究業績や教育および実務経験に基づき、言語聴覚士としての心構えや姿勢および基本的な知識、技術を修得できるように展開する。		1441180
小児聴覚障害学Ⅰ（評価・診断）	大金 さや香	3	1	1	30	講義を担当する教員の研究業績や教育および実務経験に基づき、言語聴覚士としての心構えや姿勢および基本的な知識、技術を修得できるように展開する。		1441190
小児聴覚障害学Ⅱ（指導）	大金 さや香	3	1	1	30	講義を担当する教員の研究業績や教育および実務経験に基づき、言語聴覚士としての心構えや姿勢および基本的な知識、技術を修得できるように展開する。		1441200
成人聴覚障害学（二重障害を含む）	大金 さや香	3	1	1	30	講義を担当する教員の研究業績や教育および実務経験に基づき、言語聴覚士としての心構えや姿勢および基本的な知識、技術を修得できるように展開する。		1441210
発声発音障害学総論	前新 直志	2	2	1	30	担当者は言語聴覚士免許を有し、小児構音障害領域（口腔外科）と成人構音障害領域（医療機関／リハビリテーション科）で本講義内容に関する専門的な知識と豊富な臨床技術を有している。音声学の知識と演習（IPA表記）を踏まえつつ、成人領域および小児領域の構音障害の理解を深めるために許容範囲の画像や動画を併せて展開する。		1441450
構音障害学Ⅰ（理論）	平田 文	2	1	1	30	担当者は言語聴覚士として、小児構音領域（小児医療機関／口腔外科）と成人構音領域（医療機関／リハビリテーション科）および病院にて豊富な臨床経験を有している。高専の教員が担当する。それぞれ、言語聴覚専門の講義担当教員の言語聴覚士として実務経験に基づき、評価理論や検査法についてデモンストレーションを行う。また、自験例を提示し、構音障害の臨床像が明確になるよう講義を展開していく。		1441240
構音障害学Ⅱ（評価・診断）	平田 文	3	1	1	30	本講義は構音障害に対する臨床経験を有する言語聴覚士が担当する。特に、小児構音障害領域（小児医療機関／口腔外科）と成人構音障害領域（医療機関／リハビリテーション科：急性期から生活期全般）は異なる教員が担当し、それぞれ専門性の高い講義を展開する。構音障害の臨床経験を踏まえ、専門的な知識と臨床技術の統合を図りつつ、実際の臨床場面に録画した視聴覚教材などを用いて講義を展開する。また、担当教員の自験例を講義時に提示し、構音障害の臨床像が明確になるよう講義を展開する。		1441260
構音障害学演習（治療）	前新 直志	3	1	1	45	本講義内容に関する臨床経験を有する言語聴覚士が担当する。専門的な知識と豊富な臨床技術を有している。特に、小児構音障害領域（小児医療機関／口腔外科）と成人構音障害領域（医療機関／リハビリテーション科：急性期から生活期全般）はそれぞれ専門性を有している。担当者は構音障害に関する研究業績や教育および実務経験に基づき、言語聴覚士としての視点から臨床判断と治療計画および基本的な治療スキルを修得できるように展開する。		1441270
流暢性障害学	前新 直志	2	1	1	30	担当者は小児発達支援施設および医療機関にて本講義内容に関する豊富な研究業績と臨床経験を有する。本講義内容に関する実務経験を踏まえ、専門的な知識と臨床技術との統合を図りつつ臨床判断と治療・支援計画および基本的な訓練技術が習得できるよう展開する。		1441250
音声障害学	平田 文	3	1	1	30	音声障害の臨床を行なう耳鼻科医師および音声障害専門外来（医療機関／耳鼻咽喉科）に従事した言語聴覚士が担当し、専門的な知識と豊富な臨床技術を講義する。音声障害の視聴覚教材を用い、耳鼻科医師および言語聴覚士が検査や訓練を講義・実演する。さらに、自験例を提示し、音声障害における臨床像が明確になるよう講義を展開する。		1441280
摂食・嚥下障害学Ⅰ（理論・評価診断）	平田 文	3	1	1	30	嚥下障害に対する豊富な臨床（医療機関／リハビリテーション科：急性期から生活期全般、耳鼻咽喉科／嚥下外科）や研究経験を有する認定言語聴覚士（摂食嚥下領域）が講義を行なう。言語聴覚士が講義内で評価や訓練のデモンストレーションを行なう。また、臨床場面のビデオ教材などを用いて講義を行なう。担当教員の自験例を提示し、摂食嚥下障害臨床像を明確にして講義を展開する。		1441290
摂食・嚥下障害学Ⅱ（治療）	平田 文	3	1	1	30	嚥下障害に対する豊富な臨床（医療機関／リハビリテーション科：急性期から生活期全般、耳鼻咽喉科／嚥下外科）や研究経験を有する認定言語聴覚士（摂食嚥下領域）が講義を行なう。講義担当教員の言語聴覚士としての実務経験に基づき、自験例を提示し、治療スキルや臨床判断を習得できるように講義を展開していく。		1441300
言語聴覚障害基礎演習	佐藤 友貴	3	1	1	15	担当者は言語聴覚士免許取得者であり、各種医療機関（病院）や施設等での豊富な実務経験を有している。本学関連施設での臨床業務に従事し、連携体制を図りながら当該科目の対応にあつている。豊富な臨床実務経験から、各種講義で教授した理論を臨床教育に応用させ、知識と技術の統合を図りながら展開する。		1441340
言語聴覚療法特論	大金 さや香	4	1	1	15	担当者は言語聴覚士免許取得者であり、病院等での本講義内容に関する実務経験を有する。講義を担当する教員の研究業績や教育および実務経験に基づき、言語聴覚士としての心構えや姿勢および基本的な知識、技術を修得できるように展開する。		1441350
言語聴覚障害学特論（総括）	大金 さや香	4	1	1	15	担当者は言語聴覚士免許取得者であり、病院等での本講義内容に関する実務経験を有する。講義を担当する教員の研究業績や教育および実務経験に基づき、言語聴覚士としての心構えや姿勢および基本的な知識、技術を修得できるように展開する。		1441360
臨床実習Ⅰ（基礎）	佐藤 友貴	3	2	1	90	科目責任者および科目担当者は言語聴覚士免許取得者であり、各種医療機関や施設等での豊富な実務経験を有している。また、本学関連施設での臨床業務に従事し、連携体制を図りながら当該科目の対応にあつている。豊富な臨床実務経験と最新の技術を活用し、各種講義で教授した理論を臨床教育に応用させ、知識と技術の統合を図りながら展開する。		1441380
臨床実習Ⅱ（総合）	前新 直志	4	10	1	450	科目責任者および科目担当者は言語聴覚士免許取得者であり、各種医療機関（病院）や施設等での豊富な実務経験を有している。また、本学関連施設での臨床業務に従事し、連携体制を図りながら当該科目の対応にあつている。豊富な臨床実務経験を有し、各講義で教授した内容を臨床教育に応用させて知識と技術の統合を図りながら行う。学内実習では臨床実習としての基本的な姿勢や協調性を踏まえ臨床技術を修得し、学外実習では前・中・後において直接的な指導を行いながら展開する。		1441390

授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験の授業への展開	備考	授業コード
			必修	選択				
			卒業要件単位数	126	単位			
			実務経験のある教員等による授業科目	126	単位			

総合教育科目	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数 必修/選択	時間	実務経験の授業への展開		備考
						実務経験の有無	展開の内容	
人間系	文学論	山内 則史	1 2 3 4	2	30	○	新聞記者として文芸分野を10年間担当。記者時代の体験、過去の記事などを随時紹介する。新聞記事を使って、日々報じられる文学をリアルタイムで確認することで、社会の中にある文学の動向を意識しながら授業を展開する。	
	演劇論	山内 則史	1 2 3 4	1	15	○	新聞記者として演劇を担当。取材体験と過去の記事を随時紹介し、日々の新聞に掲載される演劇記事でリアルタイムの動きを参照しながら授業を展開したい。	
	雑談と傾聴 ～話す力と聴く力～	中野 真也	1 2 3 4	2	30	○	臨床心理士、公認心理師、日本家族療法学会認定スーパーバイザー・ファミリーセラピストとしての臨床・指導経験から、患者・家族の関係やコミュニケーションを扱う家族療法家として、実務経験を活かしたコミュニケーションの講義を行う。	
	宗教学	東海林 良昌	1 2 3 4	2	30	○	世界仏教連盟等での国際経験、全日本仏教会WFB日本センター委員として他教団交流を深める中で諸宗教対話を学び、寺院住職、自坊での介護者カフェの主宰、介護者サポートネットワーク・ケアむすび代表、全国介護者支援団体連合会副上管大学グループケア研究所グループケア人材養成講座講師、仮設病舎病舎管理委員、塩津市社協福祉協議会理事を務めながら、介護者支援、孤独孤立支援、人生の最終段階における医療について、宗教者として議論を重ねてきた経験を踏まえ、医療従事者として患者のところに寄り添うということを伝えたいと書かれています。	
	死生学 - 死を通して生を考える -	大園 康文	1 2 3 4	2	30	○	小児外科からがん治療、さらには緩和医療の臨床現場を経験しており、現在は在宅ケアを中心とした地域医療の実践から臨死生生の実践を継続している。小児外科や障害者医療の経験からつらい人生を生きのびる知恵を語り、緩和医療や高齢者における終わりの人生の迎え方を語る。	
	法学	森川 伸吾	1 2 3 4	2	30	○	弁護士としての実務経験から、条文の読み方の解説や事例についてのコメント等において、実務感覚が反映される。	
	日本国憲法	森川 伸吾	1 2 3 4	2	30	○	弁護士としての実務経験から、事例について講評する際に、実務感覚が活かされる。	
	日本政治経済論	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	○	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
	マスメディア論	佐藤 伸	1 2 3 4	2	30	○	新聞記者として、地方記者、海外特派員を経験を生かし、授業の合間に、講師が記者として体験したことなどをニュースの裏面に話す話を随時します。また、時事問題を扱うことから、できるだけホットな話題を取り上げたいので、内容が前後したり、入れ替わり可能性があります。時間が許せば、テーマに従った記事執筆体験にも取り組みます。	
	福祉経済学	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	○	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
社会系	アジア諸国の経済・社会・文化	山本 秀也	1 2 3 4	2	30	○	国際ジャーナリストとしてアジア諸国・地域(中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール)など海外に長く駐在し、現在も中国研究者として中国が地域に与える影響などをテーマとしています。地域研究の出发点となった中国哲学の視点から、現代アジアを見渡し、経済、社会、文化などいずれの領域にもさまざまな形で貢献していることを細く解説します。	
	国際関係論	山本 秀也	1 2 3 4	2	30	○	国際ジャーナリストとして、アジア諸国・地域(中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール)と米国(ワシントン)に長期駐在し、アジアを中心とした国際問題の新聞論評(社説)を執筆する論説委員を務めた。専門分野は現代中国研究と国際安全保障。国際政治、安全保障の時論を国際関係の基礎理論と有機的に結びつける。	
	世界の経済	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	○	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
	国際医療福祉論	後藤 純信	1 2 3 4	2	30	○	大学や病院等で医師(脳神経外科・臨床神経生)の知識・技術に関する以下の実務経験を有しており、その経験を生かし授業においては実際事例などを織り交ぜ、「国際医療福祉論」の講義を展開する。	
	ボランティア論	中村 哲也	1 2 3 4	2	30	○	社会福祉協議会ボランティアセンターでの実務経験を活かし、適宜事例を示しながら講義を行う。	
	ボランティアコーディネイト論	中村 哲也	1 2 3 4	2	30	○	社会福祉協議会におけるボランティア活動推進実務経験を生かした講義。さらに自身でのボランティア活動経験からの課題などを生かした講義を展開する。	
	手話入門	荒川 涼子	1 2 3 4	2	30	○	地域の手話奉仕員養成講習会講師、手話通訳者の立場、また障害当事者の立場から、厚生労働省策定手話奉仕員養成カリキュラムを参考に、医療・介護の現場に役立つ手話や知識を教示していく。	
	経済の仕組み	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	○	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
	経済の歴史	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	○	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
	自然・情報	統計学	島田 直樹	1 2 3 4	2	30	○	様々な業種の企業、特別地方公共団体、特別民間法人において、嘱託産業医としての実務経験がある。産業医は、労働現場において生じる様々な健康問題を解決するために、必要なデータの収集、解析、解釈などの統計学的手法を用いている。その経験を授業で適宜紹介する。
疫学・保健医療統計学		島田 直樹	1 2 3 4	2	30	○	様々な業種の企業、特別地方公共団体、特別民間法人において、嘱託産業医としての実務経験がある。産業医は、労働現場において生じる様々な健康問題に対して、疫学的手法を用いて、原因の解明および対策の検討を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科目にカウント
医療福祉教育講義		沢谷 洋平	1 2 3 4	1	15	○	重症脳血管障害での活動経験を授業で適宜紹介する。	
メディカルマナー入門		橋本 光康	1 2 3 4	2	30	○	航空会社国際線客室乗務員としての勤務経験や、医療機関で各種医療従事者と協働し、患者様接遇、クレーム対応等の実務経験をもつ教員が担当する。国際線客室乗務員時代に身につけた日本語でもなく、マナー、世界のマナー・プロトコルの実体験を、グローバルな医療現場での接遇、社会人に必要なビジネスマナーを身につけるべく、講義・演習・ディスカッション等に活かしている。	
総合講義 一超高齢社会で認知症と向き合う		橋本 光康	1 2 3 4	1	15	○	病院、施設及び専門機関での臨床、勤務経験を有する各教員が臨床又は実務経験を活かして、テーマに沿った授業を展開する。	
公衆衛生学		島田 直樹	1	2	30	○	産業医は、産業保健を中心として、公衆衛生学の様々な領域に関する知識を活用して業務を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科目にカウント
微生物と病気		山岸 裕和	1 2 3 4	2	30	○	小児科医として日常的に感染症患者の診療を行っている。小児感染症認定医の資格を有する。診療の他、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルスに関する基礎研究も行っている。実務経験に基づき感染症の現状、問題点に関して、分かりやすく解説するとともに、現実的対応について討議する。	
リハビリテーション概論		若江 幸三良	1	2	30	○	過去30年以上の大学病院での臨床実務経験をもとに、実際の経験例を提示する。	※専門科目にカウント
関連職種連携		橋本 光康	2	2	30	○	各教員は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、診療情報管理士、精神保健福祉士、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、生活相談員など各専門職の臨床経験を有する。病院や施設等に勤務する各専門職の有資格者の臨床経験を踏まえた講義を展開する。	
看護論		林 圭子	1	2	30	○	看護師・保健師・助産師での実務経験に基づいた講義を展開することでわかりやすく、イメージしやすく、各看護の専門領域について理解することができる。	
総合系	ケアマネジメント論	磯 玲子	2	1	15	○	介護老人保健施設における支援相談員および居宅介護支援事業所における主任介護支援専門員(管理者)としてケアマネジメントに関わった実務経験を踏まえ、事例を紹介することや模範事例を用いたケアプラン作成の一連のプロセスについての講義を行う。	
	ケースワーク論	木村 潤	1 2	1	15	○	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実際について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実務者からの情報を取り入れその意見を含めて講義を行う。	
	保健医療福祉制度論	木村 潤	1 2	2	30	○	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実際について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実務者からの情報を取り入れその意見を含めて講義を行う。	
	社会福祉学	若林 功	1	2	30	○	専門機関における相談援助(様々な事例における面接・ソーシャルワークの展開・施設内・機関間・地域連携、施設運営等の活動等)を通じて経験を有する教員が、相談援助職としての実務経験を踏まえ、各認の内容に照らし合わせ、事例ごとに具体的な情報を加味した講義を行う。	
	臨床心理学概論	山下 夏美	2	2	30	○	公認心理師・臨床心理士の資格を有し、教育領域での実務に従事する教員が、学生が研修や臨床現場で出会う援助対象者の心理について、具体的にイメージできるよう、講師自身の臨床経験を活かして講義を展開します。	※専門科目にカウント
	関連職種連携ワーク	橋本 光康	3	1	30	○	ケア担当教員は、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床検査技師、診療情報管理士、精神保健福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、薬剤師、診療情報管理士等であり、多くの教員が実務経験がある。各チーム担当教員の多くが現場での実務経験があり、グループワークの中では、その経験を変え、学生にアドバイスをし、技術修得に活かしていく。	
	関連職種連携実習	家入 香代	4	1	45	○	実習担当教員の実務経験や、現場の実習指導者のアドバイスにより、学生の討議をより活発にしている。	
	人間発達学	関森 英伸	1	1	30	○	医療機関における実務経験に留まらず、保健・福祉・教育領域での実務経験を活かし、ライブステージに応じた人間の発達を学生に理解してもらうために、臨床現場での具体的な例を挙げながら、大切な視点、知識、保護者や家族の思い等を教授し、臨床実習や臨床に繋がる講義に努める。	
	病理学	福澤 龍二	2	1	30	○	小児科専門医、病理専門医、細胞診専門医、分子病理専門医として国内や海外の大学や基幹病院で豊富な臨床経験を活かし、将来臨床で役立つように医学の初歩から発展まで含めた講義をします。	
	内科学 I (基礎)	前田 眞治	2	1	30	○	授業内容には内科医師として、臨床場面に加味して講義を展開している。講義の中で患者などの実例を示し、より具体的なイメージを持たせようとしている。	

	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験の授業への展開	備考
				必修	選択			
	内科学Ⅱ (応用)	前田 眞治	2		1	30	授業内容には内科医師として、臨床場面を加味して講義を展開している。講義の中で患者などの実例を示し、より具体的なイメージを待ちやすくしている。	
	神経学	野崎 一朗	2		1	30	脳神経内科医師としての経験を活かし、実例を示しながら学生の理解がより深まる講義を行う。	
	精神衛生	上里 彰仁	2	1		30	講師は精神科医として医療機関における実務経験がある。臨床経験を踏まえ、事例などを提示しながら授業を展開する。	
	リハビリテーション医学	橋本 弦太郎	2	1		30	授業内容にはリハビリテーション科医師として、臨床場面を加味して講義を展開している。講義の中で障害者などの実例を示し、より具体的なイメージを待ちやすくしている。	
	外科学	吉田 昌	2	1	1	15	医師としての経験や実際の症例などを授業内容に取り入れて講義を展開していく。	
	保育	大金 礼子	2	1		15	本科目は「実務経験のある教員による授業科目」である。科目担当責任者は幼稚園教師、保育士として幼児教育経験を有し、実務経験で得た専門知識の中から保育に関する基本知識や基本原理を毎回の授業で提示し、履修者が視能訓練士に必要な保育の知識を理解し習得できるように教授する。	
	視能学概論	鈴木 賢治	1	2		30	眼科医師として眼科診療の実務経験のある教員が、視能訓練士に必要な医学的知識を講義する。視能訓練士として眼科診療の実務経験のある教員が、視能訓練士の歴史、関連法規、業務の実態、専門知識の導入について講義する。	
	視器解剖病態学	原 直人	2	2		30	眼科医師として診療業務経験を有する教員が、眼科臨床的な観点から眼疾患の発症機序と病態生理学または眼薬理学について実務経験を活かして講義を行う。	
	視覚運動生理学	原 直人	2	2		30	眼科医、視能訓練士の実務経験を有する各担当教員は、実務経験を活かして臨床に必須事項について詳細に説明する。	
	生理光学Ⅰ (基礎)	鈴木 賢治	1	2		30	視能訓練士として眼科診療の実務経験のある教員が、眼科臨床での経験をもとに眼鏡やコンタクトレンズ、基本の屈折矯正を中心に専門性の高い講義を展開する。	
	視覚臨床生理学	鈴木 賢治	3	2		30	本科目は「実務経験のある教員による授業科目」である。眼科医師あるいは視能訓練士として眼科診療に係る実務経験を持つ教員が、光覚、色覚、視覚電気生理、超音波について原理、検査の流れ、所見の読みか理解、実践に活かすことができるよう、症例を提示しながら講義する。	
	高次脳機能障害	原 直人	3	1		30	各担当教員は、それぞれ眼科医、診療放射線技師、言語聴覚士としての実務経験を有する。各担当教員は、実務経験を活かして講義を行う。担当教員は、実務経験で得た専門知識や検査法、検査結果の診方について、神経心理学的、画像診断学的側面から、視覚情報処理過程と視覚に関連する大脳皮質の構造と機能について解説する。	
専門	生理光学Ⅱ (応用)	鈴木 賢治	2	2		30	視能訓練士として眼科診療に係る実務経験を持つ教員が、その実務経験を活かして視能訓練士として必要な光学の基礎知識と理論を理解できるように講義を行う。	
	生理光学Ⅲ (実践)	川守田 拓志	2	2		30	視能訓練士として眼科診療の実務経験のある教員が、眼科臨床での経験をもとに眼鏡やコンタクトレンズ、眼内レンズなど屈折矯正を中心に専門性の高い講義を展開する。	
	生理光学実習	鈴木 賢治	2	2		90	視能訓練士として眼科診療に係る実務経験を持つ教員が、視能訓練士として必要な光学の検査に関する基本的技術と関連知識を教授する。	
	臨床屈折矯正学演習	川守田 拓志	3	1		30	視能訓練士として眼科診療に係る実務経験を持つ教員が、その実務経験を活かして視能訓練士として必要な光学の基礎知識と理論を理解できるように講義を行う。	
	視能障害学Ⅰ (基礎)	原 直人	2	2		30	本科目は実務経験のある教員による授業科目である。眼科医師として眼科診療に係る実務経験を持つ教員が、実務経験で得た専門知識の中から、眼科検査結果の診方に加え、症状や所見から疾患を想定する上で必要となる基本的知識や基本原理を教授する。	
	視能障害学Ⅱ (応用)	原 直人	3	2		30	眼科医師として実務経験を活かして症例学を講義を行う。	
	神経眼科学	新井田 孝裕	3	2		30	本科目は実務経験のある教員による授業科目である。眼科医師として眼科診療に係る実務経験を持つ教員が、実務経験で得た専門知識の中から、視機能を理解する上で重要な視神経、視路、高次視覚皮質に加え、視覚と密接に関連する眼球運動、輻湊、調節瞳孔系の解剖、病態生理と検査法、検査結果の診方に関する基本的知識や基本原理を毎回の授業で提示し、履修者が専門分野の基礎となる知識を理解し習得できるように教授する。	
	視能矯正学Ⅰ (外眼筋の作用と眼球運動)	新井田 孝裕	1	2		30	本科目は実務経験のある教員による授業科目である。眼科医師として眼科診療に係る実務経験を持つ教員が、実務経験で得た専門知識や技術から、弱視・斜視の領域を扱う視能矯正学の基礎を学ぶ上で根幹となる外眼筋の解剖・生理、基本的な眼球運動の特性と理論、近視反応における調節と輻湊のメカニズムに関する応用的な専門知識を毎回の授業で教授する。	
	視能矯正学Ⅱ (両眼視の基礎)	新井田 孝裕	2	2		30	本科目は実務経験のある教員による授業科目である。眼科医師として眼科診療に係る実務経験を持つ教員が、実務経験で得た専門知識や技術から、弱視・斜視の領域を扱う視能矯正学の基礎を学ぶ上で根幹となる視覚系の構造と情報処理、両眼視のメカニズムとその発達、網膜対応の概念と分類に関する応用的な専門知識を毎回の授業で教授する。	
	視能矯正学Ⅲ (弱視・斜視の基本的知識)	新井田 孝裕	2	2		30	本科目は実務経験のある教員による授業科目である。眼科医師として眼科診療に係る実務経験を持つ教員が、実務経験で得た専門知識や技術から、多様化する視能矯正学の専門知識を毎回の授業で提示し、履修者が自ら問題発見と課題解決に取り組み、専門領域の実務に活かすための発展的学習ができるよう教授する。	
	視能矯正学実習	鈴木 賢治	2	2		90	視能訓練士として眼科診療に関わる実務経験を持つ教員が、実務経験で得た専門知識や技術から、視能検査に関わる応用技術と関連知識を教授し、履修者が応用技術を習得できるように指導を行う。	
	視能検査学Ⅰ (機能検査)	岡野 真弓	3	2		30	本科目は「実務経験のある教員による授業科目」である。視能訓練士として眼科診療での実務経験を持つ教員が、実務経験で得た専門知識や技術から、正確な視能検査を実施するために必要な実践的技術を教授する。	
	視能検査学Ⅱ (形態・画像検査)	内川 義和	3	2		30	眼科医あるいは視能訓練士の実務経験を活かして視覚関連英語論文の内容の把握と知識の必要性を学習させる。	
	視能検査学実習Ⅰ (機能検査)	岡野 真弓	3	3		135	担当教員は、眼科診療における視能訓練士実務経験で得た専門知識や技術から、視能検査に関わる応用技術と関連知識を教授し、履修者が実践的技術を習得できるように指導を行う。	
	視能検査学実習Ⅱ (形態・画像検査)	内川 義和	3	3		135	視能訓練士の実務経験を活かして視覚関連英語論文の内容の把握と知識の必要性を学習させる。	
	視能訓練学Ⅰ (病態評価の基本的知識)	岡野 真弓	2	2		30	本科目は「実務経験のある教員による授業科目」である。視能訓練士として眼科診療に係る実務経験をj持つ教員が、視能検査に関する基本知識を理解し、実践に活かすことができるよう、動画や症例を提示しながら講義する。	
	視能訓練学Ⅱ (弱視・斜視の病態)	内川 義和	3	2		30	本科目は「実務経験のある教員による授業科目」である。視能訓練士として眼科診療に係る実務経験をを持つ教員が、当該分野における問題点や課題を毎回の授業で提示し、履修者が課題解決のための学習ができるよう教授する。	
	視能訓練学Ⅲ (視能矯正管理の実践)	岡野 真弓	3	2		30	本科目は「実務経験のある教員による授業科目」である。視能訓練士として眼科診療に関わる実務経験をを持つ教員が、視能矯正の実践に必要な知識を理解し、実践に活かすことができるよう、症例を提示しながら講義する。	
	視能学総合演習Ⅰ (実践)	新井田 孝裕	3	1		30	本科目は実務経験のある教員による授業科目である。眼科医師として眼科診療に係る実務経験を持つ教員が、実務経験で得た専門知識や技術から、視能検査法や神経眼科疾患の診方、斜視手術の要点を教授する。	
	臨地実習Ⅰ (基本)	鈴木 賢治	3	1		45	眼科医師・視能訓練士として眼科診療の実務経験のある教員が、眼科臨床での経験をもちに臨床で求められる知識や技術について指導する。	
	保健福祉実習	岡野 真弓	3	1		45	本科目は「実務経験のある教員による授業科目」である。担当者は、事前・事後指導において実務経験で得た経験、専門知識や技術を教授し、履修者が保健、福祉、教育分野での視能訓練士の役割を具体的に理解できるように指導する。	
	視覚リハビリテーション	市邊 義章	3	1		30	本科目は「実務経験のある教員による授業科目」である。眼科医師あるいは視能訓練士として眼科診療に係る実務経験を持つ教員が、実務経験で得た専門知識の中から、ロービジョン/ロービジョンケアに関する基本的知識を毎回の授業で提示し、履修者が専門分野の基礎となる知識を理解し習得できるように教授する。	
	視覚リハビリテーション演習	内川 義和	3	1		30	眼科医師、視能訓練士、社会福祉士、同行援護従業者、盲人歩行指導員として同行援護、眼科診療、福祉に係る実務経験を持つ教員が、実務経験で得た専門知識や技術から基礎的技術を関連知識を教授し、履修者が基本的技術を習得できるように指導を行う。	
	視能学研究法Ⅰ (文献詳読)	原 直人	3	1		15	本科目は「実務経験のある教員による授業科目」である。眼科医師または視能訓練士として眼科診療に係る実務経験を持つ教員が、当該分野における問題点や課題を毎回の授業で提示し、履修者が課題解決のための学習ができるよう教授する。	
	視能検査学実習Ⅱ (応用)	岡野 真弓	4	1		45	視能訓練士として眼科診療における視能訓練士業務経験を有する担当教員が、実務経験で得た専門知識や技術から、幼児期の視覚スクリーニングに関わる知識と応用技術を教授し、履修者が実践的知識と技術を習得できるように指導を行う。	
	視能訓練学Ⅴ (発展)	内川 義和	4	2		60	各担当は視能訓練士、医師としての実務経験を活かして、視能訓練士に必要な学問的基礎固めと臨床に必要な視能検査学、病態などの知識を教授する。	
	臨地実習Ⅱ (応用)	鈴木 賢治	4	12		540	眼科医師・視能訓練士として眼科診療の実務経験のある教員が、眼科臨床での経験をもちに臨床で求められる知識や技術について指導する。	

卒業要件単位	126	単位
実務経験のある教員等による授業科目	143	単位

		授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数 必修/選択	時間	実務経験の授業への展開	備考
総合教育科目	人間系	文学論	山内 則史	1 2 3 4	2	30	新聞記者として文芸分野を10年間担当。記者時代の体験、過去の記事などを随時紹介する。新聞記事を使って、日々報じられる文学をリアルタイムで確認することで、社会の中にある文学の動向を意識しながら授業を展開する。	
		演劇論	山内 則史	1 2 3 4	1	15	新聞記者として演劇を担当。取材体験と過去の記事を随時紹介し、日本の新聞に掲載される演劇記事でリアルタイムの動きを参照しながら授業を展開したい。	
		雑誌と傾聴 ～話す力と聴く力～	中野 真也	1 2 3 4	2	30	臨床心理士、公認心理師、日本家族療法学会認定スーパーヴァイザー・ファミリーセラピストとしての臨床・指導経験から、患者・家族の関係やコミュニケーションを扱う家族療法家としての、実務経験を活かした「傾聴」の講義を行う。	
		宗教学	東海林 良昌	1 2 3 4	2	30	世界文化遺産等での講演経験、全日本仏教会WJ日本センター委員として他教団交流を深める中で諸宗教対話を学び、寺院住職、自坊での介護者カフェの主宰、介護者サポートネットワークチームむすび代表、全国介護者支援団体連合会副会長、聖徳大学グリーンケア研究所グリーンケア人材養成講座講師、坂総合病院倫理委員、塩産市社旗福祉協議会理事を務めながら、介護者支援、孤独孤立支援、人生の最終段階における医療について、宗教学として議論を重ねてきた経験を踏まえ、医療従事者として患者のこころに寄り添うということを感じてきています。	
		死生学 - 死を通して生を考える -	大園 康文	1 2 3 4	2	30	小児外科からがん治療、さらには緩和医療の臨床現場を経験しており、現在は在宅ケアを中心とした地域医療の実践から臨床死生学の実践を継続している。小児外科や障害者医療の経験から人生を生きていくの知恵を語り、緩和医療や高齢者における終わりの人生の迎え方を語る。	
		法学	森川 伸吾	1 2 3 4	2	30	弁護士としての実務経験から、条文の読み方の解説や事例についてのコメント等において、実務感覚が反映される。	
		日本国憲法	森川 伸吾	1 2 3 4	2	30	弁護士としての実務経験から、事例についての講評する際に、実務感覚が活かされる。	
		日本政治経済論	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
		マスメディア論	佐藤 伸	1 2 3 4	2	30	新聞社の記者として、地方記者、海外特派員を経験を生かし、授業の合間に、講師が記者として体験したことなどをニュースの裏面に語る話を随時します。また、時事問題を扱うことから、できるだけホットな話題を取り上げたいので、内容が前後したり、入れ替わる可能性があります。時間が許せば、テーマに従った記事執筆体験にも取り組まれます。	
		福祉経済学	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
社会系	アジア諸国の経済・社会・文化	山本 秀也	1 2 3 4	2	30	国際ジャーナリストとしてアジア諸国・地域（中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール）など海外に長期駐在し、現在も中国研究者として中国が地域に与える影響などをテーマとしています。地域研究の出発点となった中国哲学の視点から、現代アジアを見渡し、経済、社会、文化などいずれの領域にもさまざまな形で貢献が期待されていることをお話しします。		
	国際関係論	山本 秀也	1 2 3 4	2	30	国際ジャーナリストとして、アジア諸国・地域（中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール）と米国（ワシントン）に長期駐在し、アジアを中心とした国際問題の新聞論評（社説）を執筆する論説委員を務めた。専門分野は現代中国研究と国際安全保障。国際政治、安全保障の時論を国際関係の基礎理論と有機的に結びつける。		
	世界の経済	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。		
	国際医療福祉論	後藤 純信	1 2 3 4	2	30	大学や病院等で医師（脳神経外科・臨床神経生理）の知識・技術に関する以下の実務経験を有しており、その経験を生かし授業においては実際事例などを織り交ぜて、「国際医療福祉論」の講義を展開する。		
	ポランディア論	中村 哲也	1 2 3 4	2	30	社会福祉協議会ポランディアセンターでの実務経験を活かし、適宜事例を示しながら講義を行う。		
	ポランディアコーディネーター論	中村 哲也	1 2 3 4	2	30	社会福祉協議会におけるポランディア活動推進業務経験を生かした講義。さらに自身のポランディア活動経験からの課題などを生かした講義を展開する。		
	手話入門	荒川 涼子	1 2 3 4	2	30	地域の手話ボランティア養成講習会講師、手話通訳者の立場、また障害当事者の立場から、厚生労働省策定手話奉仕員養成カリキュラムを参考に、医療・介護の現場に役立つ手話や知識を教示している。		
	経済の仕組み	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。		
	経済の歴史	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。		
	自然・情報	疫学・保健医療統計学	島田 直樹	1 2 3 4	2	30	様々な業種の企業、特別地方公共団体、特別民間法人において、嘱託産業医としての実務経験がある。産業医は、労働現場において生じる様々な健康問題に対して、疫学の手法を用いて、原因の解明および対策の樹立を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科目にカウント
医療福祉教養講義		沢谷 洋平	1 2 3 4	1	15	青年海外協力隊での活動経験を伝達する。		
メディカルマナー入門		橋本 光康	1 2 3 4	2	30	航空会社国際線客室乗務員としての勤務経験や、医療機関で各種医療従事者と協働し、患者様接遇、クレーム対応等の実務経験をもち教員が担当する。国際線客室乗務員時代に身につけた日本式おもてなしのマナー、世界のマナー・プロトコルの実体験を、グローバルな医療現場での接遇、社会人に必要なコミュニケーションを身につけるべく、講義・演習・ディスカッション等に活かしている。		
専門教育科目	専門基礎/学部共通	総合講義 一起高齢社会で認知症と向き合う	橋本 光康	1 2 3 4	1	15	病院、施設及び専門機関での臨床、勤務経験を有する各教員が臨床又は実務経験を活かして、テーマに沿った授業を展開する。	
		公衆衛生学	野元 謙作	2	2	30	産業医は、産業保健を中心として、公衆衛生学のような領域に関する知識を活用して業務を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科目にカウント
		微生物と病気	久保田 紀子	1 2	2	30	小児科医として日常的に感染症患者の診療を行っている。小児感染症認定医の資格を有する。診療の他、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルスに関する基礎研究もしている。実務経験に基づき感染症の現状、問題点に関して、分かりやすく解説するとともに、現実的対応について討議する。	
		リハビリテーション概論	若江 幸三良	1 2	2	30	本学構内クリニックで整形外科診療を行っている。過去30年以上の大学病院での臨床実務経験をもとに、実際の経験症例を提示する。	※専門科目にカウント
		関連職種連携	橋本 光康	2	2	30	各教員は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、診療情報管理士、精神保健福祉士、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、生活相談員など各専門職の臨床経験を有する。病院や施設等に勤務する各専門職の有資格者の臨床経験を踏まえた講義を行う。	
		看護論	林 圭子	1	2	30	看護師・保健師・助産師での実務経験に基づいた講義を展開することでわかりやすく、イメージしやすい。各看護の専門領域について理解することが出来る。	
		ケアマネジメント論	磯 玲子	1 2	1	15	介護老人保健施設における支援相談員および居宅介護支援事業所における主任介護支援専門員（管理者）としてケアマネジメントに関わった実務経験を踏まえ、事例を紹介することや模擬事例を用いたケアプラン作成の一連のプロセスについての講義を行う。	
		ケースワーク論	木村 潤	1 2	1	15	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実践について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。	
		保健医療福祉制度論	木村 潤	1 2	2	30	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実践について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。	
		社会福祉学	若林 功	1 2	2	30	専門機関における相談援助（様々な事例における面接、ソーシャルワークの展開、施設内・機関間、地域連携、施設運営等の活動等）について経験を持つ教員が、相談援助職としての実務経験を踏まえ、各自の内容に照らし合わせ、事例など具体的な情報を加味した講義を行う。	
臨床心理学概論	清水 佐紀	1 2	2	30	臨床心理士の資格を有し、福祉領域での実務経験を有する教員が、支援の実践や、支援対象者の心理についてイメージできるように、臨床経験を活かした講義を行う。	※専門科目にカウント		
関連職種連携ワーク	橋本 光康	3	1	30	チーム担当教員は、看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・視能訓練士・臨床検査技師・診療放射線技師・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・薬剤師・診療情報管理士等であり、多くの教員が実務経験がある。各チーム担当教員の多くが現場での実務経験があり、グループワークの中では、その経験を交え、学生にアドバイスをし、技術修得に活かしていく。			
関連職種連携実習	家人 香代	4	1	45	各グループの実習担当教員の多くは、病院や福祉施設等での実務経験を有する。実習担当教員の実務経験を、現場の実習指導者のアドバイスにより、学生の討議をより活発にしている。			
専門基礎	臨床神経学	手塚 悠一	1 2 3	1	30	大学病院での神経内科専門医・指導医としての実務経験を踏まえた臨床神経学についての講義をする。		
	精神医学	山本 直樹	1 2 3	1	30	精神科専門医としての臨床経験を踏まえ、事例などを提示しながら授業を展開する。講義をする。		
	リハビリテーション医学	橋本 光康	1 2 3	1	30	授業内容にはリハビリテーション科医師として、臨床場面に加味して講義を展開している。講義の中で障害者などの事例を示し、より具体的なイメージを持ちやすくしている。		
	生化学実習	藤巻 慎一	1	1	45	臨床検査技師の臨床実務経験を有する教員らが、実際の臨床現場や研究活動等が必要とされる基本的な知識や技術について、経験談を交えながら解説し進めていく。		

授業科目の名称		教員名	配当年次	単位数 必修/選択	時間	実務経験の授業への展開	備考
専 門	医用工学・情報概論	嶺 喜隆	1	2	30	企業にて画像解析装置の研究・開発に従事した経験を生かし、画像診断装置等で医用工学がどのように利用されているかを解説する。	
	医用工学・情報実習	嶺 喜隆	1	1	45	企業にて画像診断装置の研究・開発に従事した経験を生かし、座学で学んだ内容を実験で確認し、理論がどのように実現・観測されるかを体験させる。	
	一般検査学	小笠原 篤	1	2	30	大学病院検査部（検体検査部門）において、臨床検査技師としての実務経験から、実際の臨床現場で必要とされる知識や技術について、経験談を交えながら明確に解説し進めていく。	
	遺伝子検査学	長田 誠	1	2	30	遺伝子検査学は、今後の臨床診断・治療に有用な情報をもたらす科目であるため、大学病院にて臨床検査技師として遺伝子関連検査に従事した経験を生かし、基礎から応用までわかりやすく講義する。	
	医科分子生物学	長田 誠	1 2 3		15	遺伝子工学は、今後の遺伝子診療に欠かせない技術であるため、大学病院にて臨床検査技師として遺伝子関連検査に従事した経験を生かし、基礎を中心にその臨床応用までわかりやすく講義する。	
	臨床検査管理総論	藤巻 慎一	1	2	30	本講義は、これまで約40年間携わってきた医療機関での現場経験や臨床検査技師会での会務経験を活かし、臨床検査技師になるために大切な知識やスキルは元より、臨床検査技師として将来のキャリアを考える機会となり得る授業を展開する。	
	臨床検査基礎演習	小笠原 篤	1	1	30	大学病院検査部（検体検査部門）において、臨床検査技師としての実務経験を有する教員が、実際の臨床現場や研究活動等で必要とされる基本的な知識や技術について、経験談を交えながら解説し進めていく。	

卒業要件単位	128	単位
実務経験のある教員等による授業科目	78	単位

総合教育科目	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験の授業への展開	備考
				必修	選択			
人間系	文学論	山内 則史	1 2 3 4	2	30	新聞記者として文芸分野を10年間担当。記者時代の体験、過去の記事などを随時紹介する。新聞記事を使って、日々報じられる文学をリアルタイムで確認することで、社会の中にある文学の動向を意識しながら授業を展開する。		
	演劇論	山内 則史	1 2 3 4	1	15	新聞記者として演劇を担当。取材体験と過去の記事を随時紹介し、日々の新聞に掲載される演劇記事でリアルタイムの動きを参照しながら授業を展開したい。		
	雑談と傾聴～話す力と聴く力～	中野 真也	1 2 3 4	2	30	臨床心理士、公認心理師、日本家族療法学会認定スーパーバイザー・ファミリーセラピストとしての臨床・指導経験から、患者・家族の関係やコミュニケーションを扱う家族療法家として、実務経験を活かしたコミュニケーションの講義を行う。		
	宗教学	東海林 良昌	1 2 3 4	2	30	世界仏教徒連盟等での国際経験、全日本仏教会WFB日本センター委員として他教団交流を深める中で諸宗教対話を学び、寺院住職、自坊での介護者カフェの主宰、介護者サポートネットワークケアむすび代表、全国介護者支援団体連合会副上智大学グループケア研究所グループケア人材養成講座講師、坂総合病院倫理委員、塩竈市社旗福祉協議会理事を務めながら、介護者支援、孤独孤立支援、人生の最終段階における医療について、宗教者として議論を重ねてきた経験を踏まえ、医療従事者として患者のところに寄り添うということを皆さんと共に考えていきます。		
	死生学-死を通して生を考える-	大園 康文	1 2 3 4	2	30	小児外科からがん治療、さらには緩和医療の臨床現場を経験しており、現在は在宅ケアを中心とした地域医療の実践から臨床死生学の実践を継続している。小児外科や障害者医療の経験からつらい人生を生きての知恵を語り、緩和医療や高齢者における終わりの人生の迎え方を看護師としての実務経験から、条文の読み方の解説や事例についてのコメント等において、実務感覚が反映される。		
社会系	法学	森川 伸吾	1 2 3 4	2	30	弁護士としての実務経験から、条文の読み方の解説や事例についてのコメント等において、実務感覚が反映される。		
	日本国憲法	森川 伸吾	1 2 3 4	2	30	弁護士としての実務経験から、事例について講評する際に、実務感覚が活かされる。		
	日本政治経済論	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。		
	マスメディア論	佐藤 伸	1 2 3 4	2	30	新聞社の記者として、地方記者、海外特派員を経験を生かし、授業の合間に、講師が記者として体験したことなどをニュースの裏側に関する話を随時します。また、時事問題を扱うことから、できるだけホットな話題を取り上げたいので、内容が前後したり、入れ替わる可能性があります。時間が許せば、テーマに従った記事執筆体験にも取り組みます。		
	福祉経済学	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。		
	アジア諸国の経済・社会・文化	山本 秀也	1 2 3 4	2	30	国際ジャーナリストとしてアジア諸国・地域(中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール)など海外に長く駐在し、現在も中国研究者として中国が地域に与える影響などをテーマとして、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。地域研究の出発点となった中国哲学の視点から、現代アジアを見渡し、経済、社会、文化などいづれの領域にもさまざまな形で備が影響していることを紐解きます。		
	国際関係論	山本 秀也	1 2 3 4	2	30	国際ジャーナリストとしてアジア諸国・地域(中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール)と米国(ワシントン)に長期駐在し、アジアを中心とした国際問題の新聞論評(社説)を執筆する論説委員を務めた。専門分野は現代中国研究と国際安全保障、国際政治、安全保障の時論を国際関係の基礎理論と有機的に結びつける。		
	世界の経済	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。		
	国際医療福祉論	後藤 純信	1 2 3 4	2	30	大学や病院等で医師(脳神経外科・臨床神経生理)の知識・技術に関する以下の実務経験を有しており、その経験を生かし授業においては実際事例などを織り交ぜて、「国際医療福祉論」の講義を展開する。		
	ボランティア論	中村 哲也	1 2 3 4	2	30	社会福祉協議会ボランティアセンターでの実務経験を活かし、適宜事例を示しながら講義を行う。社会福祉協議会におけるボランティア活動推進業務経験を生かした講義。さらには自身のボランティア活動経験からの課題などを生かした講義を展開する。		
	ボランティアコーディネート論	中村 哲也	1 2 3 4	2	30	地域の手話奉仕員養成講習会講師、手話通訳者の立場、また障害当事者の立場から、厚生労働省策定手話奉仕員養成カリキュラムを参考に、医療・介護の現場に役立つ手話や知識を教示していく。		
	自然・情報系	経済の仕組み	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
経済の歴史		光山 奈保子	1 2 3 4	2	30	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表現できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。		
疫学・保健医療統計学		島田 直樹	1 2 3 4	2	30	様々な業種の企業、特別地方公共団体、特別民間法人において、嘱託産業医としての実務経験がある。産業医は、労働現場において生じる様々な健康問題に対して、疫学的手法を用いて、原因の解明および対策の樹立を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科目にカウント	
コンピュータの基礎		杉山 直樹	1	2	30	企業にてPACSや医療機器の開発に長年従事。その間各種のコンピュータを用いて、システム開発、解析・シミュレーションのためのプログラム開発、機器開発、システム構築等の実務経験を有する教員が、ソフトウェア開発やシステム構築で得た知識をもとに、コンピュータ内部でどのように計算しているかを伝え、PCを有効に活用するための基礎を伝える。	※専門科目にカウント	
医療福祉教養講義		沢谷 洋平	1 2 3 4	1	15	青年海外協力隊での活動経験を伝達する。		
総合系	メディカルマナー入門	橋本 光康	1 2 3 4	2	30	航空会社国際線客室乗務員としての勤務経験や、医療機関で各種医療従事者と協働し、患者様接遇、クレーム対応等の実務経験をもつ教員が担当する。国際線客室乗務員時代に身に着けた日本式おもてなしのマナー、世界のマナー・プロトコルの実体験を、グローバルな医療現場での接遇、社会人に必要なビジネスマナーを身につけるべく、講義・演習・ディスカッション等に活かしている。		
	総合講義 一超高齢社会で認知症と向き	橋本 光康	1 2 3 4	1	15	病院、施設及び専門機関での臨床、勤務経験を有する各教員が臨床又は実務経験を活かして、テーマに沿った授業を展開する。		
	公衆衛生学	島田 直樹	2	2	30	産業医は、産業保健を中心として、公衆衛生学の様々な領域に関する知識を活用して業務を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科目にカウント	
専門教育科目	微生物と病気	山岸 裕和	1 2 3 4	2	30	小児科医として日常的に感染症患者の診療を行っている。小児感染症認定医の資格を有する。診療の他、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルスに関する基礎研究もしている。実務経験に基づき感染症の現状、問題点に関して、分かりやすく解説するとともに、現実的対応について討議する。		
	関連職種連携論	橋本 光康	2	2	30	各教員は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、診療情報管理士、臨床保健福祉士、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、生活相談員など各専門職の臨床経験を有する。病院や施設等に勤務する各専門職の有資格者の臨床経験を踏まえた講義を展開する。		
	看護論	林 圭子	1	2	30	看護師・保健師・助産師での実務経験に基づいた講義を展開することでわかりやすく、イメージしやすく、各看護の専門領域について理解することが出来る。		
	ケアマネジメント論	磯 玲子	2 3 4	1	15	介護老人保健施設における支援相談員および居宅介護支援事業所における主任介護支援専門員(管理者)としてケアマネジメントに関わった実務経験を踏まえ、事例を紹介することや模擬事例を用いたケアプラン作成の一連のプロセスについての講義を行う。		
	ケースワーク論	木村 潤	1 2 3 4	1	15	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実際について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。		
	保健医療福祉制度論	木村 潤	1 2 3 4	2	30	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実際について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。		
	公衆衛生学	島田 直樹	2	2	30	産業医は、産業保健を中心として、公衆衛生学の様々な領域に関する知識を活用して業務を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科目にカウント	
	看護論	林 圭子	1	2	30	看護師・保健師・助産師での実務経験に基づいた講義を展開することでわかりやすく、イメージしやすく、各看護の専門領域について理解することが出来る。		

	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験の授業への展開	備考
				必修	選択			
	社会福祉学	若林 功	1 2 3 4	2	2	30	専門機関における相談援助(様々な事例における面接・ソーシャルワークの展開、施設内・機関間・地域連携、施設運営等の活動等)について経験を持つ教員が、相談援助職としての実務経験を踏まえ、各回の内容に照らし合わせ、事例など具体的な情報を加味した講義を行う。	
	臨床心理学概論	清水 佐紀	1 2 3 4	2	2	30	臨床心理士の資格を有し、福祉領域での実務経験を有する教員が、支援の実際や、支援対象者の心理についてイメージできるように、臨床経験を活かした講義を行う。	※専門科目に
	関連職種連携ワーク	橋本 光康	3	1	1	30	チーム担当教員は、看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・視能訓練士・臨床検査技師・診療放射線技師・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・薬剤師・診療情報管理士等であり、多くの教員が実務経験がある。	
	関連職種連携実習	家入 香代	4	1	1	45	各グループの実習担当教員の多くは、病院や福祉施設等での実務経験を有する。実習担当教員の実務経験や、現場の実習指導者のアドバイスにより、学生の討議をより活発にしていける。	
専門基礎	病理学	福澤 龍二	2	2	2	30	小児科専門医、病理専門医、細胞診専門医、分子病理専門医として国内や海外の大学や基幹病院で豊富な臨床経験を過ごし、将来臨床で役に立つように医学の初歩から発展まで含めた講義をします。	
	医学概論	洲鎌 秀水	1	2	2	30	医師としての臨床・基礎医学の実務経験を加味し、テキストの内容を超えた授業展開とする。	
	看護概論	林 圭子	3	1	1	15	看護師・保健師・助産師での具体的経験に基づき、抽象化された事柄をわかりやすく講義することでイメージをつかせるように繋がる。	
専門	放射線科学演習	座間 佳男	2	1	1	30	診療放射線技師として放射線の取扱、管理業務の実務に従事した教員が、放射線の取扱、管理業務の実務を通して、放射線に関する基礎科学(放射線物理学、放射線生物学、放射化学、放射線計測学)、放射線管理の実務、法令について講義する。	
	放射線計測学	座間 佳男	2	1	1	30	診療放射線技師、第1種放射線取扱主任者及び医学物理士として大学病院で10年程度、放射線計測、放射線管理、放射線治療業務に従事した経験のある教員がその経験(例:ファーマー型電離箱を用いた標準計測法の実務)を活かし業務内容の詳細を講義(例:放射線治療における線量測定)の授業を展開する。	
	放射線計測学実験	座間 佳男	2	1	1	45	診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員および放射線研究に従事した経験のある教員がその経験(例:ファーマー型電離箱を用いた標準計測法の実務)を活かして、学内にある装置を用いた実験形式による実践的教育(例:高エネルギーX線の吸収線量の測定)を展開する。	
	放射線管理学	島雄 大介	2	2	2	30	診療放射線技師として放射線の取扱、管理業務の実務に従事した教員が、放射線防護に関する知識、放射線管理の実務、法令について講義する。	
	放射線管理学実験	橋本 光康	4	1	1	45	診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員がその経験を生かして、学内にある装置を用いた実験形式による実践的教育を実施する。	
	放射線関係法規	細貝 良行	3	1	1	15	診療放射線技師の核医学検査業務を通して、診療放射線技師法や放射性同位元素等規制法、医療法への法に基づいたRIの管理、原子力規制委員会との法的手続きなどの業務経験がある教員が、実際の現場での実態に則したRIの管理・運用方法を授業内容に反映している。手続きや管理帳簿について教科書だけではなく、実例に基づいた紹介をすることで学生の各種法令への理解を促進していくように努めている。	
	画像情報学Ⅰ(感光理論・処理)	西川 祝子	1	2	2	30	診療放射線技師として医療機関で放射線業務に従事した経験のある教員がその経験を活かし、業務に必要とされる画像情報学の内容について詳細な講義を展開する。	
	画像情報学実験	本村 信篤	1	1	1	45	診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員および医療機器の研究開発に従事した経験のある教員がその経験を生かして、学内にある装置を用いた実験形式による実践的教育を実施する。	
	コンピュータ演習Ⅰ(データ処理)	杉山 直樹	1	1	1	30	企業にてPACSや医療機器の開発に長年従事し、システム開発、解析・シミュレーションのためのプログラム開発、機器開発、システム構築を行った経験のある教員が、ソフトウェア開発やシステム構築で得た知識をもとに、Word、Excelなどの使い方を指導する。	
	コンピュータ演習Ⅱ(プログラミング)	杉山 直樹	2	1	1	30	企業にてPACSや医療機器の開発に長年従事し、システム開発、解析・シミュレーションのためのプログラム開発、機器開発、システム構築を行った経験のある教員が担当する。ソフトウェア開発やシステム構築で得た知識をもとに、模倣(まね)をすることで始めればプログラムを作成することが簡単であることを学びながら、コンピュータの仕組みを理解することを通し、将来の医療システムの利用がより容易に行えるように指導する。	
	医療情報システム論	杉山 直樹	3	1	1	15	担当教員は、企業にてPACSや医療機器の開発に長年従事し、システム開発、解析・シミュレーションのためのプログラム開発、機器開発、システム構築を、ユーザである病院システム担当者・診療放射線技師・放射線科医師と共にやった。また、JIRA、医機連の依頼を受け、IMDRFにて医療機器のITセキュリティを保持するためのガイドラインの策定に参加した経験がある。システム開発・構築の際には、医療施設での運用・利用状況を確認し、その実情に合わせて調整を行う。複数の医療施設での臨床現場での状況も含めて講義を行う。	
	医用工学	嶺 喜隆	1	1	1	30	画像診断機器メーカーで画像診断装置の研究および製品開発に従事した経験から、画像診断機器で医用工学がどのように利用されているかを解説する。	
	医用工学演習	嶺 喜隆	2	1	1	30	画像診断機器メーカーで画像診断装置の研究および製品開発に従事した経験から、座学で学んだ内容を実験で確認し、理論がどのように実用・観測されるかを体験させる。	
	X線機器工学	島雄 大介	1	2	2	30	診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員がその経験を活かして業務内容と関連する事項と絡めながら実践的教育を展開する。	
	診療画像機器工学	嶺 喜隆	2	1	1	30	(超音波)画像診断装置メーカーで超音波診断装置を研究開発した経験のある教員が、臨床の超音波画像に超音波理論がどのように影響しているかを解説する。(MRI)磁気共鳴専門技術者(上級)、診療放射線技師として医療機関で放射線検査(MRI含む)業務に従事した経験のある教員が、臨床現場でMRI検査に携わった実務経験に基づき、MRIの撮像原理およびMRI装置構成について詳しく講義する。	
	X線機器工学実験	河野 良介	2	1	1	45	診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員がその経験を生かして、学内にある装置を用いた実験形式による実践的教育を実施する。	
	診療画像機器工学実験	丸山 純人	2	1	1	45	診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員および医療機器の研究開発に従事した経験のある教員がその経験を生かして、学内にある装置を用いた実験形式による実践的教育を実施する。	
	診療放射線概論	橋本 光康	1	1	1	15	医療機関等において診療放射線技師あるいは医学物理士としての臨床業務経験、研究開発に従事した経験を活かし、診療放射線業務における現状課題と将来展望について講義を展開する。	
	診療画像検査学概論	岡野 員人	1	1	1	15	診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員がその経験を活かし、診療放射線技師が行う画像検査の概要を講義する。	
	X線検査学Ⅰ(単純撮影・他)	島雄 大介	2	1	1	30	診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員がその経験を活かし業務内容の詳細を講義する実践的教育を展開する。	
	X線検査学Ⅱ(造影検査・他)	西川 祝子	2	1	1	30	診療放射線技師として医療機関で放射線業務に従事した経験のある教員がその経験を活かし業務内容の詳細を講義する実践的教育を展開する。	
X線CT検査学	岡野 員人	2	2	2	30	診療放射線技師としての臨床経験をもとにCT検査の接遇や撮影時のポイントについて話をし、診療放射線技師として臨床現場でMRI検査に携わった実務経験に基づき、MRI検査の基礎から臨床現場で必要とされる知識・技術まで詳しく講義する。		
MRI検査学	丸山 純人	4	1	1	30	診療放射線技師、磁気共鳴専門技術者(上級)として医療機関での放射線検査(MRI含む)業務に従事した実務経験に基づき、MRI検査の臨床および最新技術について詳しく解説する。		
超音波検査学	嶺 喜隆	2	2	2	30	画像診断装置メーカーで超音波診断装置を研究開発に従事した経験のある教員が、臨床の超音波画像に超音波理論がどのように影響しているかを解説する。また、超音波検査の臨床業務経験のある教員が、超音波検査が臨床業務にどのように使われているかを解説する。		
診療画像学実験Ⅰ(X線検査・他)	西川 祝子	2	1	1	45	診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員がその経験を生かして、学内にある装置を用いた実験形式による実践的教育を実施する。		
診療画像学実験Ⅱ(CT・MRI・超音波検査)	岡野 員人	2	1	1	45	診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員がその経験を生かして、学内にある装置を用いた実験形式による実践的教育を実施する。		
核医学Ⅰ(基礎)	細貝 良行	2	2	2	30	診療放射線技師として核医学検査に携わり、PETやサイクロトロンなどの立ち上げにも関わった経験を活かした講義を行う。また、それぞれの分野で論文(英文を含む)記述の経験があり、特に核医学ならびにMRIの臨床データ収集・解析において研究を含めた講義を行う。		
核医学Ⅱ(臨床)	松本 健希	3	2	2	30	教科書的な内容だけでなく、現場での運用を含めたより実践的な知識を盛り込む。また、臨床だけでなく放射性同位元素の管理や取り扱い、診療放射線技師法改正に伴う診療放射線技師の業務拡大内容についても紹介する。		
核医学実験	細貝 良行	3	2	2	60	本授業は、診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員がその経験を生かして、学内にある装置を用いた実験形式による実践的教育を実施する。		
核医学特論	細貝 良行	4	1	1	30	診療放射線技師として核医学検査に携わり、PETやサイクロトロンなどの立ち上げにも関わった経験を活かした講義を行う。また、それぞれの分野で論文(英文を含む)記述の経験があり、特に核医学ならびにMRIの臨床データ収集・解析において研究を含めた講義を行う。		
放射線治療学Ⅰ(物理・技術)	橋本 光康	2	2	2	30	医療従事者、放射線業務従事者として培った経験を活かし、放射線治療業務に必要な知識等について、現状課題と将来展望を含めた講義を展開する。		

授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験の授業への展開	備考
			必修	選択			
放射線治療学Ⅱ(臨床)	橋本 光康	3	2		30	医療従事者(診療放射線技師・医学物理士・放射線治療品質管理士)として培った経験を活かし、がん治療に関連する幅広い知識にも触れながら放射線治療の現状課題と将来展望について講義を展開する。	
放射線治療機器工学	橋本 光康	2	1		15	医療従事者(診療放射線技師・医学物理士・放射線治療品質管理士)として培った経験を活かし、放射線治療関連機器の基本原理を中心に講義を展開する。また、その特徴を利用した技術等について品質管理の視点から将来展望も含めて講義を展開する。	
放射線治療学実験	橋本 光康	3	2		60	医療機関において診療放射線技師・医学物理士・放射線治療品質管理士として放射線治療業務に従事した教員および研究開発に従事した教員がその経験を活かし、放射線治療業務に必要な基礎および実践的な知識・技能について学内にある装置等を用いて教育を展開・実施する。	
放射線腫瘍特論	橋本 光康	4		1	30	医療従事者、放射線業務従事者として培った経験を活かし、これまで学習してきた放射線治療業務に必要な知識・実務上必要な技能等について総合的に纏め、基礎学力と応用力を向上させるための講義を展開する。	
画像解剖学	川住 祐介	2	1		30	放射線診断医の立場から、放射線技師に必要とされる画像・疾患の知識を解説することができ	
画像診断学	大嶽 達	4	1		30	病院での放射線画像診断の実務経験から 日常的にしばしば画像診断の対象となる疾患画像を選択して学生に解説している	
画像診断学演習	細貝 良行	4		1	30	日々の画像読影に関する業務において得た、様々な疾患や最新の医療技術の知見を基に講義を展開する。	
臨床医学Ⅰ(基礎)	川住 祐介	3	1		30	放射線診断医の立場から、放射線技師に必要とされる画像・疾患の知識を解説することができ	
臨床医学Ⅱ(発展)	川住 祐介	4	1		30	放射線診断医の立場から、放射線技師に必要とされる画像・疾患の知識を解説することができ	
医療安全概論	西川 祝子	3	1		30	診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員がその経験を活かし、学内にある装置を用いた演習形式による実践的教育を展開する。	
医療安全管理学	細貝 良行	4	1		30	診療放射線技師として核医学検査に携わり、PETやサイクロロンなどの立ち上げにも関わった経験を踏まえた講義を行う。医療安全に関しては、以前所属していた各施設における対応を参考にしながら実際の環境を参考にした講義を行う。	
臨床画像学演習	丸山 純人	3	2		60	診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員がその経験を活かし、学内にある装置を用いた演習形式による実践的教育を展開する。	
診療画像臨床実習	西川 祝子	3	8		360	学外での実習では、医療機関にて放射線業務に従事している診療放射線技師により実践的教育が実施される。学内では診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員が、臨床実習前、実習中、実習後の指導、フォローアップを行う。	
核医学検査臨床実習	西川 祝子	3	2		90	学外での実習では、医療機関にて放射線業務に従事している診療放射線技師により実践的教育が実施される。学内では診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員が、臨床実習前、実習中、実習後の指導、フォローアップを行う。	
放射線治療臨床実習	西川 祝子	3	2		90	学外での実習では、医療機関にて放射線業務に従事している診療放射線技師により実践的教育が実施される。学内では診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員が、臨床実習前、実習中、実習後の指導、フォローアップを行う。	
診療放射線特論	岡野 員人	4	1		30	診療放射線技師として医療機関での放射線業務に従事した経験のある教員または卒業生がその経験を活かし、病院で働くための心得やマナー、今後の診療放射線技師の展望について講義する。	

卒業要件単位数	124	単位
実務経験のある教員等による授業科目	138	単位

授業科目の名称	教員名	配当年度	単位数		時間	コース別必修					実務経験のある教員による授業科目	備考		
			必修	選択		福祉		経営						
						社会	精神	介護	診療	メン			エ	
総合教育科目	人間系	文学論	山内 則史	1 2 3 4	2	30							新聞記者として文芸分野を10年間担当。記者時代の体験、過去の記事などを随時紹介する。新聞記事を使って、日々変わる文学や文化の動向を捉え、社会の中にある文学の動向を意識しながら授業を展開する。	
		演劇論	山内 則史	1 2 3 4	1	15							新聞記者として演劇を担当。取材体験と過去の記事を随時紹介し、日々の新聞に掲載される演劇記事についてリアルタイムの動きを参照しながら授業を展開したい。	
		雑談と雑感 ~話す力と聴く力~	中野 真也	1 2 3 4	2	30							臨床心理士、公認心理師、日本家族療法学会認定スーパーヴァイザー・ファミリーセラピストとしての臨床・指導経験を、患者・家族の悩みやコミュニケーションを扱う家族療法家として、実務経験を活かしてコミュニケーションの構築を行う。	
		宗教学	東海林 良昌	1 2 3 4	2	30							世界仏教伝道連盟での国際経験、全日本仏教会WFJ日本セクタ委員として他教団交流を深める中での諸宗教対話を学び、寺院住職、自らの介護者ケアの経験、介護者ケアネットワークワークアップで代表、全国介護者支援団体の運営上層大学グループアップアップアップ人材養成講座講師、坂城合同病院倫理委員、地産市産福祉協議会理事を務めながら、介護者支援、孤獨孤立支援、人生の最終段階における医療について、宗教者として議論を重ねてきた経験を活かす。医療従事者として患者のこころを寄り添うことを目指し、共に生きていく。	
		死生学-死を通して生を考える-	大園 康文	1 2 3 4	2	30							小児外科からがん治療、さらには緩和医療の臨床現場を経験しており、現在は在宅ケアを中心とした地域医療の実践から臨床死生学の実践を継続している。小児外科や障害者医療の経験からつらい人生を生きのびる知恵を語り、緩和医療や高齢者における終末の人生の迎え方を語る。	※専門科
		生きがい論	鏡本 隆行	1 2 3 4	2	30							介護士としての実務経験から、条文の読み方の解説や事例についてのコメント等において、実務感覚が反映される。	
		法学	森川 伸吾	1 2 3 4	2	30							介護士としての実務経験から、事例について講評する際に、実務感覚が活かされる。	
		日本国憲法	森川 伸吾	1 2 3 4	2	30							介護士としての実務経験から、事例について講評する際に、実務感覚が活かされる。	
		社会学	渡辺 修宏	1 2 3 4	2	30			○				ソーシャルワーカーとして専門機関における実務経験、およびNPO、NPO等における臨床経験、あるいはさまざまなボランティア経験から、授業内容の幅広い内容と実務経験を学ぶ。	※専門科
		日本政治経済論	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30							日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表せることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を踏まえて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の座標を身につけることを目指す。	
		マスメディア論	佐藤 伸	1 2 3 4	2	30							日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表せることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を踏まえて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の座標を身につけることを目指す。	
		福祉経済学	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30							日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表せることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を踏まえて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の座標を身につけることを目指す。	
		アジア諸国の経済・社会・文化	山本 秀也	1 2 3 4	2	30							国際ジャーナリストとしてアジア諸国・地域(中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール)など海外に長年駐在し、現在も中国研究者として中国が地域に与える影響などをテーマとしています。地域研究の発祥地となった中国留生の視点から、現代アジアを多角的に「経済・社会・文化」など多岐にわたる領域から捉え、さまざまな形で情報発信していることを目指す。	
		国際関係論	山本 秀也	1 2 3 4	2	30							国際ジャーナリストとして、アジア諸国・地域(中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール)と米国(ワシントン)に長期駐在し、アジアを中心とした国際問題の新聞論評(社説)を執筆する編集委員を務めた。専門分野は現代中国研究との国際安全保障、国際政治、安全保障の諸論を国際関係の基礎理論と有機的に結びつけていく。	
		世界の経済	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30							日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表せることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を踏まえて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の座標を身につけることを目指す。	
		国際医療福祉論	後藤 純信	1 2 3 4	2	30							大学や病院等で医師(脳神経外科・臨床神経生理)の知識・技術に関する以下の実務経験を有しており、その経験を生かして、授業においては実際の事例などを織り交ぜて、「国際医療福祉論」の講義を展開する。	
		ボランティア論	中村 哲也	1 2 3 4	2	30							社会福祉協議会ボランティアセンターでの実務経験を踏まえ、事例を用いた講義を行う。	
		ボランティアコーディネート論	中村 哲也	1 2 3 4	2	30							社会福祉協議会におけるボランティア活動推進業務経験を踏まえた講義。	
		手話入門	荒川 涼子	1 2 3 4	2	30							地域の生活福祉推進協議会講師、手話聴覚者の立場、聴覚障害者の立場から、厚生労働省策定手話手帳員養成カリキュラムを参考に、医療・介護の現場に役立つ手話や知識を教示していく。	
		経済の仕組み	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30							日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表せることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を踏まえて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の座標を身につけることを目指す。	
		経済の歴史	光山 奈保子	1 2 3 4	2	30							日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表せることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を踏まえて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の座標を身につけることを目指す。	
		自然・情報	疫学・保健医療統計学	島田 直樹	1 2 3 4	2	30						様々な業種の企業、特別地方公共団体、特別民間法人において、嘱託産業医としての実務経験がある。産業医は、労働現場において生じる様々な健康問題に対して、疫学的手法を用いて、原因の解明および対策の樹立を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科
		総合系	医療福祉教養講義	浪谷 洋平	1 2 3 4	1	15						青年海外協力隊での活動経験を伝達する。	
			メディカルマナー入門	橋本 光康	1 2 3 4	2	30						接客や国際線客室乗務員としての勤務経験や、医療機関で各種医療従事者と協働し、患者様接客、グループ対応等の実務経験をもち教員が担当する。国際線客室乗務員時代に身につけた日本語でのマナー、世界のマナー・プロトコルの実践を、グローバルな医療現場での接遇、社会人に必要なビジネスマナーを身につけるための、講義・演習・ディスカッション等が活かされる。	
			総合講義-超高齢社会で認知症と向き合う	橋本 光康	1 2 3 4	1	15						病院、施設及び専門機関での臨床、勤務経験を有する各教員が臨床又は実務経験を活かして、テーマに沿った授業を展開する。	
		専門基礎/学部共通	公衆衛生学	野元 謙作 島田 直樹	1 2 3 4	2	30						産業医は、産業保健を中心として、公衆衛生学の様々な領域に関する知識を活用して業務を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。	※専門科
			微生物とウイルス	山岸 裕和	1 2 3 4	2	30						小児科医師として日常的に感染症患者の診療を行っている。小児感染症認定医の資格を有する。診療の他、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルスに関する基礎研究も手がけている。実務経験に基づき感染症の現状、問題点に関して、分かりやすく解説する。また、最新の対応について、最新情報も取り入れる。	
			関連職種連携	橋本 光康	2	2	30			○	○		各教員は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、福祉士、保健師、臨床検査技師、診療情報管理士、精神保健福祉士、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、生活相談員など各専門職の臨床経験を有する。病院や施設等、各勤務する各専門職の資格者の臨床経験を踏まえた講義を展開する。	
			看護論	林 圭子	1	2	30						看護師、保健師としての実務経験に基づいた講義を展開することにより、学生の理解をより深め、各勤務の専門領域について理解することが出来る。	
			ケアマネジメント論	磯 玲子	1 2 3 4	1	15						介護老人保健施設における支援相談員および居宅介護支援事業所における主任介護支援専門員(管理者)としてケアマネジメントに関与した実務経験を踏まえ、事例を紹介することや模擬事例を用いたケアプラン作成の一連のプロセスについて講義を行う。	
			ケースワーク論	木村 潤	1 2 3 4	1	15						精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実践について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。	
			保健医療福祉制度論	木村 潤	1 2 3 4	2	30						精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実践について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。	
			社会福祉学	若林 功	1 2 3 4	2	30						専門機関における相談援助(様々な事例における面接・ソーシャルワークの展開、施設内・民間機関・地域連携、施設運営等の活動等)について経験をもち教員が、相談援助職としての実務経験を踏まえ、各回の内容に照らし合わせ、事例を用いた具体的な知識を教示し、理解を促す。	
			臨床心理学概論	清水 佐紀	1 2 3 4	2	30						臨床心理士の資格を有し、福祉領域での実務経験がある教員が、支援の実際や、支援対象者の心理についてイメージできるように、臨床経験を踏まえた講義を行う。	※専門科
			関連職種連携ワーク	橋本 光康	3	1	30			○	○		チーム担当教員は、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床検査技師、診療放射線技師、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、薬剤師、診療情報管理士等であり、多くの教員が実務経験がある。各チーム担当教員の多くが現場での実務経験があり、グループワークの中では、その経験を交え、学生にアドバイスをし、技術修得に活かしていく。	
			関連職種連携実習	家人 香代	4	1	45						各グループの実習担当教員は、病院や福祉施設等での実務経験を有する。実習担当教員の実務経験や、現場の実習指導者のアドバイスにより、学生の理解をより深め、各勤務の専門領域について理解することが出来る。	
		専門	こころからのしくみ I (身体)	新井 祥子	1 2	2	30			介	-		介護施設での実務経験を踏まえ、介護実践に必要なからだのしくみや健康などについて、事例や個人・グループワーク交えながら授業を行います。	
			こころからのしくみ II (精神)	山本 博之	1 2	2	30			介	-		介護施設での実務経験を踏まえ、生活に障害を持った人の事例を交え、からだのしくみについて理解が深まるような授業を行います。	
			医学概論	関吉 俊孝	1 2	2	30						医師としての実務経験を踏まえ、事例を用いた講義を行う。	
			医療概論	関吉 俊孝	1 2	2	30						医師としての実務経験を踏まえ、事例を用いた講義を行う。	
			社会福祉の原理と政策 I	山口 佳子	1 2	2	30			○			地域包括支援センター、介護老人保健施設等における相談援助の実務経験に基づき、ソーシャルワークの倫理、知識、技術について講義を行う。	
			ソーシャルワークの基盤と専門職 I	山口 佳子	1 2	2	30						保健福祉の現場における社会福祉士および言語聴覚士としての実務経験に基づき、多職種多機関連携の手法について講義を行う。	
			ソーシャルワークの基盤と専門職 II	山口 佳子	1 2	2	30						地域包括支援センター、介護老人保健施設等における相談援助の実務経験に基づき、ソーシャルワークの倫理、知識、技術について講義を行う。	
			介護の基本 I (介護福祉士の職務・職業)	中西 正人	1 2	4	60						介護老人保健施設や認知症対応型通所介護事業所等における介護福祉士としての実務経験を踏まえ、介護福祉士の基本となる理念や介護福祉士の役割と理解などについて、適宜事例を用いながら伝えていく。	
			生活支援技術 I (生活支援)	武田 真理子	1 2	2	30						高齢者介護施設における介護職としての実務経験を踏まえ、高齢者介護施設での看護、介護、介護支援専門員等の経験を踏まえて教示する。	
			人間関係とチームケア	鏡本 隆行	1 2	2	30						日本を海外の社会の隔ちをまた経験とともに、デンマークの高齢者ケアの実践をもとに回想法を実施してきた経験から、適切で幅広い事例を示しながら伝えていく。	

医療管理総論	滝澤 雅美	1	2	30						担当教員は病院での実務経験があり、診療情報管理士(診療情報管理士指導者)の資格を有する。日本の医療制度、医療機関の法規定などの法律についても実際の病院の具体的な事例を示しながら講義を行う。また、医療資源(物的資源、人的資源、財的資源、情報資源)については、担当教員の実務経験を元に例題を用いながら講義を行う。
簿記論Ⅰ(基礎)	松岡 一路	1	2	30						担当教員はかつて総合商社に勤務し、事業投資先に対する監査、そして取引先に対する信用調査や財務アドバイスの経験がある。タイに設立した新会社に役員として出向し、財務諸表の分析がいかに経営に役立つかがよく理解している。簿記・会計では「勘定科目」を用いて取引を記録する。学生の皆さんは実務経験がないので、この「勘定科目」の理解に苦労する。実務で得た知識・経験をもとに、学生の皆さんにもわかりやすく、その意味を説明する。英文会計では「勘定科目」を基盤としていたと古くからの認識は日本式で行います。
簿記論Ⅱ(応用)	松岡 一路	1	2	30						担当教員はかつて総合商社に勤務し、事業投資先に対する監査、そして取引先に対する信用調査や財務アドバイスの経験がある。タイに設立した新会社に役員として出向し、財務諸表の分析がいかに経営に役立つかがよく理解している。簿記・会計では「勘定科目」を用いて取引を記録する。学生の皆さんは実務経験がないので、この「勘定科目」の理解に苦労する。実務で得た知識・経験をもとに、学生の皆さんにもわかりやすく、その意味を説明する。英文会計では「勘定科目」を基盤としていたと古くからの認識は日本式で行います。
臨床医学総論	上里 彰仁	1	2	30						本講義では、医師としての臨床経験にもとづく事例紹介を行う。医療現場で働くうえで必要となる基礎知識を理解できるように、ケーススタディを取り入れながら講義を行う。
ソーシャルワーク演習Ⅰ	中山 和幸/磯 玲子 須藤 昌寛/木村 潤 高石 麗理湖/中西 正人	1	2	30						児童福祉施設(児童養護施設、児童心理療育施設)において8年間、社会的養護を必要とする児童に対する心理的ケアや相談援助、さらに、児童の家族への支援、関係機関との連携等の臨床実践を経験した。それらの実務経験を踏まえ、ソーシャルワークの視点・知識・技術について、各授業の演習内容に照らし合わせて伝えていく。
臨床医学各論Ⅰ(新生物と消化器・泌尿器)	藤吉 俊孝	1	2	30						医師である講師自身が経験・担当した症例を交えるなど、実務経験を加味しテキストの内容を超えた授業展開とする。
臨床医学各論Ⅱ(精神・神経・感覚器)	藤吉 俊孝	1	2	30						医師である講師自身が経験・担当した症例を交えるなど、実務経験を加味しテキストの内容を超えた授業展開とする。
こころからのだしきみⅢ(生活支援)	武田 真理子	2	4	60	-	-	○	-	-	・高齢者介護現場における介護職としての実務経験から教養する。 ・高齢者介護施設での看護、介護、介護支援専門員等の経験から教養する。 ・高齢者介護や障害者介護の現場における介護職としての実務経験を活かし、適宜事例を示しながら行う。
コミュニケーション技術	渡辺 修宏	2	4	60	-	-	○	-	-	・高齢者介護や障害者介護の現場における介護職としての実務経験を活かし、適宜事例を示しながら行う。
介護の基本Ⅱ(自立に向けた介護等)	中西 正人	2	4	60	-	-	○	-	-	介護老人福祉施設や認知症対応型通所介護事業所等における介護福祉士としての実務経験を話し、介護実習に必要な法的制度などの知識や介護福祉職の業務内容および役割などについて、適宜事例を示しながら伝えていく。
介護過程Ⅰ(介護過程の意義・展開)	畠山 博之	2	4	60	-	-	○	-	-	介護老人福祉施設や認知症対応型通所介護事業所等における介護福祉士としての実務経験を話し、介護実習に必要な法的制度などの知識や介護福祉職の業務内容および役割などについて、適宜事例を示しながら伝えていく。
障害の理解	銭本 隆行	2	4	60	-	-	○	-	-	デンマークの障害者や福祉と暮らし、現地の認知症コーディネーター資格取得、高齢者施設にて回想法を多年にわたって実施してきた経験があり、N.E.バンクセル財団の理事を務める教員が、日本と海外の社会の隔々をまたいだ経験をもとに、デンマーク福祉の「ケア・マネジメント」の概念を軸として、適切に幅広い事例を示しながら伝えていく。
生活支援技術Ⅱ(身支度・移動の介護)	畠山 博之	2	4	60	-	-	○	-	-	介護福祉士(施設) 介護支援専門員(施設、在宅)としての、施設、在宅、病院における支援の経験から、基本的な手法と技術の応用に関する理論的考察を教養する。
生活支援技術Ⅲ(入浴・排泄・食事の介護)	武田 真理子	2	4	60	-	-	○	-	-	特別養護老人ホームでの介護福祉士としての経験を話し、本人主体の生活が継続できるように根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得に結び付ける。
生活支援技術Ⅳ(住環境・家事)	武田 真理子	2	4	60	-	-	○	-	-	特別養護老人ホームでの介護福祉士としての経験を話し、本人主体の生活が継続できるように根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得に結び付ける。
生活支援技術Ⅴ(睡眠・終末期の介護)	新井 祥子	2	2	30	-	-	○	-	-	・高齢者介護の現場における介護職としての実務経験から教養する。 ・高齢者介護や障害者介護の現場における介護職としての実務経験を活かし、適宜事例を示しながら行う。
医療的ケア論Ⅰ	新井 祥子	2	1	15	-	-	○	-	-	・高齢者施設での経験を話し、介護福祉士が医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えることが出来るよう、知識、技術や医療職との連携等について講義する。
介護実習Ⅰ(多様な施設における実習)	中西 正人 新井 祥子 成田 真理子	2	3	2	90	-	○	-	-	介護老人福祉施設や認知症対応型通所介護事業所等における介護福祉士としての実務経験を話し、介護実習に必要な法的制度などの知識や介護福祉職の業務内容および役割などについて、適宜事例を示しながら伝えていく。
介護総合演習Ⅰ(基礎)	中西 正人 新井 祥子 成田 真理子	2	3	2	60	-	○	-	-	介護老人福祉施設や認知症対応型通所介護事業所等における介護福祉士としての実務経験を話し、介護実習に必要な法的制度などの知識や介護福祉職の業務内容および役割などについて、適宜事例を示しながら伝えていく。
医療福祉関連法規	森川 慎吾	2	2	30						担当教員は、病院の医事課や診療情報管理士の職務経験を有する。講義で扱う内容を整理させ、医療機関を取り巻く問題と課題解決に必要なスキルを講義で扱う。
医療管理各論Ⅰ(病院管理)	坂本 幸平	2	2	30						担当教員は、病院の医事課や診療情報管理士の職務経験を有する。講義で扱う内容を整理させ、医療機関を取り巻く問題と課題解決に必要なスキルを講義で扱う。
医療管理各論Ⅱ(医療保険・介護保険)	坂本 幸平	2	2	30						担当教員は、病院の医事課や診療情報管理士の職務経験を有する。講義で扱う内容を整理させ、医療機関を取り巻く問題と課題解決に必要なスキルを講義で扱う。
医療管理各論Ⅲ(医療安全・医療の質)	山本 康弘	2	2	30						担当教員は、病院の医事課や診療情報管理士の職務経験を有する。講義で扱う内容を整理させ、医療機関を取り巻く問題と課題解決に必要なスキルを講義で扱う。
臨床医学各論Ⅳ(感染症・血液・代謝・内分泌)	藤吉 俊孝	2	3	30						医師である講師自身が経験・担当した症例を交えるなど、実務経験を加味しテキストの内容を超えた授業展開とする。
臨床医学各論Ⅴ(循環器・呼吸器・腎臓)	藤吉 俊孝	2	3	30						医師である講師自身が経験・担当した症例を交えるなど、実務経験を加味しテキストの内容を超えた授業展開とする。
経営学演習	坂本 幸平	2	2	60	-	-	○	-	-	講義で扱う内容を整理させ、現代の課題とアプローチ方法を講義内で学習する。
簿記論Ⅱ(商業簿記)	松岡 一路	2	3	30						担当教員はかつて総合商社に勤務し、事業投資先に対する監査、そして取引先に対する信用調査や財務アドバイスの経験がある。タイに設立した新会社に役員として出向し、財務諸表の分析がいかに経営に役立つかがよく理解している。簿記・会計では「勘定科目」を用いて取引を記録する。学生の皆さんは実務経験がないので、この「勘定科目」の理解に苦労する。実務で得た知識・経験をもとに、学生の皆さんにもわかりやすく、その意味を説明する。英文会計では「勘定科目」を基盤としていたと古くからの認識は日本式で行います。
簿記論Ⅲ(工業簿記)	松岡 一路	2	3	30						担当教員はかつて総合商社に勤務し、事業投資先に対する監査、そして取引先に対する信用調査や財務アドバイスの経験がある。タイに設立した新会社に役員として出向し、財務諸表の分析がいかに経営に役立つかがよく理解している。簿記・会計では「勘定科目」を用いて取引を記録する。学生の皆さんは実務経験がないので、この「勘定科目」の理解に苦労する。実務で得た知識・経験をもとに、学生の皆さんにもわかりやすく、その意味を説明する。英文会計では「勘定科目」を基盤としていたと古くからの認識は日本式で行います。
ソーシャルワーク演習Ⅱ	中村 哲也/須藤 昌寛 磯 玲子/高石 麗理湖 中山 和幸/若林 功	2	2	60						社会福祉士(介護老人保健施設)における支援相談員および居宅介護支援事業所における主任介護支援専門員としての実務経験を踏まえ、専門機関の現場における相談援助職としての実践経験に基づく指導(現場でのコピ、利用者像などの解説等)を行い、学生が事例をより現実的にイメージできるようにする。
認知症の理解	銭本 隆行	2	4	60	-	-	○	-	-	デンマークの認知症コーディネーター資格取得、高齢者施設にて回想法を多年にわたって実施してきた経験をもつ教員が、日本と海外の社会の隔々をまたいだ経験をもとに、デンマークの高齢者ケアの実践をもとに回想法を実施してきた経験をもとに、適宜幅広い事例を示しながら伝えていく。
発達と老化の理解	新井 祥子	2	4	60	-	-	○	-	-	・施設、病院での経験を話し、「エンフィールドの脳地図や「発達」の「進み方」について理解が深まるよう授業を展開する。
社会保障	伊奈川 秀和	2	3	4	60	○				担当教員は、厚生労働省において、社会保障の制度や政策の企画・立案に長年にわたり携り、特にこの授業の柱である医療保険や年金等の社会保障の実務にも従事した経験をもつ。実務経験を軸として、教科書などには書かれていないような制度の背景や理由についてもコメントしていきたい。
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	山本 由紀	2	3	4	60	○				社会福祉士(精神保健福祉士)としての臨床現場での経験知やエピソードを交えて授業を行う。また、実践事例(デザイン事例)を講義で取り上げながら解説する。
児童・家庭福祉	中山 和幸	2	3	4	60	○				児童福祉施設(児童養護施設、児童心理療育施設)において8年間、社会的養護を必要とする児童に対する心理的ケアや相談援助、さらに、児童の家族への支援、関係機関との連携等の臨床実践を経験した。それらの実務経験を踏まえ、児童・家庭福祉におけるソーシャルワークの視点・知識・技術について、現在のわが国の児童・家庭福祉における課題を軸として、適切に幅広い事例を示しながら伝えていく。
子ども家庭援助論	中山 和幸	2	3	4	60	○				児童福祉施設(児童養護施設、児童心理療育施設)において8年間、社会的養護を必要とする児童に対する心理的ケアや相談援助、さらに、児童の家族への支援、関係機関との連携等の臨床実践を経験した。それらの実務経験を踏まえ、子ども家庭福祉におけるソーシャルワークの視点・知識・技術について、現在のわが国の子ども家庭福祉における課題を軸として、適切に幅広い事例を示しながら伝えていく。
障害者福祉	山口 佳子	2	3	4	2	30	○			言語聴覚士としての実務経験に基づき、障害児者の医療・福祉のニーズおよび制度・サービスについて講義を行う。保健福祉の現場における実務経験に基づき、多職種多機関連携の手法について講義を行う。地域自立支援協議会、障害者差別解消法推進協議会の活動に基づき、地域自立生活支援や障害者福祉計画について講義を行う。
地域福祉と包括的支援体制	中村 哲也	2	3	4	60	○				行政職員、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー等の実務経験を話し、実務経験を軸として、教科書などには書かれていないような制度の背景や理由についてもコメントしていきたい。
高齢者福祉	磯 玲子	2	3	4	2	30	○			介護老人福祉施設や認知症対応型通所介護事業所等における主任介護支援専門員(管理者)としての実務経験を踏まえ、高齢者福祉におけるソーシャルワークの視点・知識・技術について講義を行う。特に介護保険制度の概要や少子高齢化社会の現状を中心に学びを深める。
精神医学と精神医療	上里 彰仁	2	3	4	60	○				講師は精神科医として医療機関における実務経験がある。実務経験を軸として、教科書などには書かれていないような制度の背景や理由についてもコメントしていきたい。
現代の精神保健の課題と支援	山本 由紀	2	3	4	60	○				精神保健福祉士として、医療機関・精神保健行政機関・独立型相談機関等における実務経験を有する教員が、臨床現場での経験から、現代精神保健の課題とその支援の要因についてコメントする。
精神保健福祉の原理	山本 由紀	2	3	4	60	○				精神保健福祉士として、医療機関・精神保健行政機関・独立型相談機関等における実務経験を有する教員が、精神保健福祉士として、障害者施設等における実務経験のある教員が、臨床現場での経験や職能団体の活動体験から、精神保健福祉の原理を基盤として、学びを深める。
高齢者援助論	磯 玲子	2	3	4	2	30				介護老人福祉施設や認知症対応型通所介護事業所等における主任介護支援専門員(管理者)としての実務経験を踏まえ、高齢者援助において必要な介護保険制度や施設・事業者の概要、関係機関の役割について講義を行う。
障害者援助論	若林 功	2	3	4	2	30				専門機関の現場における相談援助職としての実践経験に基づく指導(現場でのコピ、利用者像などの解説等)を行い、学生が事例をより現実的にイメージできるようにする。
心理学と心理的支援	須藤 昌寛	2	3	4	2	30	○			社会福祉士としての実務経験を軸として、心理学の諸理論を具体例を用いながら説明していく。
カウンセリング論	須藤 昌寛	2	3	4	2	30				カウンセリングの諸理論について、公認心理士や社会福祉士等の実務経験を軸に、実際の相談場面を音読しながら説明していく。
変遷論	二浦 拓也	2	3	4	2	30				変遷論である講師自身が経験・担当した症例を交えるなど、実務経験を加味し授業展開をする。
医療福祉管理会計論	山本 康弘	2	3	4	2	30				担当教員は官民の経営主体による医療機関運営の実務経験を有する(会計・医事課等)において経営計画・予算計画等に関する実務に携る。
医療福祉財務会計論	松岡 一路	2	3	4	2	30				担当教員はかつて総合商社に勤務し、事業投資先に対する監査、そして取引先に対する信用調査や財務アドバイスの経験がある。タイに設立した新会社に役員として出向し、財務諸表の分析がいかに経営に役立つかがよく理解している。簿記・会計では「勘定科目」を用いて取引を記録する。学生の皆さんは実務経験がないので、この「勘定科目」の理解に苦労する。実務で得た知識・経験をもとに、学生の皆さんにもわかりやすく、その意味を説明する。英文会計では「勘定科目」を基盤としていたと古くからの認識は日本式で行います。
会計学	松岡 一路	2	3	4	2	30				担当教員はかつて総合商社に勤務し、事業投資先に対する監査、そして取引先に対する信用調査や財務アドバイスの経験がある。タイに設立した新会社に役員として出向し、財務諸表の分析がいかに経営に役立つかがよく理解している。簿記・会計では「勘定科目」を用いて取引を記録する。学生の皆さんは実務経験がないので、この「勘定科目」の理解に苦労する。実務で得た知識・経験をもとに、学生の皆さんにもわかりやすく、その意味を説明する。英文会計では「勘定科目」を基盤としていたと古くからの認識は日本式で行います。

ソーシャルワーク実習指導	須藤 昌寛/若林 功 銭本 隆行/高石 麗理湖 中山 和幸/中村 哲也 磯 玲子	2 3 4	3	90	社	-	-	社会福祉士(介護老人保健施設における支援相談員および居宅介護支援事業所における主任介護支援専門員)としての実務経験を踏まえ、ソーシャルワーク実習における指導を行う。
ソーシャルワーク実習Ⅰ	銭本 隆行/須藤 昌寛 若林 功/高石 麗理湖 中山 和幸/中村 哲也 磯 玲子	2	2	90	社	-	-	社会福祉士(介護老人保健施設における支援相談員および居宅介護支援事業所における主任介護支援専門員)としての実務経験を踏まえ、ソーシャルワーク実習における指導を行う。
簿記演習Ⅱ(応用)	松岡 一路	2 3	2	60	-	-	-	簿記・会計では「勘定科目」を用いて取引を記録する。学生の皆さんは実務経験がないので、この「勘定科目」の理解に苦労する。会計監査の実務で得た知識・経験をもとに、学生の皆さんにもわかりやすく、その意味を説明する。また誤りや不正や不正行為や「問題となる点」について実例を交えながら解説する。
経営戦略論	中田 健吾	3 4	2	30	○			実務での具体的な事例を提示しながら、基本的概念をより実践的に実務的に習得できるようにする。このために、社会調査分野で実務にあたる外部客員スピーカーによる講義を適宜、実施する。
介護の基本Ⅲ(リソースマネジメント・連携等)	中西 正人	3	4	60	-	-	○	介護老人福祉施設や認知症対応型通所介護事業所等における介護福祉士としての実務経験を活かし、専門職として必要となる法制度やリソースマネジメントに関する知識について、適宜事例を示しながら伝えていく。
介護過程Ⅱ(介護過程の実践的展開)	畠山 博之	3	4	60	-	-	○	介護支援専門員(施設・在宅)、介護福祉士(施設)の実務経験を有する教員が、施設・在宅におけるプランニング作成の経験から、ケアマネジメント、ケアプラン、介護過程の相違点を明確にして「介護過程とは何か」明確にできる授業を展開する。
介護過程Ⅲ(介護過程とチームアプローチ)	畠山 博之	3	2	30	-	-	○	介護支援専門員(施設・在宅)、介護福祉士(施設)の実務経験を有する教員が、施設・在宅での支援プランニング作成の経験から、職種間連携の必要性及び重要性と介護過程の関連性を主とした授業を展開する。
介護総合演習Ⅱ(応用)	中西 正人 武田 真理子 畠山 博之 新井 祥子	3	2	60	-	-	○	介護老人福祉施設や認知症対応型通所介護事業所等における介護福祉士としての実務経験を活かし、介護実習に必要な法制度などの知識や介護福祉職の業務内容および役割などについて、適宜事例を示しながら伝えていく。
生活支援技術Ⅵ(形態別に応じた介護)	畠山 博之	3	4	60	-	-	○	施設・在宅、病院における介護や相談の経験から、基本的手法から障害形態別に応じた手法への変換ポイントとなる部分を授業で展開する。
医療的ケア論Ⅱ	新井 祥子	3	2	30	-	-	○	高齢者施設での経験をもとに、介護福祉士が医療的ケアが必要な人が安全で安楽な生活を支えることができるよう、知識・技術や医療職との連携等について講義する。
医療的ケア論Ⅲ	新井 祥子	3	2	30	-	-	○	高齢者施設での経験をもとに、介護福祉士が医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えることが出来るよう、知識・技術や医療職との連携等について講義する。
医療的ケア論Ⅳ(演習)	新井 祥子	3	1	30	-	-	○	高齢者の介護施設での看護師経験及び、介護福祉士の実務者研修指導看護師としての経験をもとに、安全で適切な医療的ケアの実施を指導する。
介護実習Ⅱ(ケアプラン作成)	中西 正人 武田 真理子 畠山 博之 新井 祥子	3	4	180	-	-	○	介護老人福祉施設や認知症対応型通所介護事業所等における介護福祉士としての実務経験を活かし、介護実習に必要な法制度などの知識や介護福祉職の業務内容および役割などについて、適宜事例を示しながら伝えていく。また、介護過程を展開するうえで、実務経験を活かし、計画作成の視点や作成方法について教授する。
介護実習Ⅲ(ケアプラン実施)	中西 正人 武田 真理子 畠山 博之 新井 祥子	3	4	180	-	-	○	医療・福祉の連携を中心に、共通する専門用語の理解、介護福祉士が実施できる行為の範囲の理解と観察項目の医療職への報告・連絡、介護福祉士の法的基準と倫理について深く考えることができる展開とした。
診療情報管理Ⅰ(法令・諸規則)	高橋 幸恵	3	2	30	○			本講義は診療情報管理士として必要な知識である法令、諸規則を学ぶ。教員が病院勤務で担当していた診療記録の指示や管理方法について経験を共有し、その内容を講義中に扱う。
診療情報管理Ⅱ(診療情報管理士の実務)	高橋 幸恵	3	2	30	○			本講義は診療情報管理士がどのような実務を行うか基礎から応用まで学ぶ講義である。教員も診療情報管理士として病院に勤務していた経験があり、チーム医療の一員としての診療情報管理士の役割について、培った経験を生かした内容を講義中に扱う。
診療情報管理Ⅲ(DPC・医師事務作業補助)	高橋 幸恵	3	2	30	○			本講義は診療情報管理士が実務に携わることが多い、DPC、医師事務作業補助者、がん登録について学ぶ。専門要素が高い科目であるため、教員が病院に勤務し業務に携わった経験を共有し、実際に診療情報管理士が取り扱うような業務・取り組みを講義を行う。
病院原価計算概論	山本 康弘	3	2	30	○			国民生活の経営主体における医療機関運営の実務経験(医師等において病院経営戦略に関する業務に従事。病院原価計算手法を活用したコスト分析の実務経験を有する。担当教員の実務経験を基にした教材を講義で活用し、実践的な事例紹介を繰り返しながら授業を展開する。
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	若林 功	3 4	4	60	○			専門機関の現場における相談援助職としての実践経験に基づく指導(現場でのコツ、利用者像などの解説等)を行い、学生が事例をより現実的にイメージできるようにする。
医療ソーシャルワーカー論	高石 麗理湖	3 4	2	30	○			医療ソーシャルワーカーとしての実践事例を講義で取り上げながら解説する。
権利擁護を支える法制度	磯 玲子	3 4	2	30	○			介護老人保健施設における支援相談員としての実務経験と居宅介護支援事業所における主任介護支援専門員(管理者)として高齢者の権利擁護に関わった実務経験を踏まえ、ソーシャルワークにおける権利擁護の視点、知識、技術等について講義を行う。
貧困に対する支援	伊奈川 秀和	3 4	2	30	○			厚生労働省において、社会保障の制度や政策の企画・立案に長年にわたり携わり、特に生活保護等の貧困者支援に関し、厚生労働省の生活保護の担当課長を務めたほか、子どもの貧困支援に関しては内閣府の担当官等の経験を踏まえ、制度や実践に関し、リアルな事例を講義で取り上げながら解説する。
刑事司法と福祉	島谷 綾郁	3 4	2	30	○			矯正施設内での社会福祉士・精神保健福祉士としての勤務経験、刑務所外の施設・機関(保護観察所や更生保護施設、福祉施設等)との連携などといった実務経験をいかし、司法領域において、どのような立場で、どのように福祉支援を考えているのかについて紹介していく。
社会福祉調査の基礎	須藤 昌寛	3 4	2	30	○			社会福祉士としての経験を基に、調査の具体的な方法や、調査面接の留意点等について具体例を用いながら説明していく。
福祉サービスの組織と経営	伊奈川 秀和	3 4	2	30	○			厚生労働省において、社会保障の制度や政策の企画・立案に長年にわたり携わり、この授業に関係する社会福祉関係の部局にも勤務したことがある。学生にはなじみが薄い法人制度についても、実務経験を踏まえわかりやすく解説していきたい。
メンタルヘルスソーシャルワークの理論と方法	山本 由紀	3 4	4	60	○			精神保健福祉士として相談援助業務の実務経験を有する。授業においては、臨床現場での経験から、現代精神保健福祉分野の課題と支援の実践についてコメントする。現場の経験や事例を基に講義を行う。
精神保健福祉制度論	渡辺 修宏	3 4	2	30	○			ソーシャルワーカーとして専門機関における実務経験、およびNPO、NPO等における臨床経験から、授業内容にかかわる臨床事例を随時紹介致します。具体的な、制度の変遷がどのような社会的背景、社会的事件によって成されてきたのかという説明とともに、担当教員の臨床経験がどのように変化がもたらされてきたのかについて紹介致します。
精神障害リハビリテーション論	渡辺 修宏	3 4	2	30	○			ソーシャルワーカーとして専門機関における実務経験、およびNPO、NPO等における臨床経験から、授業内容にかかわる臨床事例を随時紹介致します。
ソーシャルワーク演習Ⅲ	若林 功 須藤 昌寛 中村 哲也 高石 麗理湖	3 4	1	30	○			行政職員、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー等の実務経験を活かし、適宜事例を示しながら講義を行う。
ソーシャルワーク演習Ⅳ	若林 功 須藤 昌寛 磯 玲子 銭本 隆行	3 4	1	30	社	-	-	専門機関の現場における相談援助職としての実践経験に基づく指導(現場でのコツ、利用者像などの解説等)を行い、学生が事例をより現実的にイメージできるようにする。
ソーシャルワーク実習Ⅱ	磯 玲子/高石 麗理湖 若林 功/須藤 昌寛 山口 佳子/銭本 隆行 中山 和幸/中村 哲也	3 4	4	180	社	-	-	社会福祉士(医療ソーシャルワーカー)として保健医療機関において相談援助の実務経験を有する教員が、現場における事務、相談援助の経験やこれまでの現場の人々との関わりを踏まえ、適宜発言を行う。
保健医療と福祉	高石 麗理湖	3 4	2	30	○			社会福祉士(医療ソーシャルワーカー)としての実践事例を講義で取り上げながら解説する。
経営分析論	中田 健吾	3 4	2	30	○			担当教員は経営戦略・マーケティング戦略・PRコミュニケーションのコンサルタントとして活動するほか、企業のマーケティング担当者としての経験を有する。
財務管理論	松岡 一路	3 4	2	30	○			実務での具体的な事例を提示しながら、基本的概念をより実践的に実務的に習得できるようにする。このために、社会調査分野で実務にあたる外部客員スピーカーによる講義を適宜、実施する。
国際統計分類Ⅰ(国際疾病分類)	滝澤 雅美	3	2	30	○			担当教員は、総合商社に勤務し、海外事業投資案件を担当し、実際にタイ王国に設立した、合弁会社に役員として出向し、オフショアアロンの調達や決算業務なども主導した経験を持つ。
国際統計分類Ⅱ(分類コードの実際)	滝澤 雅美	3	2	30	○			オフショア理論は将来キャッシュフローを用いて企業価値を算定する。学生の皆さんは実務経験がないので、この「将来キャッシュフロー」ならびに「割引現在価値」などの理解に苦労する。実務で得た知識・経験をもとに、学生の皆さんにもわかりやすく、その意味を説明する。
国際統計分類Ⅰ特別講義(基礎)	滝澤 雅美	3	2	30	○			国際統計分類(ICD)が用いられている人口動態統計や患者調査、診断群分類包括支援制度(DPC/PDPS)等について、実際の活用事例を提示しながら講義を行う。特にDPC/PDPSにおけるICDの利用においては、担当教員の実務経験を基に例題を用いた講義を行う。
国際統計分類Ⅱ特別講義(応用)	滝澤 雅美	3	2	30	○			担当教員は、病院での実務経験があり、診療情報管理士(診療情報管理士指導者)の資格を有する。ICD-10の各章の特徴について医療機関で発生する病名を例題に取り上げながら、講義を行う。
診療情報管理演習Ⅰ(基礎)	國吉 保孝	3 4	2	30	-	-	-	担当教員は、病院での実務経験があり、診療情報管理士(診療情報管理士指導者)の資格を有する。医療機関で作成されている国際統計分類(ICD)を用いて講義を行う。
診療情報管理演習Ⅱ(分類法)	滝澤 雅美	3 4	1	30	-	-	-	教員が培った医師としての経験を基にした内容も講義中に扱う。医療現場で扱う主要な疾患を網羅的に学習し、病名に結びついた病態への理解を深められるよう、事例紹介を適宜行い、講義を展開する。
医療ソーシャルワーク実習指導	高石 麗理湖	3 4	2	60	-	-	-	講義では科目担当責任者の診療情報管理士実務経験等をもとに例題を用いながら講義を行う。
医療ソーシャルワーク実習	高石 麗理湖	3 4	4	180	-	-	-	医療ソーシャルワーカーとしての実務経験を講義で取り上げながら解説する。
医療福祉実習指導	中山 和幸 若林 功	4	1	30	-	-	-	医療ソーシャルワーカーとしての実務経験を基にした実習指導を行う。
医療福祉実習	中村 哲也 中山 和幸 若林 功	4	2	90	-	-	-	行政職員、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー等の実務経験を活かし、適宜事例を示しながら講義を行う。
社会福祉特別講義Ⅰ(人と社会)	山口 佳子	4	2	30	-	-	-	地域包括支援センター、介護老人保健施設等における相談援助の実務経験に基づき、ソーシャルワークの倫理、知識、技術について講義を行う。
社会福祉特別講義Ⅲ(地域福祉)	若林 功	4	2	30	-	-	-	地域自立支援協議会等の経験に基づき、地域包括支援、地域共生社会について講義を行う。
社会福祉特別講義Ⅳ(福祉とサービスの知識)	山口 佳子	4	2	30	-	-	-	専門機関の現場における相談援助職としての実践経験に基づく指導(現場でのコツ、利用者像などの解説等)を行い、学生が事例をより現実的にイメージできるように講義を行う。
社会福祉特別講義Ⅴ(関連サービスの知識)	山口 佳子	4	2	30	-	-	-	地域包括支援センター、介護老人保健施設等における相談援助の実務経験に基づき、ソーシャルワークの倫理、知識、技術について講義を行う。
社会福祉特別講義Ⅵ(関連サービスの知識)	山口 佳子	4	2	30	-	-	-	障害者地域自立支援協議会、障害者差別解消支援地域協議会での経験に基づき、地域包括支援、地域共生社会について講義を行う。

メンタルヘルスソーシャルワーク演習	山本 由紀 渡辺 修宏 木村 潤		4	3	90		精	-	-	担当教員は精神科病院(外来・慢性期病棟・アルコール病棟勤務)、独立型精神保健福祉士による相談室を主宰(ア ディクションやメンタルヘルスの問題のある当事者とその家族への相談・カウンセリング・心理教育実践)、精神保健福祉 センターや保健所・行政の女性相談・母親の心の相談等の実務経験を有する。 臨床での経験をもち、実践に即したソーシャルワークの援助技術を指導する。
メンタルヘルスソーシャルワーク実習指導	山本 由紀 渡辺 修宏 木村 潤		4	3	90		精			担当教員は精神科病院(外来・慢性期病棟・アルコール病棟勤務)、独立型精神保健福祉士による相談室を主宰(ア ディクションやメンタルヘルスの問題のある当事者とその家族への相談・カウンセリング・心理教育実践)、精神保健福祉 センターや保健所・行政の女性相談・母親の心の相談等の実務経験を有する。 臨床での経験をもち、実践に即したソーシャルワークの援助技術を指導する。
メンタルヘルスソーシャルワーク実習A	山本 由紀 渡辺 修宏 木村 潤		4	4	180		精	-	-	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人に かかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験か ら、支援の実際について具体例を示しながら指導を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れそ の意見を含めて指導を行う。
メンタルヘルスソーシャルワーク実習B	山本 由紀 渡辺 修宏 木村 潤		4	5	225		精	-	-	精神科病院・精神保健福祉行政機関・独立型精神保健福祉士相談室でのソーシャルワーク実践経験を有する教員 が、臨床現場での経験から、実践に即したソーシャルワークの援助技術を指導し、実習スーパービジョンを行う。
精神保健福祉特別講義Ⅰ(基礎)	木村 潤		4	2	30			-	-	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人に かかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験か ら、支援の実際について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れそ の意見を含めて講義を行う。

SW実習Ⅱ

卒業要件単位数	124	単位
実務経験のある教員等 による授業科目	341	単位

総合教育科目	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験の授業への展開	備考
				必修	選択			
人間系	文学論	山内 則史	1 2 3 4 5 6	2	30	2	新聞記者として文芸分野を10年間担当。記者時代の体験、過去の記事などを随時紹介する。新聞記事を使って、日々報じられる文学をリアルタイムで確認することで、社会の中にある文学の動向を意識しながら授業を展開する。	
	演劇論	山内 則史	1 2 3 4 5 6	1	15	1	新聞記者として演劇を担当。取材体験と過去の記事を随時紹介し、日々の新聞に掲載される演劇記事でリアルタイムの動きを参照しながら授業を展開したい。	
	雑談と傾聴 ～話す力と聴く力～	中野 真也	1 2 3 4 5 6	2	30	2	臨床心理士、公認心理師、日本家族療法学会認定スーパーヴィザン・ファミリーセラピストとしての臨床・指導経験から、患者・家族の関係やコミュニケーションを扱う家族療法家として、実務経験を活かしたコミュニケーションの講義を行う。	
	宗教学	東海林 良昌	1 2 3 4 5 6	2	30	2	世界仏教連盟等での国際経験、全日本仏教会WFB日本センター委員として他教団交流を深める中で諸宗教対話を学び、寺院住職、自坊での介護者カフェの主宰、介護者サポートネットワーク・ケアむすび代表、全国介護支援団体連合会副学芸大学グリーンフック研究所グリーンケア人材養成講師、坂城病院倫理委員、塩竈市社協福祉協議会理事を務めながら、介護者支援、孤獨孤立支援、人生の最終段階における医療について、宗教者として議論を重ねてきた経験を踏まえ、医療従事者として患者のところに寄り添うということを意識しながら授業を展開する。	
	死生学 - 死を通して生を考える -	大園 康文	1 2 3 4 5 6	2	30	2	小児外科からがん治療、さらには緩和医療の臨床現場を経験しており、現在は在宅ケアを中心とした地域医療の実践から臨死生学の実践を継続している。小児外科や障害者医療の経験からつらい人生を生きかかっている患者や家族、緩和医療や高齢者における終わりの人生の迎え方を語る。	
	法学	森川 伸吾	1	2	30	2	弁護士としての実務経験から、条文の読み方の解説や事例についてのコメント等において、実務感覚が反映される。	
	日本国憲法	森川 伸吾	1 2 3 4 5 6	2	30	2	弁護士としての実務経験から、事例について講評する際に、実務感覚が活かされる。	
	日本政治経済論	光山 奈保子	1 2 3 4 5 6	2	30	2	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表出できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
	マスメディア論	佐藤 伸	1 2 3 4 5 6	2	30	2	新聞社の記者として、地方記者、海外特派員を経験を生かし、授業の合間に、講師が記者として体験したことなどをニュースの裏側に関する話を随時します。また、時事問題を扱うことから、できるだけホットな話題を取り上げたうえで、内容が前後したり、入れ替わる可能性があります。時間が許せば、テーマに沿った模擬記者体験も取り組む。	
	福祉経済学	光山 奈保子	1 2 3 4 5 6	2	30	2	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表出できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
社会系	アジア諸国の経済・社会・文化	山本 秀也	1 2 3 4 5 6	2	30	2	国際ジャーナリストとしてアジア諸国・地域（中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール）など海外に長く駐在し、現在も中国研究者として中国が地域に与える影響などをテーマとしています。地域研究の出発点となった中国哲学の視点から、現代アジアを見渡し、経済、社会、文化などいづれの領域にもさまざまな分野で教養が蓄積されていることを目指します。	
	国際関係論	山本 秀也	1 2 3 4 5 6	2	30	2	国際ジャーナリストとして、アジア諸国・地域（中国・北京、香港、台湾・台北、シンガポール）と米国（ワシントン）に長期駐在し、アジアを中心とした国際問題の新聞論評（社説）を執筆する論説委員を務めた。専門分野は現代中国研究と国際安全保障。国際政治、安全保障の時論を国際関係の基礎理論と有機的に結びつける。	
	世界の経済	光山 奈保子	1 2 3 4 5 6	2	30	2	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表出できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
	国際医療福祉論	後藤 純信	1 2 3 4 5 6	2	30	2	大学や病院等で医師（脳神経外科・臨床神経生理）の知識・技術に関する以下の実務経験を有しており、その経験を生かして授業においては実際事例などを織り交ぜて、「国際医療福祉論」の講義を展開する。	
	ボランティア論	中村 哲也	1 2 3 4 5 6	2	30	2	社会福祉協議会ボランティアセンターでの実務経験を活かし、適宜事例を示しながら講義を行う。	
	ボランティアコーディネート論	中村 哲也	1 2 3 4 5 6	2	30	2	社会福祉協議会におけるボランティア活動推進業務経験を生かした講義。	
	手話入門	荒川 涼子	1 2 3 4 5 6	2	30	2	地域の手話ボランティア養成講習会講師、手話通訳者の立場、また障害者に対する生活支援から、厚生労働省策定手話奉仕員養成カリキュラムを参考に、医療・介護の現場に役立つ手話や知識を展示していく。	
	経済の仕組み	光山 奈保子	1 2 3 4 5 6	2	30	2	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表出できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
	経済の歴史	光山 奈保子	1 2 3 4 5 6	2	30	2	日本企業、外資系企業、及び内閣府にて、情報通信分野・男女共同参画のアナリストとして市場や政策の動向の分析に従事。海外での勤務経験や海外顧客等との交流を通じて、海外の人々が自分の専門分野以外のことにも自分の意見を明確に持ち表出できることに衝撃を受けた。授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておきたい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。	
	自然・情報系	疫学・保健医療統計学	島田 直樹	1 2 3 4 5 6	2	30	2	様々な業種の企業、特別地方公共団体、特別民間法人において、嘱託産業医としての実務経験がある。産業医は、労働現場において生じる様々な健康問題に対して、疫学的手法を用いて、原因の解明および対策の樹立を行っている。その経験を授業で適宜紹介する。
化学		猪股 浩平	1	2	30	2	授業担当は企業において有用な医薬品候補化合物のデザインおよびその精密合成に従事した経験を有している。実務経験を踏まえ、薬学に必要な化学の基礎的内容について、必須項目を中心に教授する。	※専門科目にカウント
総合系	医療福祉教養講義	沢谷 洋平	1 2 3 4 5 6	1	15	1	青年海外協力隊での活動経験を伝達する。	
	メディカルマナー入門	橋本 光康	1 2 3 4 5 6	2	30	2	航空会社国際線客室乗務員としての勤務経験や、医療機関で各種医療従事者と協働し、患者様接客、クレーン対応等の実務経験をとも教員が担当する。国際線客室乗務員時代に身に着けた日本式おもてなしのマナー、世界のマナー・プロトコルの実体験を、グループワークの実験を通じて、社会人に必要なビジネスマナーを身につけるべく、講義・演習・ケーススタディを駆使して授業を展開する。	
	総合講義 超高齢社会で認知症と向き合う	橋本 光康	1 2 3 4 5 6	1	15	1	病院、施設及び専門機関での臨床、勤務経験を有する各教員が臨床又は実務経験を活かして、テーマに沿った授業を展開する。	
専門基礎/学部共通	微生物と病気	山岸 裕和	1 2 3 4 5 6	2	30	2	小児科医として日常的に感染症患者の診療を行っている。小児感染症認定医の資格を有する。診療の他、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルスに関する基礎研究も行っている。実務経験に基づき感染症の現状、問題点に関して、分かりやすく解説するとともに、現実的対応について討議する。	
	関連職種連携	橋本 光康	2	2	30	2	各教員は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、診療情報管理士、精神保健福祉士、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど、生活相談員など各専門職の臨床経験を有する。勤務や通学で勤務する各専門職の有資格者の臨床経験を踏まえ、講義・演習・ケーススタディを駆使して授業を展開する。看護師・保健師・助産師での実務経験に基づいた講義を展開することでわかりやすく、イメージしやすく、各看護の専門領域について理解することが出来る。	
	看護論	林 圭子	1	2	30	2	介護老人保健施設における支援相談員および居宅介護支援事業所における主任介護支援専門員（管理者）としてケアマネジメントに関わった実務経験を踏まえ、事例を紹介する主任や機軸事例を用いたアプラン作成の一連のプロセスについての講義を行う。	
	ケアマネジメント論	磯 玲子	2 3 4 5 6	1	15	1	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実際について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実務者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。	
	ケースワーク論	木村 潤	1 2 3 4 5 6	1	15	1	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実際について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。	
	保健医療福祉制度論	木村 潤	1 2 3 4 5 6	2	30	2	精神障害者地域生活支援センター、相談支援事業所での業務に従事し、精神保健福祉を中心とした障害のある人にかかわる相談援助業務として、個別の支援と地域での支援体制づくりの経験を有する教員が、相談援助業務の経験から、支援の実際について具体例を示しながら講義を行う。また、近年の課題については実践者からの情報を取り入れその背景を含めて講義を行う。	
	社会福祉学	若林 功	1 2 3 4 5 6	2	30	2	専門機関における相談援助（様々な事例における面接・ソーシャルワークの展開、施設内・機関間・地域連携、施設運営等の活動等）について経験を有する教員が、相談援助職としての実務経験を踏まえ、各回の臨床に照らし合わせ、事例など具体的な情報を加味した講義を行う。	
	臨床心理学概論	杉野 珠理	1	2	30	2	臨床心理士、公認心理師の資格を有し、企業、自治体においてカウンセリング業務に従事する教員が、学生が研修や臨床現場で出会う援助対象者の心理について、具体的にイメージできるよう、講師自身の臨床経験を活かして講義を展開する。	※専門科目にカウント
	関連職種連携ワーク	橋本 光康	3	1	30	3	チーム担当教員は、看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・視能訓練士・臨床検査技師・診療放射線技師・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・薬剤師・診療情報管理士等であり、多くの教員が実務経験がある。各チーム担当教員の多くが現場での実務経験があり、グループワークの中では、その経験を交え、学生にアドバイスをし、技術磨炼を活かしていく。	
	関連職種連携実習	家入 香代	5	1	45	1	各グループの実習担当教員の多くは、病院や福祉施設等での実務経験を有する。実習担当教員の実務経験や、現場の実習指導者のアドバイスにより、学生の討議をより活発にしていける。	
専門	分析化学Ⅰ（化学平衡と滴定）	加藤 芳徳	1	2	30	2	食品残留農薬、食品残留抗菌薬および食品中ダイオキシン類の分析経験から、分析法バリデーションおよび各種分析手法に関する基礎的知識および応用例について、講義を展開する。	
	有機化学Ⅲ（芳香族化合物）	猪股 浩平	2	2	30	2	企業において有用な医薬品候補化合物のデザインおよびその精密合成に従事した実務経験を踏まえ、薬学に必要な有機化学の基礎的内容について、必須項目を中心に教授する。	
	臨床薬学Ⅰ（調剤の基礎）	杉山 奈津子	3	2	30	2	病院において病棟常駐薬剤師や乳癌専門外来での外來薬剤師、NST等に従事した経験や、副作用マネジメントにおいては、副作用の早期発見に努め、医師に処方提案等を行ってきた経験から、実際に経験した事例を交え、講義・演習等を実施する。病棟常駐やNST等のチームワークの関わりについては第1回、副作用マネジメントについては第10回に講義する。	
	医薬品情報学Ⅰ（医薬品情報の収集と活用）	伊東 岳	3	2	30	2	病院薬剤師として、医薬品情報管理業務（医薬品情報管理室所属）に従事している経験から、実際に経験した事例等を交え、講義・演習を実施する。	
	衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）	小林 章男	3	2	30	2	製薬メーカーにおいて、化学物質の安全性評価や副作用を回避するリスクマネジメントプランの立案を行う経験をする。化学物質の安全性評価を目的とした非臨床毒性試験法や、評価結果から設定される一日許容摂取量などについて、実務経験に基づき、具体的な評価事例を示して解説する。	

授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	実務経験の授業への展開	備考	
			必修	選択				
OTC医薬品概論	加藤 芳徳	3	2		30	担当教員はいずれも臨床現場（薬局・病院）での実務経験があり、OTC医薬品の販売の経験を活かし、講義とともに、問題解決型学習および体験学習を実施する。		
医療系薬学実習Ⅰ（調剤の基礎と情報収集）	加藤 芳徳	3	1		45	病院薬剤師、薬局薬剤師の実務経験で得られた体験を通して、今学んでいる知識等がどのように実臨床で活用されるのかについて伝えるよう努めている。		
医薬品安全性学	小林 章男	4	2		30	製薬メーカーにおいて、医薬品候補化合物の安全性評価や副作用を回避するリスクマネジメントプランの立案を行った経験を有する教員が、医薬品候補化合物の安全性評価法や、評価結果から立案されるリスクマネジメントプランなどについて、実務経験に基づき、具体的な事例を示して解説する。		
臨床薬学Ⅱ（調剤の実践）	倉本 敬二	4	2		30	病院薬剤師の実務経験で得られた体験を通して、今学んでいる知識等がどのように実臨床で活用されるのかについて伝えるよう努めている。また、教材に使用するシナリオも自身が経験した症例を匿名化し活用している。		
臨床薬学Ⅲ（薬物療法の実践）	高崎 新也	4	2		30	病院勤務にて、薬剤管理指導等の薬学的管理を実践した経験から、教科書以外の臨床実例等を加えて講義を行う。		
臨床薬学Ⅳ（チーム医療・地域医療の実践その前に）	倉本 敬二	4	5	1	15	病院薬剤師の実務経験で得られた体験を通して、今学んでいる知識等がどのように実臨床で活用されるのかについて伝えるよう努めている。		
医療関係法規	坂本 真史	4	2		30	薬剤師や看護師としての実務経験を踏まえ、医療現場における事例についても紹介する。		
漢方医学Ⅱ（漢方の応用）	石崎 健一	4	1		15	漢方相談や漢方製剤・生薬などの販売経験や実際に経験した症例などを紹介し、漢方薬を使用する際の理解に努めたい。また、病院での診療、薬局の漢方調剤などの相違を紹介し、今後の薬剤師としての選択を広げられる機会にしたい。		
医療系薬学実習Ⅱ（調剤の実践と服薬指導）	倉本 敬二	4	1		45	病院薬剤師の実務経験で得られた体験を通して、今学んでいる知識等がどのように実臨床で活用されるのかについて伝えるよう努めている。		
病院・薬局事前実習Ⅱ（実務実習に必要な基本的技能）	高崎 新也	4	2		90	病院薬剤師の実務経験で得られた体験を通して、今学んでいる知識・技能・態度等がどのように実臨床で活用されるのかについて伝えるよう努めている。		
病院・薬局実務実習Ⅰ（主に病院での実習）	倉本 敬二	5	6		10	450	病院薬剤師の実務経験で得られた体験を通して、今学んでいる知識等がどのように実臨床で活用されるのかについて伝えるよう努めている。	
病院・薬局実務実習Ⅱ（主に薬局での実習）	倉本 敬二	5	6		10	450	病院薬剤師の実務経験で得られた体験を通して、今学んでいる知識等がどのように実臨床で活用されるのかについて伝えるよう努めている。	

卒業要件単位数	191	単位
実務経験のある教員等による授業科目	107	単位

授業科目の名称		教員名	配当年次	単位数			時間	実務経験のある教員等による授業科目	
				必修	選択	自由			
総合 教育 科目	医療プロフェッショナリズムⅠ（入門）	清水 伸幸	1	2			60	多数の臨床経験豊富な教員の実体験に基づいて、医学生の時点で身につけておくべき医師としての考え方や態度を示します。	
	医療プロフェッショナリズムⅡ（応用）	荻野 美恵子	2	1			30	多数の臨床経験豊富な教員の実体験に基づいて、医学生の時点で身につけておくべき医師としての考え方や態度を示します。レポートや試験については複数の教員で確認して点数化して評価対象としますが、重大な問題を感じる提出物があった場合には、個別に複数の教員で面談を行います。また外部講師をお招きして通常では聴講できないようなご講演も予定しています。	
専門 基礎	基礎医学総論Ⅵ（組織学）	小阪 淳	1	1			15	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
	基礎医学総論Ⅶ（組織学演習）	小阪 淳	1	1			30	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
	基礎医学総論Ⅷ（病理学）	福澤 龍二	1	1			15	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
	基礎医学総論Ⅸ（病理学演習）	潮見 隆之	1	1			30	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
	生殖・妊娠・分娩	永松 健	1	1			15	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
	器官別統合講義Ⅰ（循環器系）	河村 朗夫	1	5			75	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
	器官別統合講義Ⅱ（呼吸器系）	坂尾 誠一郎	2	5			75	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
	器官別統合講義Ⅲ（消化器系）	海老沼 浩利	2	5			75	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
	器官別統合講義Ⅴ（腎泌尿器系）	鷺田 直輝	2	3			45	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
	器官別統合講義Ⅶ（運動器・皮膚・膠原病）	廣瀬 晃一	2	4			60	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
	器官別統合講義Ⅸ（感覚器系）	白井 智彦	3	3			45	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
	器官別統合講義Ⅹ（血液系）	中世古 知昭	3	3			45	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
	人体解剖学実習	小阪 淳	2	3			135	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
	専門	胎児・小児の成長と疾患(成育と臨床)	塩浜 直	3	2			30	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する
		感染症	松本 哲哉	1	3			45	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する
		腫瘍と臨床(放射線治療・緩和)	樋口 肇	3	3			45	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する
救急と集中治療		志賀 隆	3	1			15	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
老年医学		浦野 友彦	3	1			15	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
社会医学Ⅰ（医療管理学）		池田 俊也	3	1			15	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
社会医学Ⅱ（衛生学・公衆衛生学）		井谷 修	3	3			45	多数の経験豊富な教員の実務経験を踏まえ分かりやすく教授する	
社会医学Ⅳ（臨床疫学・EBM）		桜井 亮太	3	1.5			23	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する	
症候と臨床推論	矢野 晴美	3 4	8			240	医師としての臨床経験を踏まえ分かりやすく教授する		

卒業要件単位数	227	単位
実務経験のある教員等	62.5	単位

授業科目の分類	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	内容
				必修	選択		
人間系	文学論	山内 則史	1 2 3 4		2	30	記者時代の経験、過去の記事などを随時紹介する。新聞を使って、日々報じられる文学の記事をリアルタイムで確認し、社会の中にある文学の動向を意識しながら授業を展開する。
	演劇論	山内 則史	1 2 3 4		1	15	取材経験と過去の記事を随時紹介し、日々の新聞での演劇に関する記事でリアルタイムの動きを参照しながら授業を展開したい。
	心理学	松山 高大	1 2 3 4		2	30	臨床心理士として対応した事例（研究公表許可を得たもの）や臨床経験をj用いて解説する。
	コミュニケーション概論	成田教員	1 2 3 4		2	30	心理臨床で培った経験をもとに、自己理解を深めることに焦点を当てながら講義を行う。
	雑談と傾聴-話す力と聴く力-	中野 真也	1 2 3 4		2	30	患者・家族の関係やコミュニケーションを扱う家族療法家として、実務経験を活かしたコミュニケーションの講義を行う
	人間学	伊豫 雅臣	1 2 3 4		2	30	様々な重症度の精神疾患を有する人たちの診断治療やアドバイスをやってきており、その経験を伝えるとともに、その視点からご自身や周りの人たちのメンタルヘルスの向上に目を向けられるように展開していきたい。
総合教育科目	法学	森川 伸吾	1 2 3 4		2	30	事例について講評する際に、実務感覚が活かされる。
	法と道徳・倫理	坂本 真史	1 2 3 4		2	30	薬剤師や弁護士としての実務経験を踏まえ、医療現場における事例についても紹介する。
	医療関連法規	森川 伸吾	1		2	30	法文の読み方の説明の場面において実務経験が活かされる。
	我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	岡田 佳詠	1		1	30	各教員が実務経験に基づき授業展開する。
	経済の仕組み	光山 奈保子	1 2 3 4		2	30	授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。
	経済の歴史	光山 奈保子	1 2 3 4		2	30	授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、ミニッツ・ペーパーなどを通じて自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。
	世界の経済	光山 奈保子	1 2 3 4		2	30	授業では、実務経験を通じて「世界標準の社会人としてこれだけは最低限知っておいてほしい」と感じた経済学の知識や考え方を取り上げる。また、双方向型授業によって自分の意見を表現するトレーニングを行い、世界標準の度胸を身につけることを目指す。
	アジア諸国の経済・社会・文化	山本 秀也	1 2 3 4		2	30	地域研究の出発点となった中国哲学の視点から、現代アジアを見渡し、経済、社会、文化などいずれの領域にもさまざまな形で儒教が影響していることを紐解きます。
	世界の中の和文化	山本 秀也	1 2 3 4		1	15	個々の外部講師が解説する文化事象について、世界的な座標における文化の位置づけを把握し、講座全体をコーディネートします。
	経営の仕組み		1 2 3 4		2	30	
	組織運営管理論	赤沼 裕子	1 2 3 4		2	30	赤沼：医療従事者として培った知識の解説 和田：Dx・テクノロジー専門家として培った知識の解説
	マスメディア論	山本 秀也	1 2 3 4		2	30	講座ではマスメディア論の基本となる概念を大学での学びにふさわしい形で講じるが、ジャーナリズムの現場にかかわる部分で、現実に即した解説を用新聞の取材、編集に携わった経験から、課題の記事について、「読む側」と「書く側」の双方の視点を提供する。受講生相互や教員との対話を通じて、受講生のリテラシー（読解力）の向上を図る。
	新聞でみた日本と世界	山本 秀也	1 2 3 4		2	30	
	国際関係論	山本 秀也	1 2 3 4		2	30	国際政治、安全保障の時論を国際関係の基礎理論と有機的に結びつける。大学や病院等で医師（脳神経外科・臨床神経生理）の知識・技術と海外留学
	国際医療福祉論	後藤 純信	1 2 3 4		2	30	経験に関する実務経験を有しており、その経験を生かし授業においては実際事例などを織り交ぜて、「国際医療福祉論」の講義を展開する。
	ボランティアコーディネート論	中村 哲也	1 2 3 4		2	30	社会福祉協議会におけるボランティア活動推進業務経験を生かした講義。さらに自身のボランティア活動経験からの課題などを生かした講義を展開す
	手話入門	飯塚 佳代	1 2 3 4		2	30	医療現場に必要な手話表現や聴覚障害者理解について、実体験を元に様々なケースを紹介。近年コロナ禍でマスク生活となり、変化が生じている聴覚障害者の困りごとや、マスク時代のコミュニケーションに必要なことなどにも
	自然・情報系	疫学	細谷 幸子	1		2	30
物理学		拝師 智之	1 2 3 4		2	30	様々な現象の背後にある物理法則を、日常的な現象を例示しながら、自力で捉えられるように講義する。
化学		米根 鉄矢	1 2 3 4		2	30	これまでの分析化学の実施者としての経験を加え、分析の基本から最新技術の情報まで幅広く講義する。
生物学		湯澤 聡	1 2 3 4		2	30	大学院や医学系研究所での生命科学・基礎医学に関する研究経験をもとに「生物学」の講義を行う。
医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情		西田 裕介	1		1	30	各教員が実務経験に基づき授業展開する。
総合系	郷土論	山本 秀也	1 2 3 4		1	15	異なる分野で活躍した人々の知見や考察は、書物だけでは得られない新たな視点を与えてくれます。予備知識の少ない分野、あるいは自己と異なる見解であっても、招致した講師の講話を十分に理解し、検討することが知的エネルギーの源泉となるでしょう。
	医療福祉教養講義	平島 ユイ子	1 2 3 4		1	15	実務経験を活かして授業を展開する
	メディカルマナー入門	橋本 光康	1 2 3 4		2	30	別府美知子：国際線客室乗務員時代に身につけた日本式おもてなしのマナー、世界のマナー・プロトコルの実体験を、グローバルな医療現場での接遇、社会人に必要なビジネスマナーを身につけるべく、講義・演習・ディスカッション等に活かしている。

授業科目の分類		授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	内容
					必修	選択		
総合教育科	外国語系	英語会話1 (Primary)	フェルナンデス ゴンザレス バウラ	1 2 3 4		1	30	This English course follows a communicative approach which emphasizes class participation and various kinds of interaction, such as learner-content interaction, learner-instructor interaction and learner-learner interaction.
		英語会話2 (Basic)	フェルナンデス ゴンザレス バウラ	1 2 3 4		1	30	This English course follows a communicative approach which emphasizes class participation and various kinds of interaction, such as learner-content interaction, learner-instructor interaction and learner-
		スペイン語入門 (会話含む)	伊藤 アンジ	1 2 3 4		1	30	コミュニケーションアプローチ法を用いて、クラスでスペイン語圏の国の文化を伝えていきます。
		スペイン語基礎 (会話含む)	伊藤 アンジ	1 2 3 4		1	30	コミュニケーションアプローチと私の指導経験を使い、クラスでのスペイン語圏の国の文化を伝え、学生に伝えています
		タイ語入門 (会話含む)	掛谷 ナンティヤー	1 2 3 4		1	30	他の教育機関でタイ語授業の実施経験がある。過去の講師としての経験を活かしながら、生徒の学習目的に応じて授業を実施する。
		タイ語基礎 (会話含む)	掛谷 ナンティヤー	1 2 3 4		1	30	他の教育機関でタイ語授業の実施経験がある。過去の講師としての経験を活かしながら、生徒の学習目的に応じて授業を実施する。
専門教育科目	キャンパス共通設置科目	公衆衛生学	鈴木 知子	1		2	30	学問としてだけでなく、実践的な使い方など、実務経験に基づいて解説しま
		救急医学	志賀 隆	1 2 3 4		1	15	臨床経験を踏まえた講義を展開する。
		感染と免疫	長沢 光章	1		2	30	臨床検査実務経験があり、認定臨床微生物検査技師・ICMT認定・ICD (イン
		リハビリテーション概論	五味 幸寛	1 2 3 4		2	30	作業療法の実践経験から、リハビリテーションの理念を教授します。
		ケースワーク論	銭本 隆行	2 3 4		1	15	日本と海外の社会の隅々をみた経験とともに、デンマークの高齢者ケアの実
		保健医療福祉制度論	高石 麗理湖	1		2	30	回復期リハビリテーション病棟等において医療ソーシャルワーカーとして実
		社会福祉学	銭本 隆行	1 2 3 4		2	30	日本と海外の社会の隅々をみた経験とともに、デンマークの高齢者ケアの実
		関連職種連携ワーク	西田 裕介	3		1	30	臨床現場における自職種の役割と多職種との関わり、連携を実務経験に基づ
		関連職種連携実習	西田 裕介	4		1	45	病院に勤務する各専門職の有資格者により、実習場面において臨床的な指導
		エビデンスベースドプラクティス (研究と文献)	根本 友見	4		1	15	これまでの研究活動を踏まえた授業を展開する
		レクリエーション概論	堀田 英樹	1 2 3 4		1	15	実務経験をもとにレクリエーションの実践を教授する。
		国際医療保健学	福岡 希実子	1		1	15	海外・国内での実務経験を基にイメージしやすい講義を行う。
		異文化体験実習	小林 純也	1 2 3 4		1	45	本科目は科目担当教員が有する臨床等の経験、国内外の医療・保健・福祉に関
		行動科学とモチベーション	田沼 順子	1 2		1	15	臨床・公衆衛生の現場経験を活かした講義を展開する。
		キャリアデザイン	大谷 則子	1		1	15	実務で得た経験と自身のキャリアや研究成果を融合し、授業を展開する。
		からだの構造	吉岡 広陽	1		1	30	医学部において解剖学や組織学の講義・実習を担当する教員が、実務上の経
		からだの機能	中江 淳	1		1	30	これまでの研究・臨床経験を活かした授業を展開する。
		疾病・治療学Ⅰ (呼吸、循環)	島田 伊津子	1		2	30	実際の症例や事例などをもとに、具体的に説明する。豊富な視覚的資料や使
		疾病・治療学Ⅱ (消化、代謝)	赤沼 裕子	2		2	30	各講師は実務経験を踏まえた講義の展開をする。
		疾病・治療学Ⅲ (生殖、免疫、運動器)	菱谷 純子	2		2	30	実際の症例や事例などをもとに、具体的に説明する。豊富な視覚的資料や使
		疾病・治療学Ⅳ (脳神経系、精神系)	岡田 佳詠	2		2	30	実務経験を踏まえた講義展開
		人間と栄養	坂口 景子	1		1	15	国の行政に携わった経験を活かし、健康の保持・増進、疾病の予防・治療に
		薬理学	西村 和洋	2		2	30	授業時に必要な情報、生じる副作用を見出すポイントなど、臨床現場に即し
		人間発達学	菱谷 純子	1		1	15	実務経験に基づいて各ライフステージの人々とその家族の理解の仕方やその
遺伝と医療	西垣 昌和	1		1	15	講義内容に関連した、臨床でのエピソードを紹介する。		
基礎看護学	基礎看護学	看護学概論	大谷 則子	1		2	30	臨床現場での経験を活かし、現場の事例を示すことで難解な概念の理解を目
		看護理論	大谷 則子	1		1	15	臨床現場での経験を活かし、現場の事例を示すことで難解な理論の理解と実
		基礎看護学方法論Ⅰ (看護コミュニケーション)	島田 伊津子	1		1	15	臨床現場での実践から得られた知見を融合し、幅広い視点から授業を展開す
		基礎看護学方法論Ⅱ (看護過程)	大谷 則子	2		2	30	臨床現場での経験を活かし、人びとの生活上のニーズや諸問題を系統的に展
		基礎看護学演習Ⅰ (日常生活援助技術)	坂 美奈子	1		2	60	臨床現場での実践から得られた知見を融合し、幅広い視点から授業を展開す
		基礎看護学演習Ⅱ (ヘルスアセスメント)	島田 伊津子	1		1	30	臨床での事象を元にしたリアリティのある演習事例を使用し、臨床の対象者
		基礎看護学演習Ⅲ (医療支援技術)	古山 陽一	2		1	30	臨床現場での実践から得られた知見を融合し、幅広い視点から授業を展開す
		基礎看護学実習Ⅰ (入門)	坂 美奈子	1		1	45	臨床現場での経験を活かし、看護の視点をもった解説を適宜行い、目標達成

授業科目の分類	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	内容	
				必修	選択			
専門科目	基礎看護学実習Ⅱ（基礎）	大谷 則子	2	2		90	臨床現場での経験を活かし、人びとの生活上のニーズや諸問題を系統的に展開し、問題解決に向けた援助を実践するための方法や意義について実習指導者とともに指導する。	
	看護管理	看護情報リテラシー	古山 陽一	1	1		15	臨床現場での実践から得られた知見を融合し、幅広い視点から授業を展開す
		看護管理学概論	大谷 則子	4	1		15	臨床現場での経験と自身の看護管理に関する研究から得られた知見を融合し、幅広い視点から授業を展開する。
		看護管理学演習	大谷 則子	4	1	1	30	臨床現場での実践から得られた知見を融合し、幅広い視点から授業を展開す
		保健事業戦略とマネジメント	細谷 幸子	4	1	1	15	実務経験をもとに地方公共団体の保健事業の事例検討を展開する
	リプロダクティブヘルス	リプロダクティブヘルス看護学概論	菱谷 純子	1	1		15	実務経験に基づいた事象の説明を取り入れ、イメージ化を促進する。
		リプロダクティブヘルス看護学方法論	菱谷 純子	2	2		30	臨床現場の実務経験に基づいた事象の説明を取り入れ、イメージ化を促進す 母子とその家族への看護実践経験は学生が母子を支援する際に活用できる。
		リプロダクティブヘルス看護学演習	菱谷 純子	3	1		30	また看護師や助産師への教育的支援に関する研究成果の一部は学部学生への 援用が可能である。
	小児看護学	リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅱ（産科病棟外実習）	菱谷 純子	3	1		45	母子とその家族への看護実践経験は学生が母子を支援する際に活用できる。 また看護師や助産師への教育的支援に関する研究成果の一部は学部学生への 援用が可能である。
		小児看護学概論	中谷 章子	2	1		15	実務経験を踏まえ、理論および研究成果と合わせて、子どもと家族の特徴や健康課題について授業展開する。
		小児看護学方法論	中谷 章子	3	2		30	実務経験に基づいた様々な発達段階にある子どもと家族に対する看護支援を授業内で展開する
		小児看護学演習	中谷 章子	3	1		30	実務経験に基づいた様々な発達段階にある子どもと家族に対する援助技術をエビデンスを踏まえて展開する。
	成人看護学	小児看護学実習	中谷 章子	3	2		90	様々な発達段階、病状にある子どもと家族の理解とニーズのとらえ方など、実務経験ならびにエビデンスに基づいて実習指導を行う。
		成人看護学概論	益田 美津美	2	1		15	実務経験をもとに、テキストの内容を具体的な事例などに置き換えてわかりやすく教授する
		成人看護学方法論Ⅰ	益田 美津美	3	2		60	臨床経験を基に、テキストの内容を具体的な事例などに置き換えてわかりやすく教授する。
		成人看護学方法論Ⅱ	赤沼 裕子	3	2		60	臨床現場で求められる知識・看護師の役割などを臨床での実務経験に基づき授業を展開する
		成人看護学方法論Ⅲ	益田 美津美	3	1		30	講義では臨床の事例を取り入れて説明を行う。
		成人看護学実習Ⅰ	益田 美津美	3	2		90	臨床経験を基に、臨地実習指導者と協同し、受け持ち患者へのケアのあり方、原理原則とそれに基づく応用方法などを指導する。
		成人看護学実習Ⅱ	赤沼 裕子	3	2		90	担当する授業科目に関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行う
	老年看護学	成人看護学実習Ⅲ	赤沼 裕子	3	1		45	実習では臨床の経験をもとにアドバイスを行う。
		老年看護学概論	丹野 志保	2	1		15	講義内容に関連した臨床現場でのエピソード等を紹介する。
		老年看護学方法論	矢代 実希	3	2		30	複数の教員が担当しており、全員に病院勤務経験がある。講義内容に関連した臨床現場での看護のエピソードを紹介する。
		老年看護学演習	丹野 志保	3	1		30	演習を進める過程で、実際の臨床現場でおこなわれている工夫等を紹介す
	精神看護学	老年看護学実習	矢代 実希	3	2		90	臨地実習では、臨床での実務経験を踏まえ、具体的かつ分かりやすい説明を
		精神看護学概論	岡田 佳詠	2	1		15	精神看護領域の実務経験に基づく授業展開を行う。
		精神看護学方法論	根本 友見	3	2		30	精神看護領域の実務経験に基づく授業展開を行う。
		精神看護学演習	根本 友見	3	1		30	精神看護の実務経験を活かした授業を展開する
	看護国際	精神看護学実習	小林 みゆき	3	2		90	実務経験における病院、地域、企業における多様なこころの病を抱える人への看護の経験を活かし、患者の背景や病態の幅広い理解、看護過程を展開する際の視点や方向性などを示していく。
		国際看護学Ⅰ（異文化と看護）	稲岡 希実子	2	1		15	海外・国内での経験に基づき、異文化ケアの実際を教授する。
		国際看護学Ⅱ（活動の実際）	稲岡 希実子	2 3 4	1		15	海外・国内での経験に基づき、異文化ケアの実際を教授する。
	公衆衛生看護学	国際看護研修（途上国）	稲岡 希実子	3 4	2		90	実務経験に基づき途上国における健康課題・国際的な保健医療活動に関して、授業内で教授する
		災害看護	災害関連健康危機管理論	大谷 則子	4	1	15	担当する授業科目に関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行う。
		公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	細谷 幸子	2	2		30
産業・学校保健			細谷 幸子	2	2		30	各担当教員の実務経験を授業に反映
公衆衛生看護学活動方法論Ⅰ（公衆衛生看護技術）			長澤 ゆかり	2	2		30	それぞれの教員の実務経験を授業に反映させる
公衆衛生看護学活動方法論Ⅱ（地域アセスメント）			長澤 ゆかり	3	2		30	それぞれの教員の実務経験を授業に反映させる。
公衆衛生看護学活動対象論Ⅰ（発達段階別保健活動）			細谷 幸子	2	2		30	それぞれの教員の実務経験を授業に反映させる。
公衆衛生看護学活動対象論Ⅱ（健康課題別保健活動）			細谷 幸子	3	2		30	それぞれの教員の実務経験を授業に反映させる。
公衆衛生看護学活動対象論Ⅲ（地域包括ケア等）			長澤 ゆかり	2	4	1	15	それぞれの教員の実務経験を授業に反映させる。
家族看護論			細谷 幸子	2	1		15	それぞれの教員の実務経験を授業に反映させる。
公衆衛生看護学活動展開論			長澤 ゆかり	4	2		30	それぞれの教員の実務経験を授業に反映させる
公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政保健）			長澤 ゆかり	4	4		180	それぞれの教員の実務経験を実習指導に反映させる。
公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業保健）	細谷 幸子	4	1		45	それぞれの教員の実務経験を実習指導に反映させる。		
看護地域	地域・在宅看護学概論	石塚 真美	2	1		15	各回のテーマに関連した訪問看護の具体例や場面を適宜授業内で提示する。	
	地域・在宅看護学方法論Ⅰ	石塚 真美	3	2		30	各回のテーマに関連した訪問看護の具体例や場面を適宜授業内で提示する。	
	地域・在宅看護学方法論Ⅱ	石塚 真美	3	2		30	各回のテーマに関連した訪問看護の具体例や場面を適宜授業内で提示する。	
	地域・在宅看護学演習	石塚 真美	3	1		30	各回のテーマに関連した訪問看護の具体例や場面を適宜授業内で提示する。	
	地域・在宅看護学実習	石塚 真美	3	2		90	実習では実務経験や地域・在宅看護領域での実習指導経験を活かし、対象者への関わりや連携のあり方、看護過程を展開する視点や方向性などを示して	

授業科目の分類	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		時間	内容
				必修	選択		
統 合 分 野	看護総合実習	菱谷 純子	4	5		225	看護学の基盤となる臨床経験を生かして、実習指導者と協力して看護実践指導を実施。
	看護倫理学	大谷 則子	4	1		15	実務経験に基づく授業展開を行う。
	看護研究	細谷 幸子	4	2		30	それぞれの教員の調査研究における経験を授業に反映させる。
	研究ゼミナール	大谷 則子	4	1		30	各専門領域の実務経験に基づくディスカッション
	海外看護研修	稲岡 希実子	4		2	90	・異文化を背景に持つ方々への訪問国でのケアに関する理解促進のために助?する

卒業要件単位数	124	単位
実際履修のある教育等による授業科目	193	単位

		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		1	15		
		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		2	30		
		1		2	30		
		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		2	30		
		1	1		30		
		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		1	15		
		1 2 3 4		2	30	OV f 2	81
		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		2	30	OV f 2	
		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		2	30		
		1 2 3 4		2	30		
	!	1	1		30		
		1 2 3 4		1	15		
		1 2 3 4		1	15		
		1 2 3 4		2	30		





